

Ⅰ. 調査概要と調査結果のまとめ

Ⅰ. 1 調査概要

① 調査目的

平成15年7月に成立した「次世代育成支援対策法」に基づく、こどもハートプラン へきなんに基づいた次世代育成支援対策地域行動計画の策定にむけ、市内の子どもたちと子どもをもつ世帯の状況とニーズを把握するための基礎資料として実施した。

② 調査概要

調査は、就学前児童保護者、小学校低学年児童保護者、中高生、一般住民、ひとり親世帯等を対象に、5種の調査票により平成16年2月から3月に実施した。

	就学前児童 保護者	小学校低学年 児童保護者	中学2年生・ 高校2年生	一般住民 (19～29歳)	ひとり親 世帯等
目 的	安心して子どもを生み育てられる環境づくりを検討する資料として、保護者の意向等を把握する。また、国へ定量的目標値を報告する事業を含む。		子どもたちが自信にあふれて自立できる、そして次世代を育成できる社会づくりを検討する。	非婚化、晩婚化といわれる世代が、子どもをもつことをどう考えるかをさぐり、少子化対策等の意見を把握する。	児童扶養手当の支給対象要件が見直されるなか、ひとり親家庭等の自立支援の方策等について意見を把握する。
内 容	実施してきた市の子育て支援施策の評価を問い、今後の意向を問う。		家庭や地域での子どもの過ごし方、自立意識、将来のイメージなどの実態を探る。	結婚観、家庭観、少子化問題と地域の取り組み、今後の子育て環境の意向を問う。	ひとり親家庭等の状況、仕事、住居、相談などの状況と、今後の子育て環境の意向を問う。
対 象 数	800人	400人	200人	1,000人	100人
抽 出 率	18.1%	17.7%	12.0%	9.3%	21.9%
回 収 数	479票	215票	93票	327票	47票
回 収 率	59.9%	53.8%	46.5%	32.7%	47.0%

調査実施にあたり、こどもハートプラン へきなん策定時の調査内容との比較・検討と、次世代育成支援対策で必要となる項目を取り入れるように調査内容を精査して実施した。子どもの保護者調査は、現行計画策定時同様に回答率が高く、意識の高さがうかがえる。

③ 備考

各設問は全体集計とあわせて、年齢別・世帯別・居住地区別等の詳細な集計を行った。調査報告書には、各設問の全体集計の結果をグラフで示し、その後で詳細な集計から得られた側面的な傾向を示している。

また、グラフの数値や選択肢を省略して表示した箇所があるとともに、集計結果の数値は無限小数を四捨五入している関係で、グラフの計が100%にならない場合がある。一方、複数回答の設問は総回答数の母数に占める割合を示しており、100%を超える。

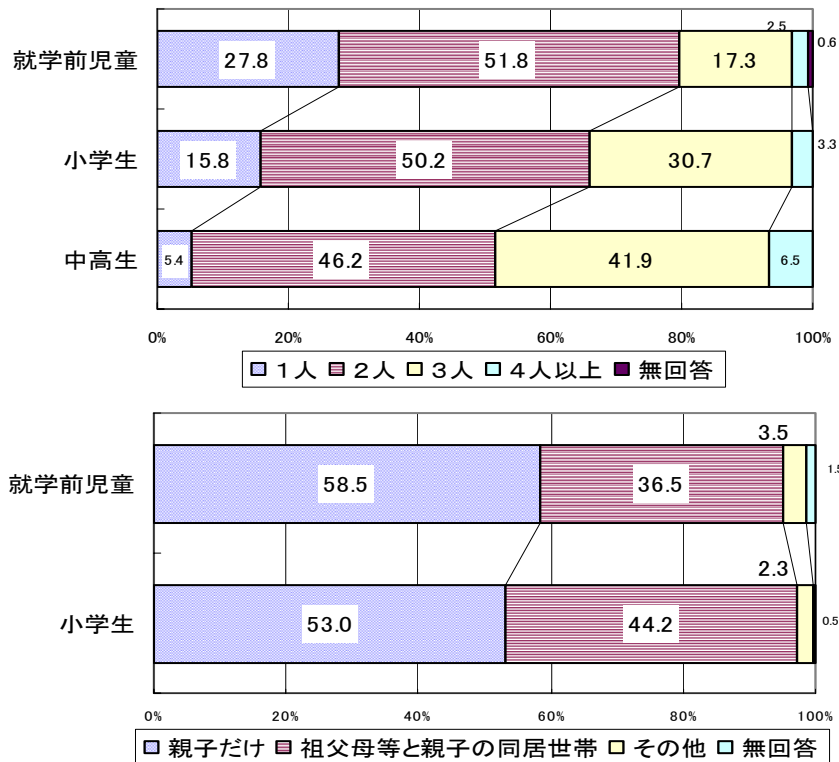
1.2 調査結果のまとめ

① 子どもと子育て家庭の現状

世帯に子どもは「2人」が多く、世帯は「親子のみ世帯」が50～60%とやや多い。

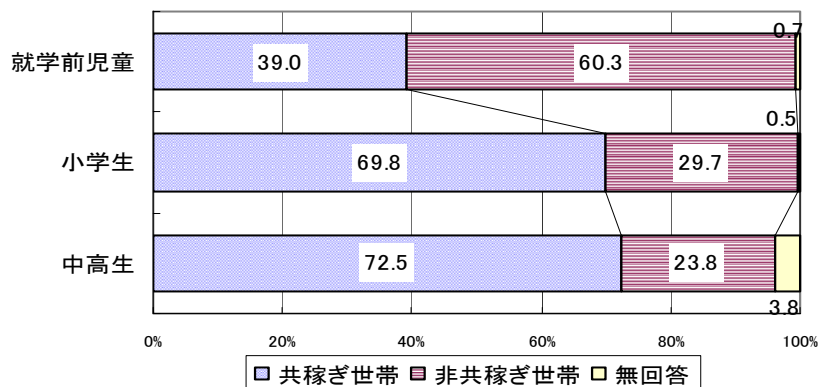
■ 就学前児童の世帯の子どもは「1人」が多いのは、子どもが第一子である場合が考えられ、子どもの年齢があがると兄弟姉妹数が増えており、「3人」兄弟姉妹は、中学生が最も多い。平成15年の合計特殊出生率（1人の女性が一生に生む子ども数の平均）が、全国平均で1.29人と発表され、愛知県平均は1.32人で全国平均よりはやや高い状況である。

■ 世帯は、就学前児童は親子のみ世帯が59%、同居世帯が37%、小学生は親子のみ世帯が53%、同居世帯が44%となっており、大都市圏に比べて同居率は高く、親子のみ世帯においても、近隣に親族がいる世帯が比較的多いことがうかがえる。中高生は、「4人」家族が46%、「5人」家族が37%である。



両親の就業状況は、子どもが大きくなると共稼ぎ世帯が増えている。

■ 「共稼ぎ世帯」は就学前児童が39%、小学生は70%、中学生は73%で、子どもの年齢にあわせて上昇している。就学前児童保護者の就業率も上昇しているといえる。



② 子育て家庭の負担感

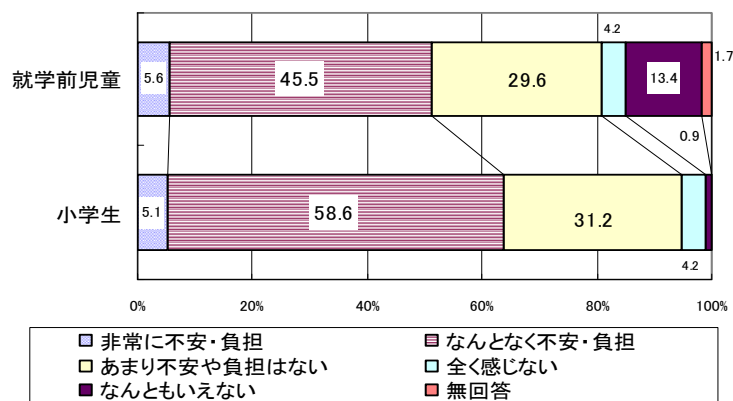
小学生の世帯の方が負担度は高く、就学前児童の世帯は「なんともいえない」が13%回答されている。

■ 就学前児童の世帯の悩み

- 1位：子どもを叱り過ぎ
- 2位：仕事・したいことができない
- 3位：病気・発育のこと

■ 小学生児童の世帯の悩み

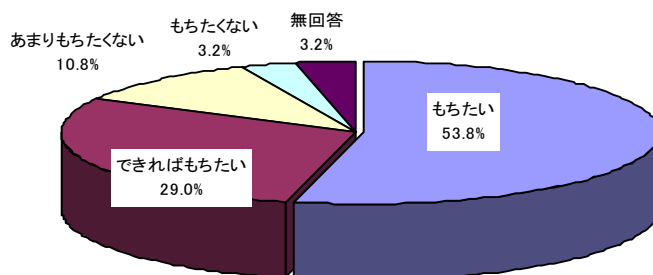
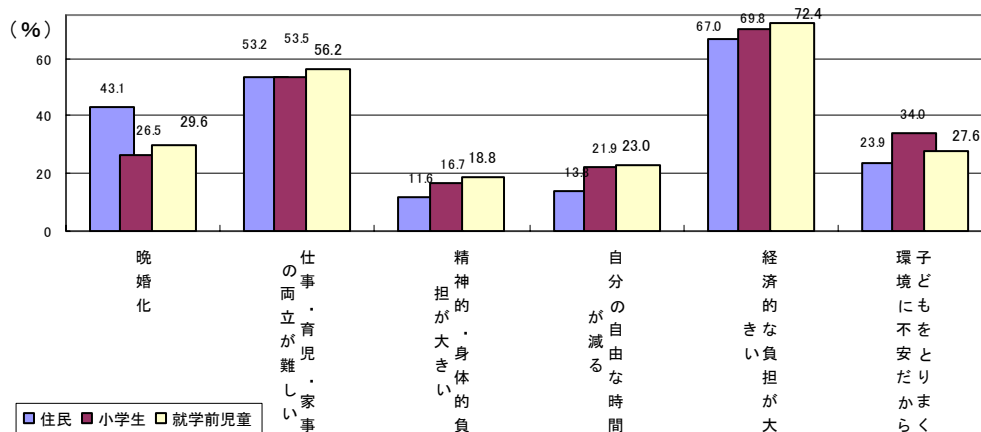
- 1位：友達のこと
- 2位：子どもの教育のこと
- 3位：子どもを叱り過ぎ



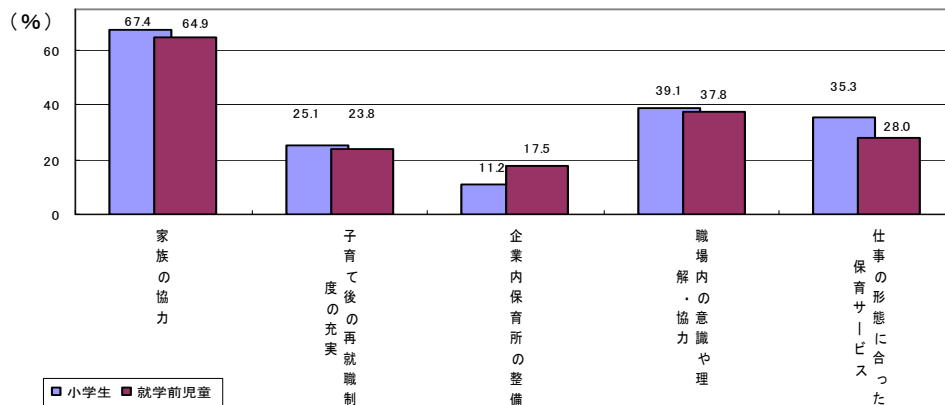
③ 子どもをもつこと

子ども数が理想よりも実際は少ない原因は、「経済的な負担が大きいこと」と「仕事・育児・家事の両立が難しいこと」が回答されている。一方、中高生は将来子どもをもつ意向が強い。

■ 就学前児童保護者・小学生児童保護者、一般住民ともに、理想の子ども数を実現できない理由は同様の回答が多い。（回答の多い選択肢をグラフで抜粋）一方、中高生は、83%が将来子どもをもちたい意向を回答しているが、一般住民も同様に81%と高くなっており、この思いを実現できるよう支援することが重要な課題といえる。



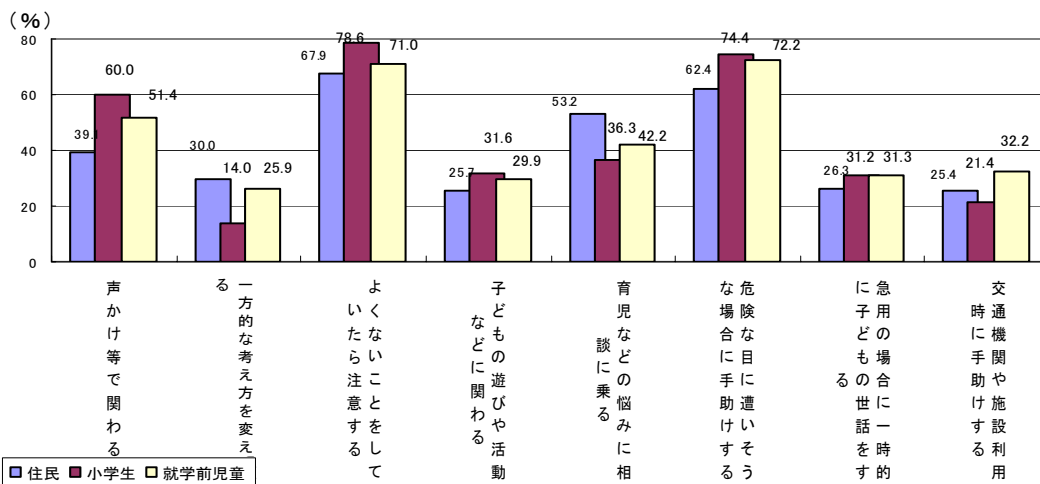
■ 主な要因として回答されている、仕事・育児・家事の両立が難しいことに関しては、共稼ぎ世帯が増加するなかで、夫の家事参加、放課後や不在時に安心して過ごせる場の提供などの支援が必要と回答されている。（回答の多い選択肢をグラフで抜粋）



④ 地域の子育て環境

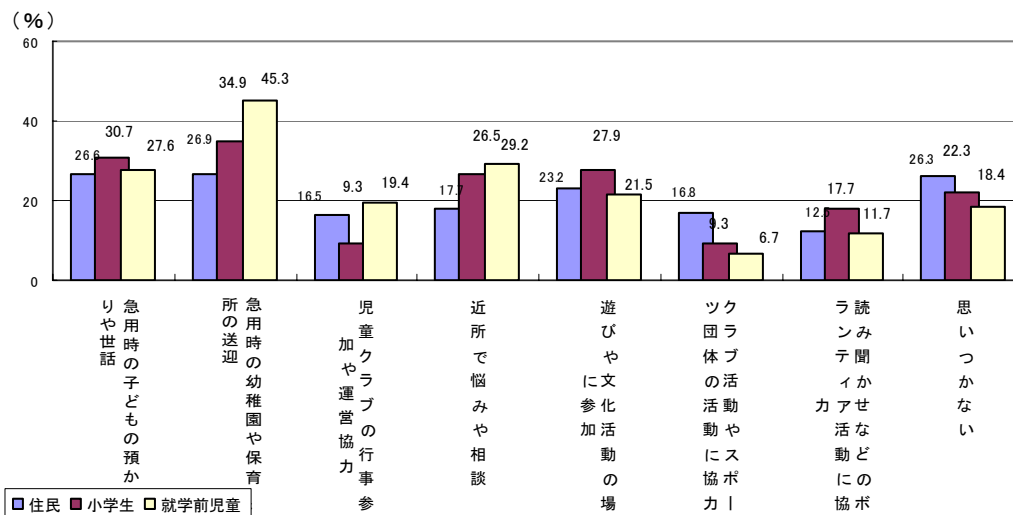
地域の子育て支援で必要なことは、子どもがよくないことをしたら注意するや声かけなど、子どもとの関わりを重視した回答が多く、今後の意識啓発と地域づくりの大きな目標といえる。

■子どもがよくないことをしたら注意することが子育て世帯で最も多く回答されている。その他、声かけなど子どもとの関わりや育児などの悩み相談などにも回答が多く、地域が関わりあうこと、地域づくりと意識啓発は、重要性が高いといえる。



地域での子育てで自分が協力できること・役割については、比較的多くの回答がよせられており、なかでも急用時の送迎や世話などに回答が多い。

■自分の役割でできることとして、就学前児童保護者・小学生自動保護者、一般住民ともに、急用時の預かりや送迎、遊びや文化活動への参加などにも回答が多く、このような住民の意識や協力の気持ちを実践につなげていける取り組みが最も必要である。



II. 就学前児童（保護者）調査

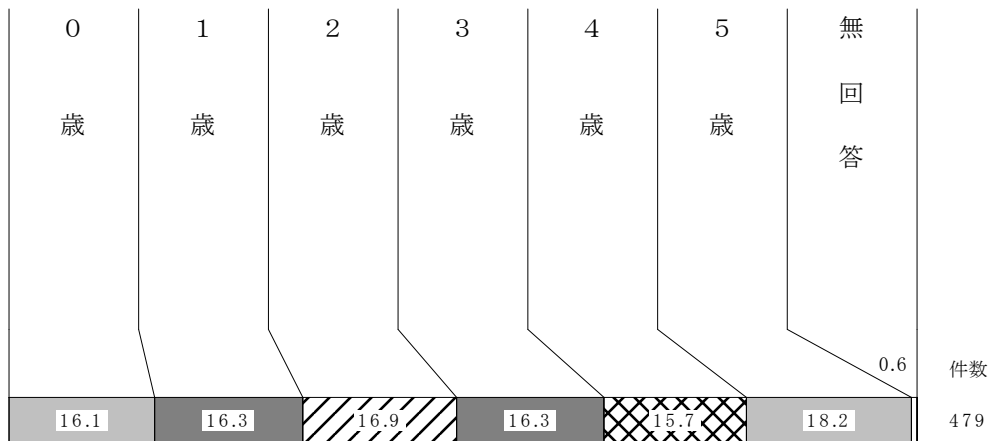
II. 1 就学前児童とその家族の状況

- 調査対象の就学前児童は、各年齢が概ね均等に分布しており、その兄弟姉妹は就学前か小学校低学年が多く、全体では親と子どもが2人の親子だけの世帯が多い。
- 就学前児童の保護者は、父親の年齢層の方がやや高く、給与生活者の父親と専業主婦の母親が全体では多いが、就学前児童の年齢が上がると母親の就業率が上昇し、共稼ぎ世帯が増える。

① 子どもの年齢

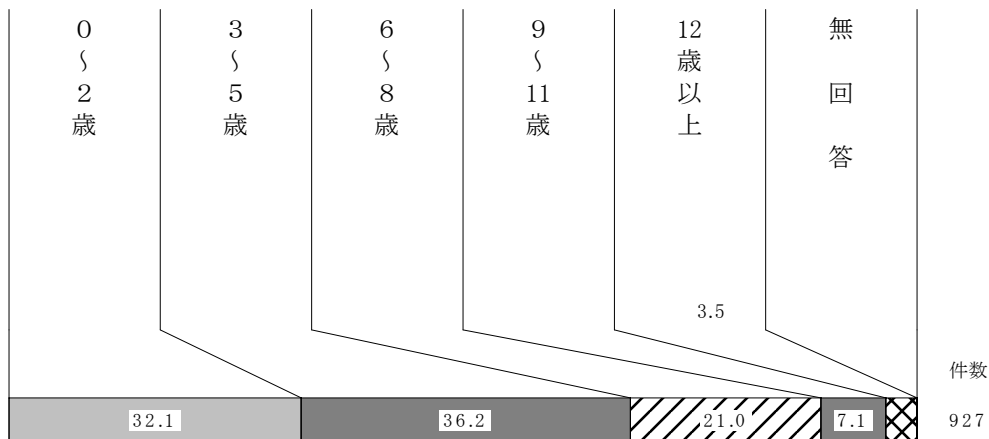
就学前児童の年齢 ■ 「5歳」が18%とやや多いが、各年齢層ともに15~16%台の割合となっており、年齢による差異は小さい。

問1 子どもの年齢（4月1日現在）〔%〕



子ども全員の年齢 ■ 調査対象の就学前児童とその世帯の子どもの年齢は、「3~5歳」が36%、「0~2歳」が32%、「6~8歳」が21%を占めており、1世帯あたりの子ども数は1.94人で就学前児童の兄弟、就学前児童と小学校低学年の兄弟姉妹構成が多いことがうかがえる。

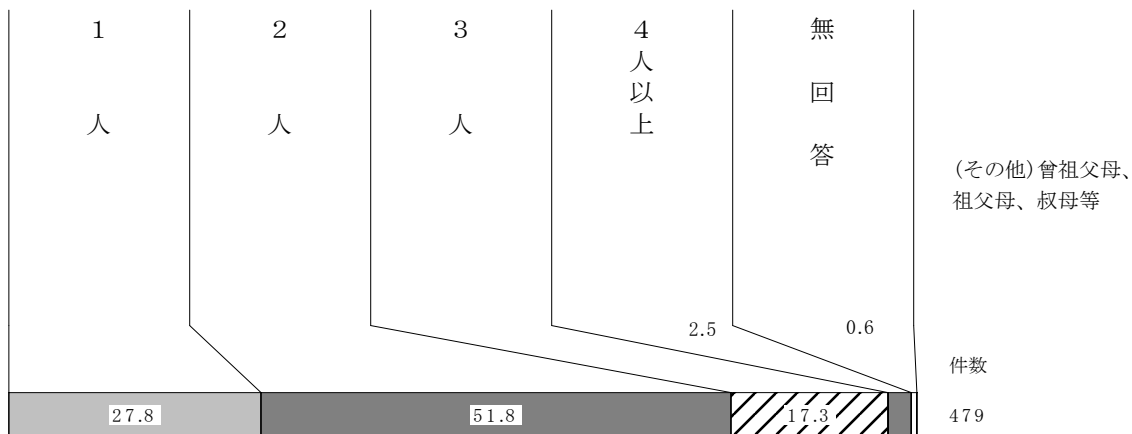
問2 子ども全員の年齢〔%〕



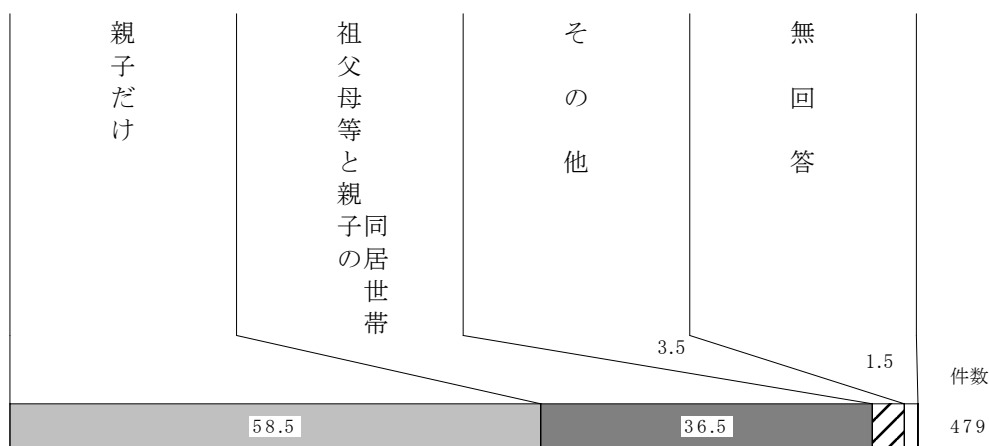
② 世帯の状況

世帯構成 ■ 世帯の子ども数は、「2人」が過半数を超えて最も多いが、就学前児童では「1人」も28%みられる。世帯構成は「両親がいる世帯」がほとんどで、両親と子どもだけの「親子だけ」の世帯が59%と多く、「祖父母等と親子の同居世帯」は37%である。

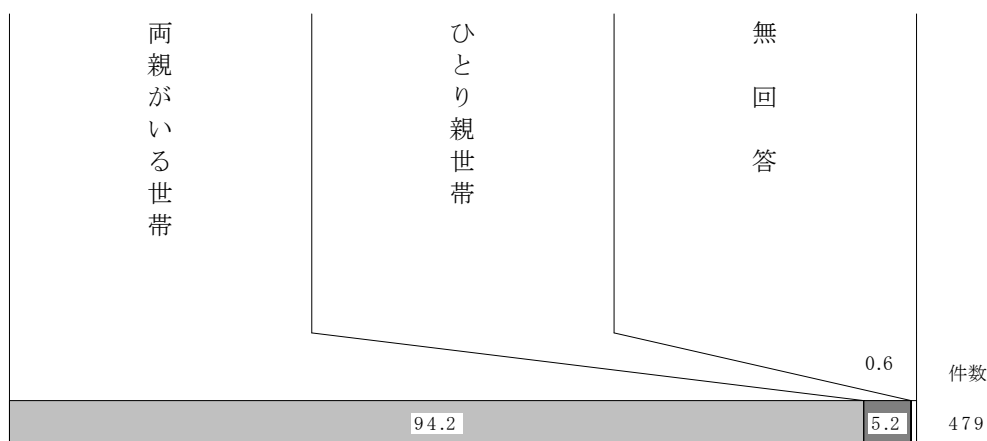
問2 世帯の子ども数 [%]



問3 家族構成 [%]



問4 世帯 [%]

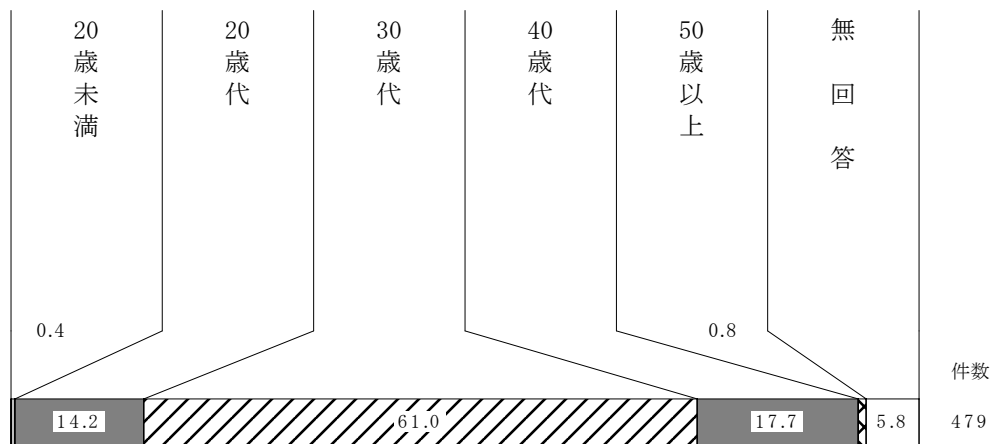


0歳児は、子ども数が「1人」の回答が51%と多いが、1歳児以上になると「2人」が増え、3歳以上になると、「3人」の割合がそれぞれ20%を超えている。親子だけの世帯は、「1人」の割合が30%を超えているが、同居世帯は「3人」が22%と高い。4歳児の回答者は、同居世帯の割合が44%と、他の年齢層に比べてやや高い。親子だけの世帯は、非共稼ぎ世帯が66%と高く、同居世帯は共稼ぎ世帯の割合が49%と高い。また、非共稼ぎ世帯は、低年齢児の世帯多いこともあるが、世帯の子どもが「1人」の割合がやや高い。

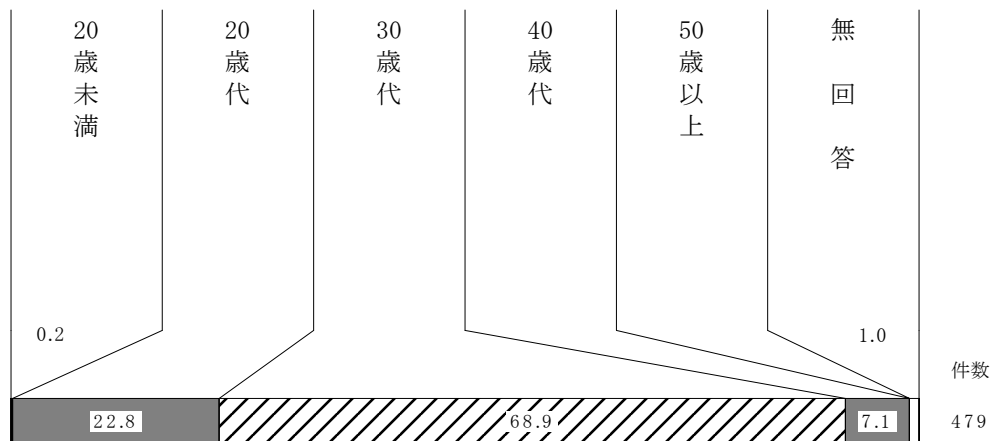
③ 親の状況

親の年齢 ■ 就学前児童の親は、父母ともに「30 歳代」が多く、父親は 61%、母親は 69%で高いが、父親は「40 歳代」に、母親は「20 歳代」にも分布が広がっている。

問 4 (1) 父親の年齢 [%]



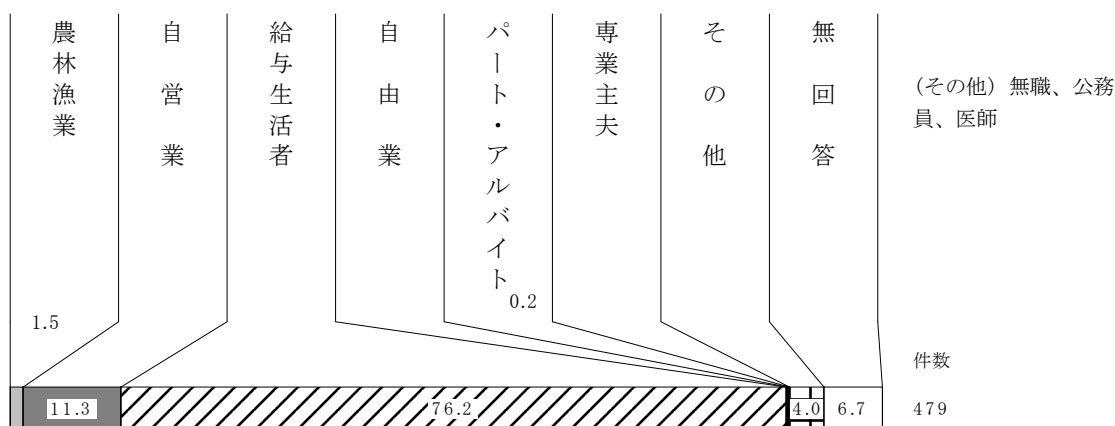
問 4 (1) 母親の年齢 [%]



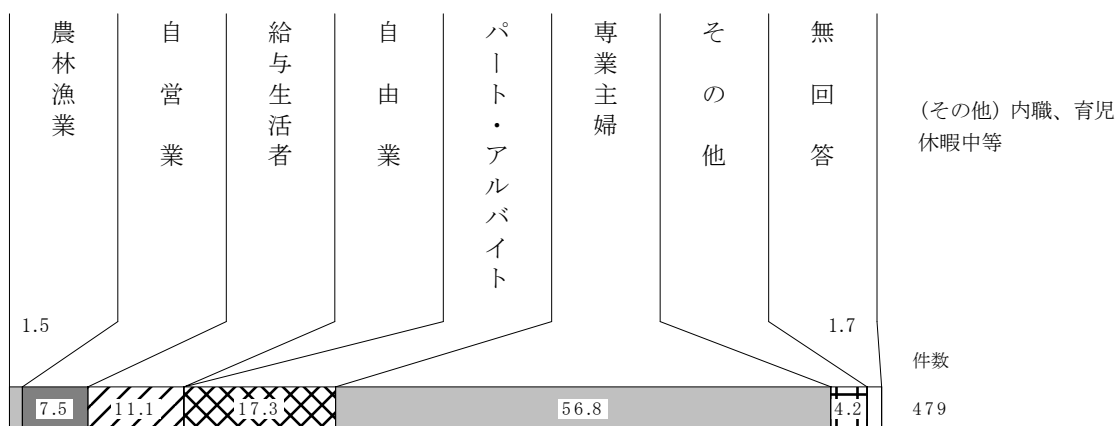
全体的に、父親の年齢は30歳代の回答が多いが、2歳以下の子どもの父親は20歳代の回答が増え、3歳以上の子どもの父親は40歳代の回答が増えている。20歳代の父親は、親子だけの世帯が多く、40歳代の父親は同居世帯がやや多い。母親の年齢は、父親よりも若い年代に分布が多いが、子どもの年齢が上がると20歳代の割合が低下し、30歳代の割合がさらに上昇している。全体的に、30歳代同士、20歳代同士の両親が多くみられる。低年齢層の子どもの母親は20歳代が多く、自分で育児しているという回答が多い。

親の職業 ■ 父親は「給与生活者」が76%で多くを占めており、ついで「自営業」が11%である。一方、母親は「専業主婦」が57%と最も多く、「パート・アルバイト(17%)」「給与生活者(11%)」が続いており、小学生保護者に比べて母親の就業率は低い。また、両親の就業状況は、「非共稼ぎ世帯」が60%、「共稼ぎ世帯」は39%である。

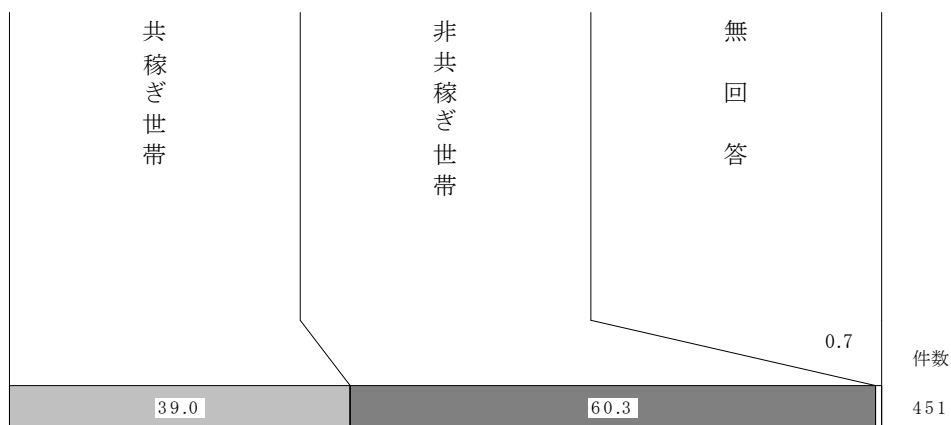
問4(2) 父親の職業 [%]



問4(2) 母親の職業 [%]



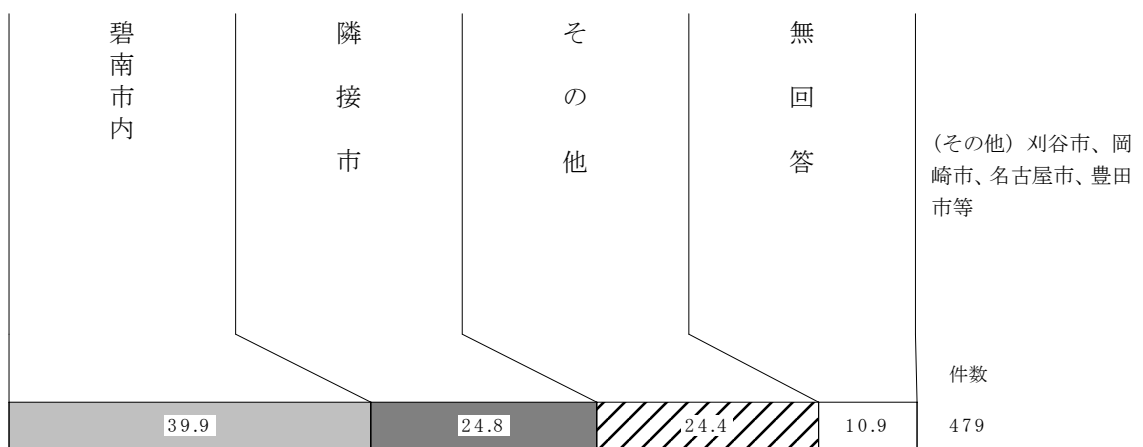
問4(2) 両親の就業状況 [%]



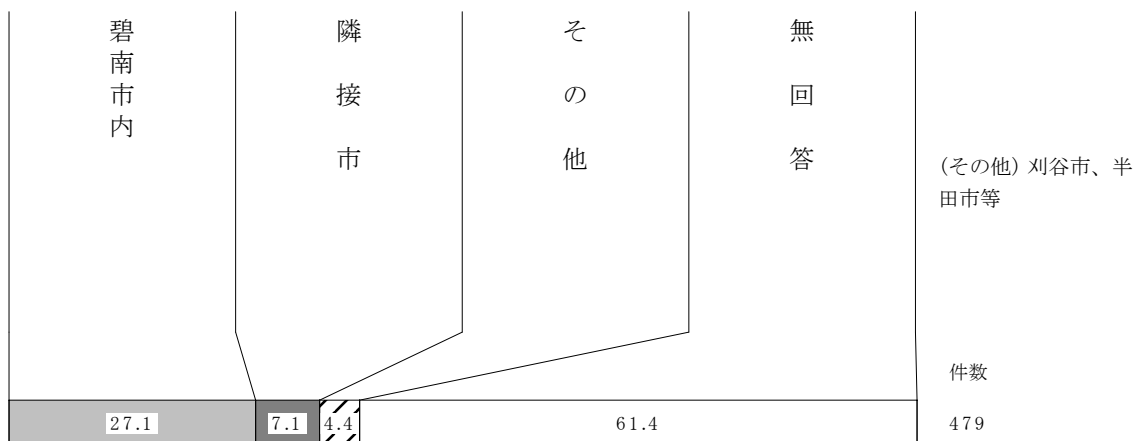
子どもの年齢が上がると、「給与生活者」の父親の割合が若干低下している。親子だけの世帯は、父親が「給与生活者」の割合が83%と高い。母親は、子どもが1歳以下では「専業主婦」が70%前後と多いが、子どもの年齢が上がると、「専業主婦」の割合は低下し、「パート・アルバイト」の割合が高くなっている。新川地区・中央地区・棚尾地区の回答者は、「専業主婦」が他地区よりもやや高い。共稼ぎ世帯は、子どもの年齢が上がると上昇傾向で、0歳児は10%程度だが、3歳児で共稼ぎ世帯の方が多くなり、5歳児では26%に上る。また、共稼ぎ世帯は、「給与生活者」の父親と「パート・アルバイト」か「給与生活者」の母親、共に自営業・農林漁業の形態が比較的多い。日進地区の回答者は、共稼ぎ世帯の割合が49%と高い。

勤務地 ■ 父親は「碧南市内」が40%と最も多く、「隣接市」が25%、「その他」が24%と僅差で続いている。母親の勤務地は、「碧南市内」が多い。

問4(3) 父親の勤務地 [%]



問4(3) 母親の勤務地 [%]

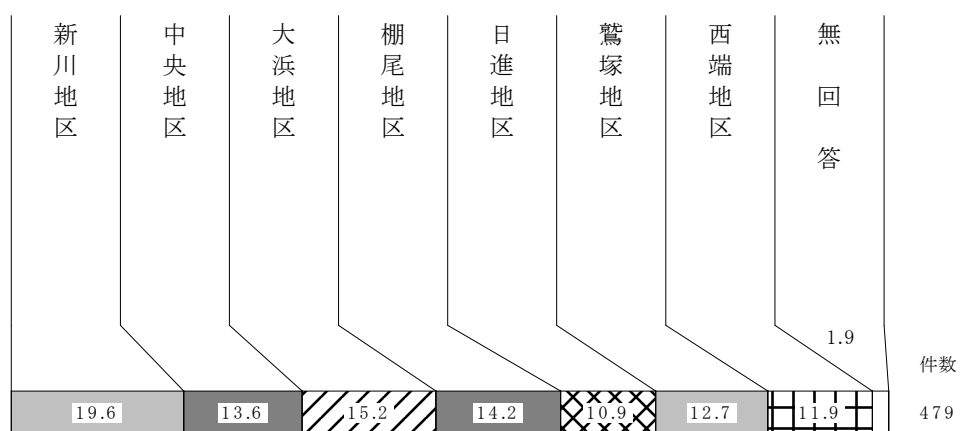


棚尾地区と日進地区の父親は、「碧南市内」で働く割合が半数程度と高く、共稼ぎ世帯の父親も「碧南市内」で働く割合が半数近い。母親の勤務地は、子どもの年齢が上がるとともに、「碧南市内」の割合が上昇しており、パート・アルバイトで働く割合の上昇と連動している。両親ともに「碧南市」で仕事をしている割合は、36%と比較的高く、共稼ぎ世帯の69%を占めている。市内で働く母親の子どもは、保育園利用率が50%と高い。

④ 居住地区

居住地区 ■ 「新川地区」が20%と最も多く、「大浜地区」が15%、「中央地区」と「棚尾地区」がそれぞれ14%で続いている。

問4(4) 居住地区〔%〕



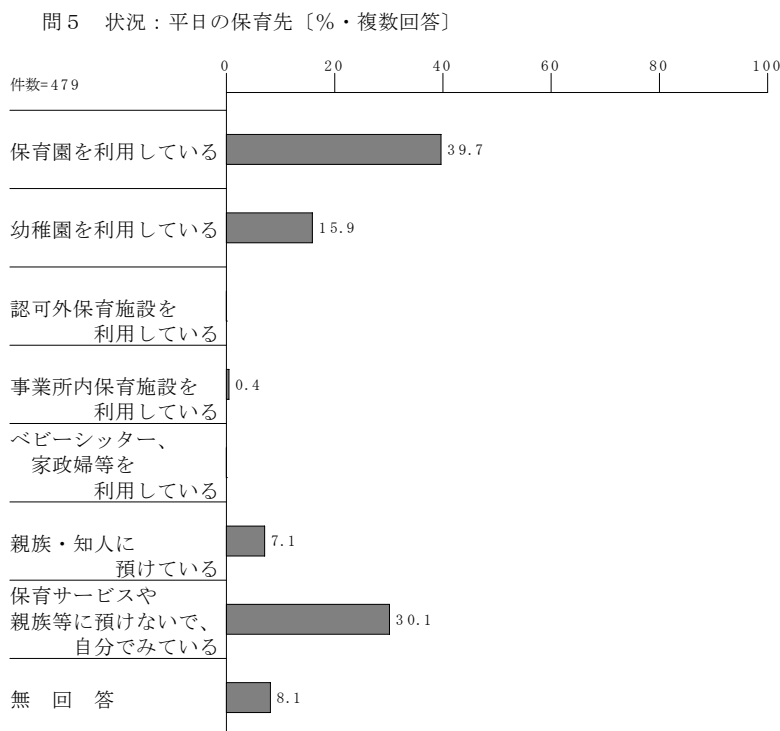
鷺塚地区は0歳児が23%、1歳児は棚尾地区で21%、4歳児は大浜地区で21%とやや割合が高い。

II. 2 保育状況と希望

- 0・1歳児は家庭で母親等が育児をしている世帯が多いが、2歳児以上になると保育サービスの利用率が上昇する。
- 保育先は保育園と幼稚園が多く、利用時間は、保育所利用者でそれぞれの状況により異なるが、通所は保育所・幼稚園ともに平日5日の利用がほとんどで、現在の保育先に対する満足度も高く、継続して利用したい意向が強い。
- 土曜日の保育利用者は少なく、土曜日・日曜日の保育希望も比較的低い。

① 平日の保育状況

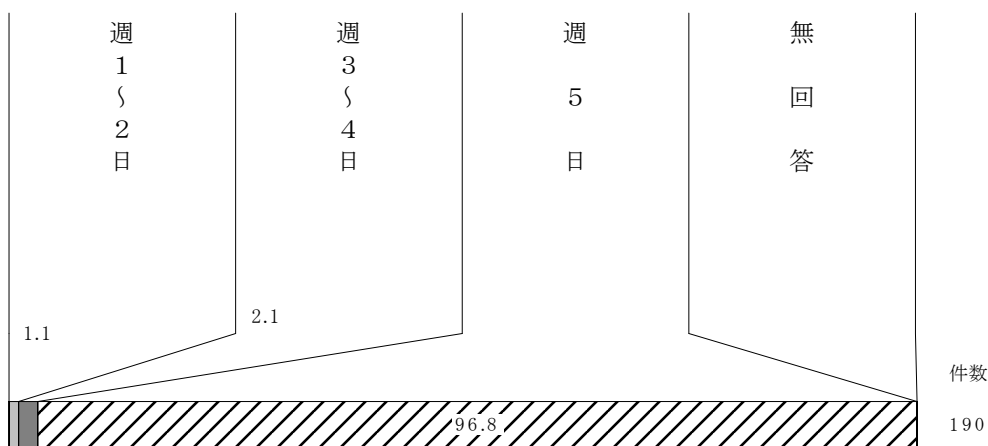
平日の保育先 ■ 「保育園を利用している」が40%と最も多く、「保育サービスや親族等に預けなくて、自分でみている」が30%、「幼稚園を利用している」が16%となっている。



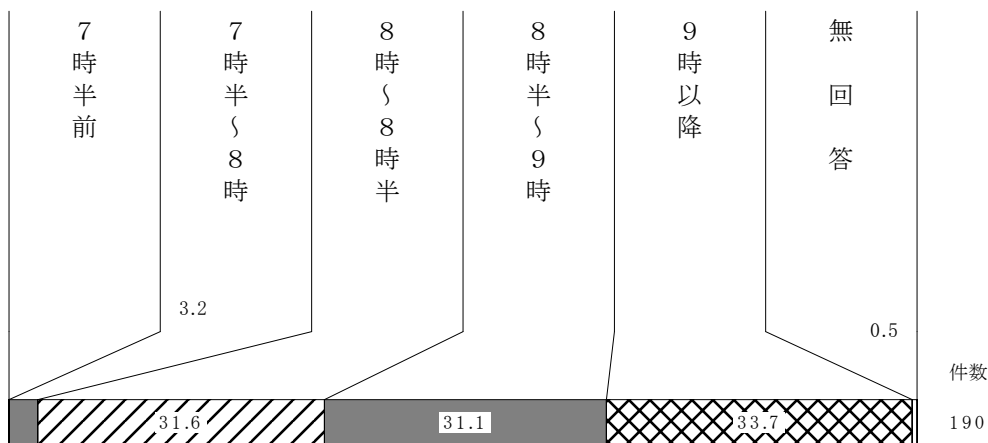
0・1歳児は、「保育サービスや親族等に預けなくて、自分でみている」割合がそれぞれ68%、65%と特に高く、2歳児になると49%に低下し、3歳児以上は保育園や幼稚園の利用率が高くなっている。世帯の子ども数が増えると、保育園の利用率が上昇している。鷺塚地区と日進地区の保育サービス利用者は保育園の利用率が高く、それぞれ54%、48%である。また、共稼ぎ世帯は、保育園の利用率が68%と特に高い。母親が専業主婦の場合は、幼稚園の利用者が多く、母親が自営業・給与所得者、パート・アルバイトの場合は保育園利用率が高くなっている。給与所得者とパート・アルバイトの母親は、「親族・知人に預けている」という回答がやや多く、専業主婦は「保育サービスや親族等に預けなくて、自分でみている」割合が85%と大半を占めている。

保育園利用者 ■ 「週5日」通っている子どもがほとんどで、利用開始時間は「9時以降（34%）」「8時～8時半（32%）」「8時半～9時（31%）」に回答が分布している。終了時間は「16～17時」が47%と多く、「15～16時」が31%で続いている。

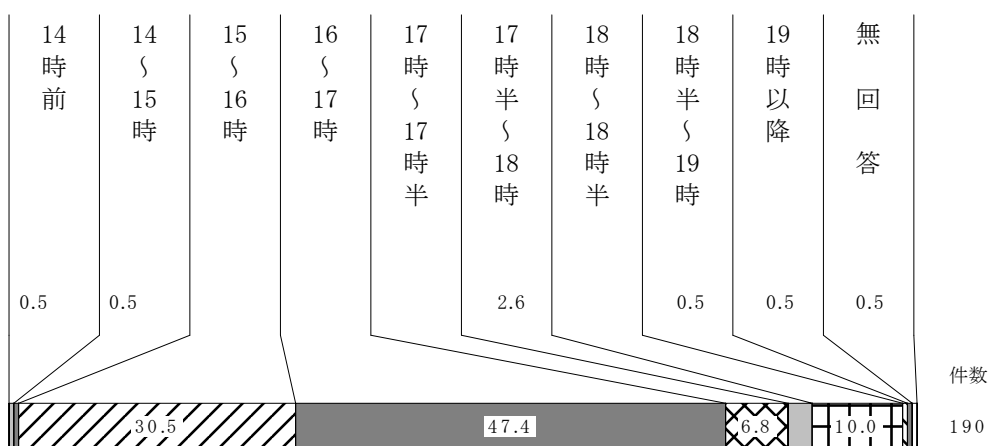
問5 状況：平日の保育園利用日数〔%〕



問5 状況：平日の保育園利用開始時間〔%〕



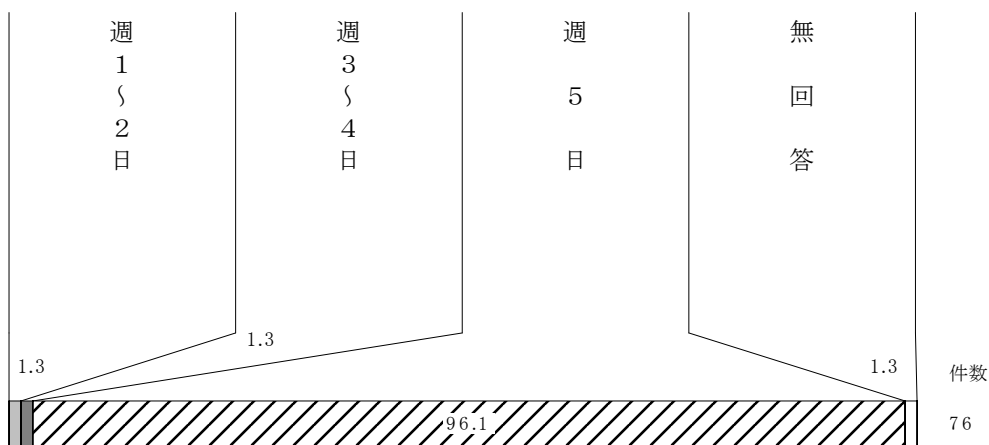
問5 状況：平日の保育園利用終了時間〔%〕



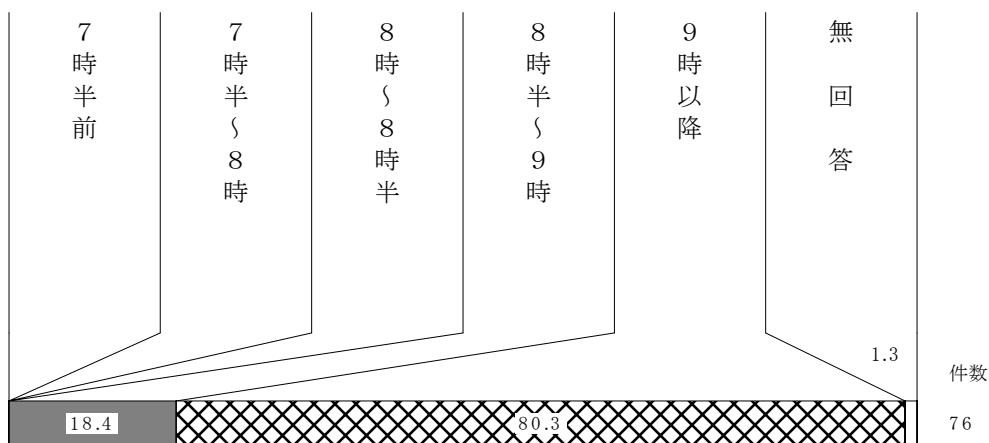
日進地区の保育園利用者は、48%が「8時～8時半」から利用しており、棚尾地区の保育所利用者は47%が「9時以降」から利用している。2歳児以下の利用者は少数だが、終了時間は3歳以上に比べて遅い時間帯に回答が分布している。

幼稚園利用者 ■ 「週5日」通っている子どもがほとんどで、開始時間は「9時以降」が80%、終了時間も「14～15時」が83%とほとんどで、保育園利用者よりも利用時間は短い。

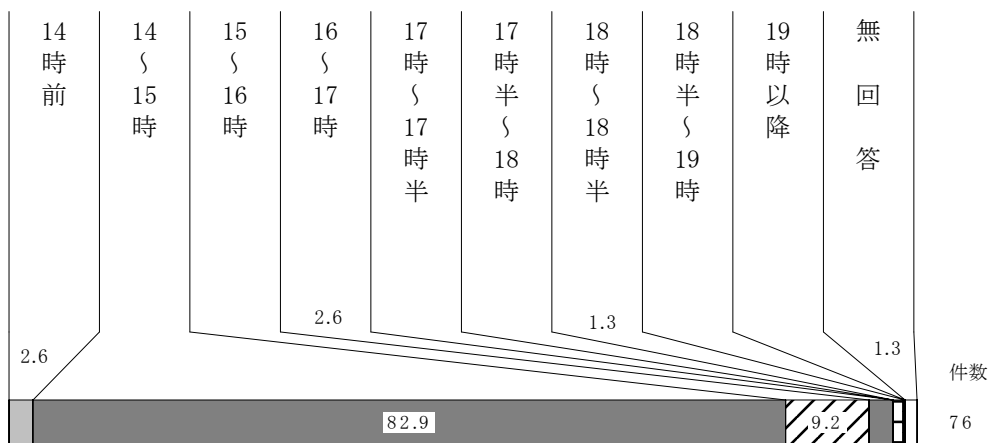
問5 状況：平日の幼稚園利用日数 [%]



問5 状況：平日の幼稚園利用開始時間 [%]



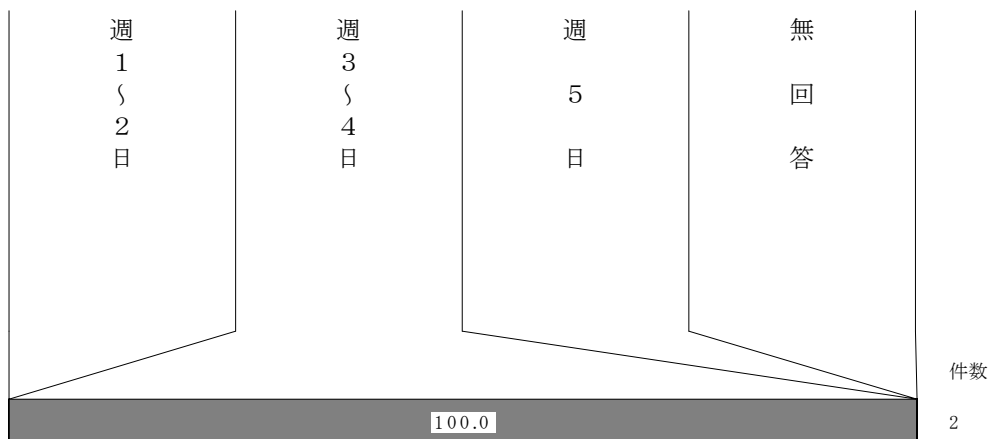
問5 状況：平日の幼稚園利用終了時間 [%]



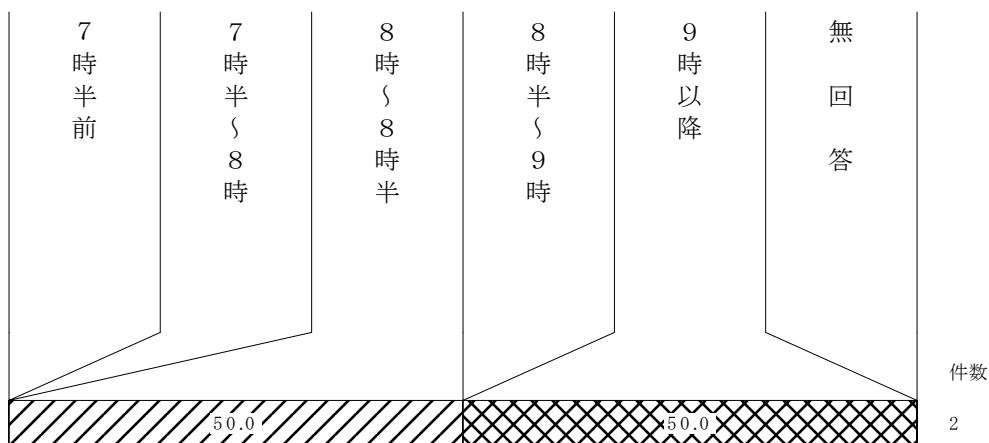
3歳児以上の利用者がほとんどで、非共稼ぎ世帯の利用者が多い。

事業所内保育施設利用者 ■利用者は少数で、「週3～4日」利用しており、利用時間は「8時～8時半」「9時以降」から、「14時前」「18時～18時半」までの利用がみられる。

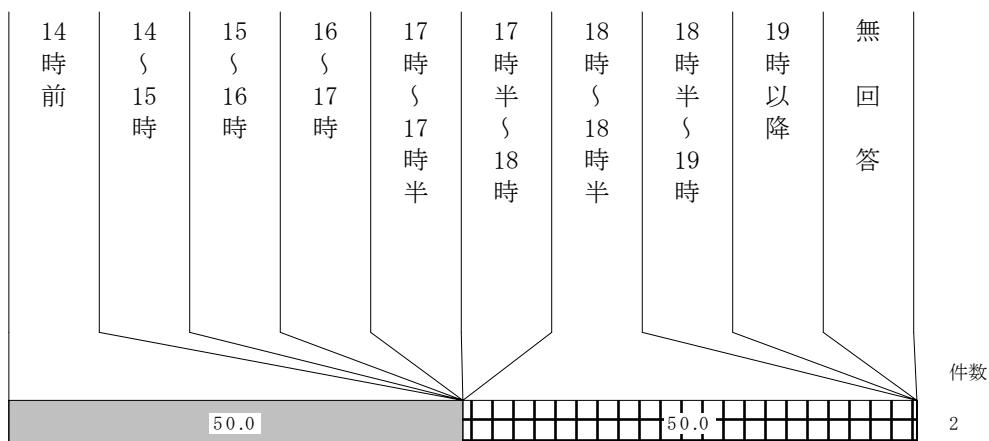
問5 状況：平日の事業所内保育施設利用日数 [%]



問5 状況：平日の事業所内保育施設利用開始時間 [%]

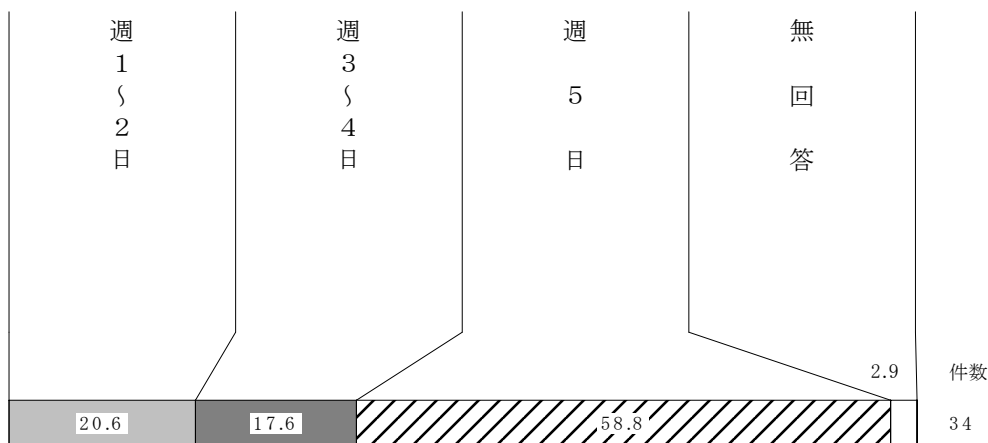


問5 状況：平日の事業所内保育施設利用終了時間 [%]

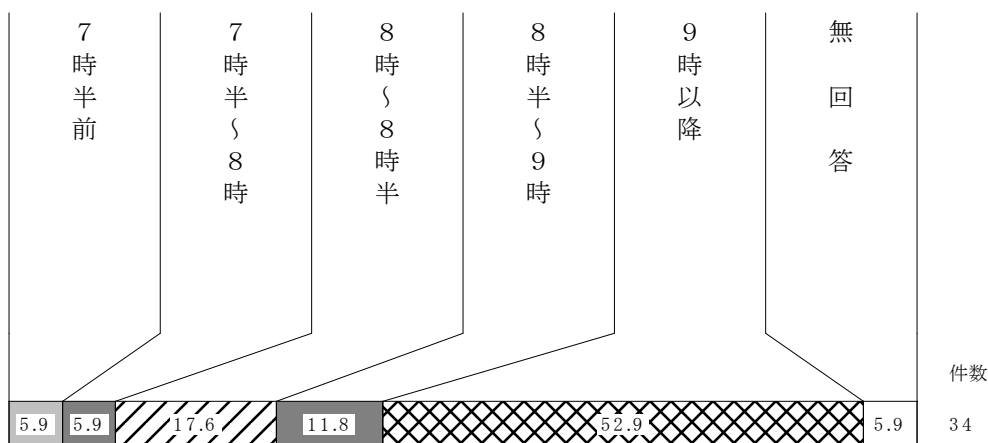


親族・知人に預けている子ども■59%が「週5日」預けているが、「週1～2日(21%)」や「週3～4日(18%)」という回答もみられる。開始時間は「9時以降」が53%と多く、その他の時間帯にも10%強の回答がみられる。一方、終了時間は、「18時～18時半」「19時以降」がともに18%、**「15～16時」**が15%など、多様な回答状況となっている。

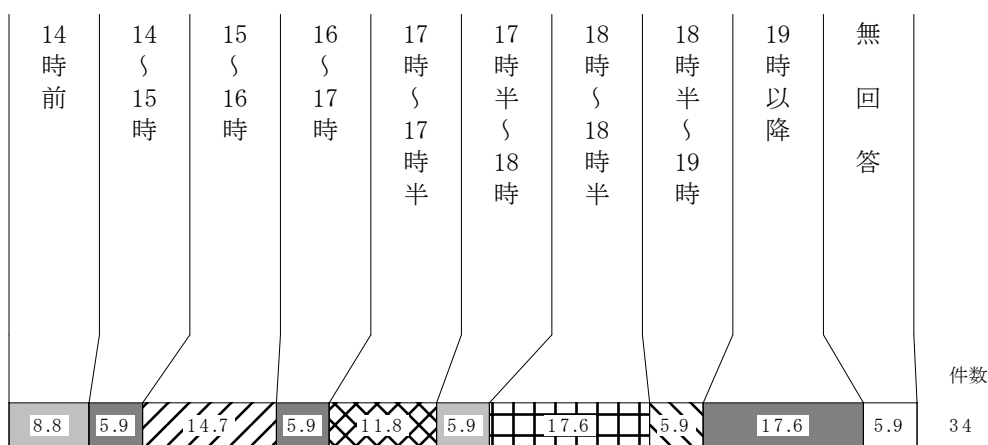
問5 状況：平日の親族知人に預けている利用日数〔%〕



問5 状況：平日の親族知人に預けている利用開始時間〔%〕



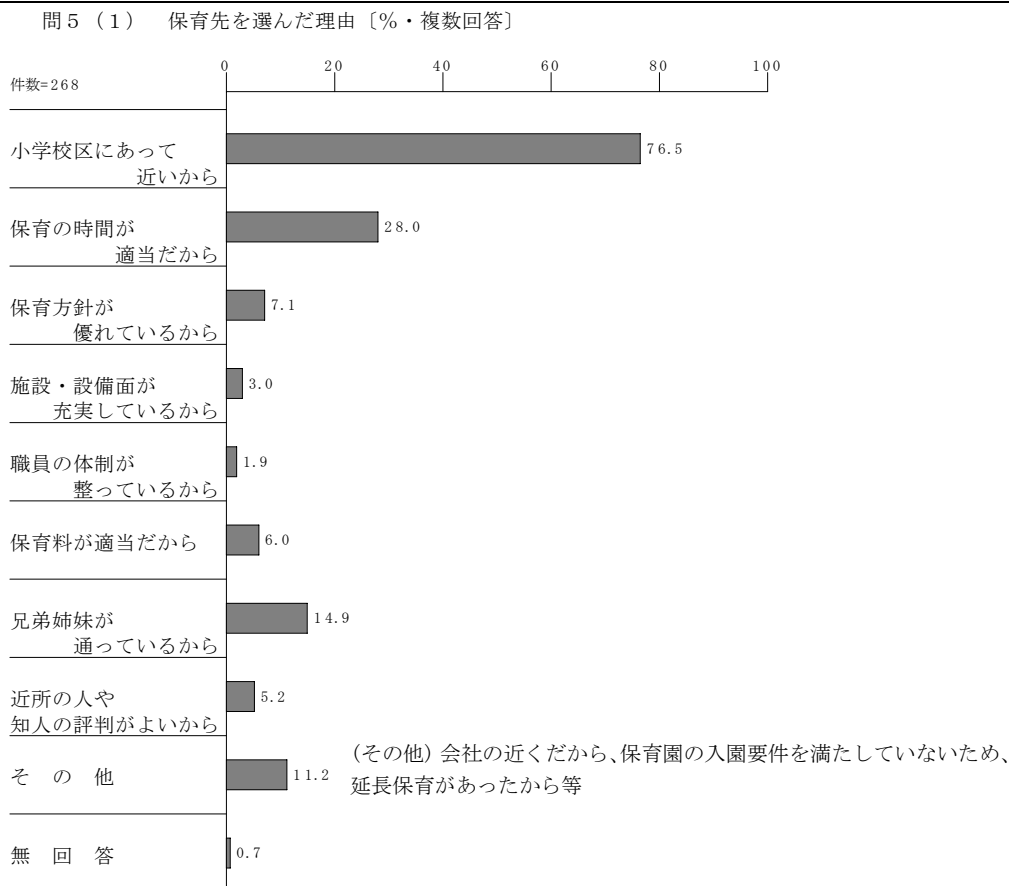
問5 状況：平日の親族知人に預けている利用終了時間〔%〕



親族知人に預けている回答者で、保育園と併用している回答が一部みられる。

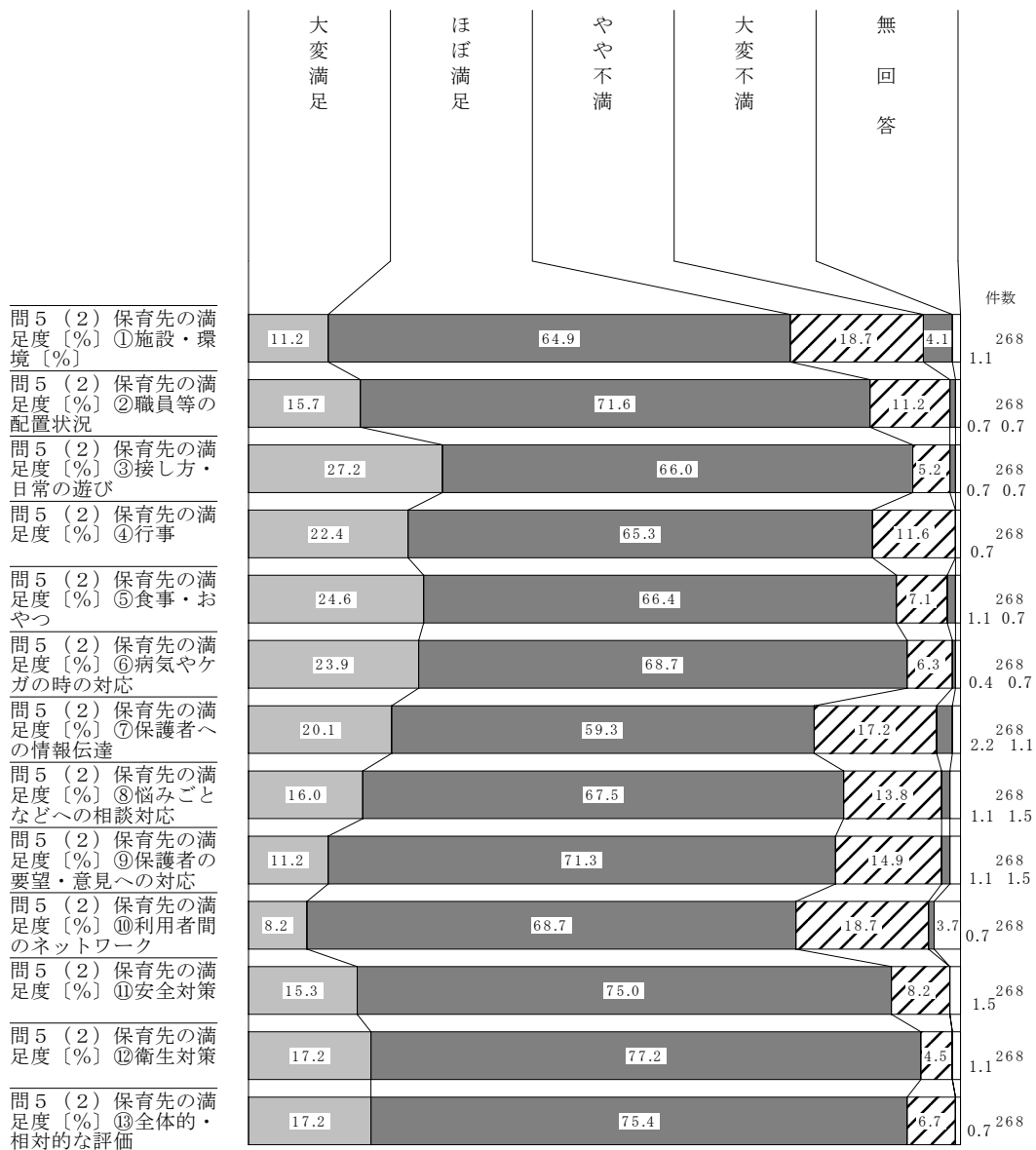
② 保育先についての考え

現在の保育先を選んだ理由■「小学校区にあって近いから」が77%と、最も多く回答されており、重要な要因といえる。ついで、「保育の時間が適当だから」が28%回答されており、その他では「兄弟姉妹が通っているから」が15%である。



2歳児以下の回答者は、その状況に応じて理由が広く分布していることがうかがえるが、3歳児以上は、「小学校区にあって近いから」が各年齢ともに80%を超えている。また、「保育の時間が適当だから」という理由は、2歳児と5歳児、保育園利用者と共稼ぎ世帯で特に多く回答されている。幼稚園利用者は、「保育料が適当だから」という回答が20%と多く回答されている。

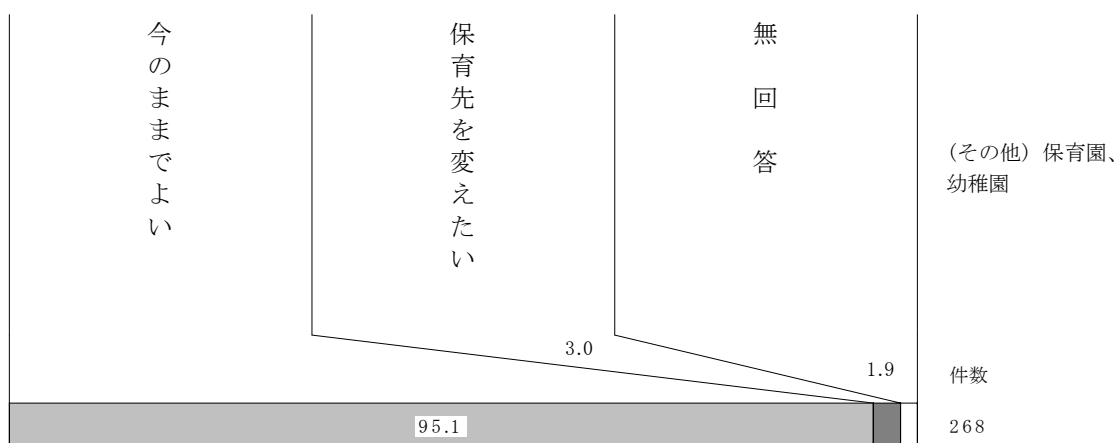
現在の保育先の満足度■満足度（「大変満足」と「ほぼ満足」の計）が最も高いのは、「衛生対策」で94%、「接し方・日常の遊び」「病気やケガの時の対応」「全体的・相対的な評価」がそれぞれ93%、「食事・おやつ」が91%と満足度の高い項目が多く、満足度の高い項目が多いといえる。一方、「利用者間のネットワーク」と「施設・環境」はやや不満という回答がやや多い。



- ①施設・環境については、幼稚園利用者で「やや不満」が29%と高く、大浜地区と西端地区の回答者は満足度が高い。
- ②職員等の配置状況は、幼稚園・保育園ともに同様の回答分布となっている。
- ⑤食事・おやつについては、中央地区の回答者は「大変満足」という回答が多い。
- ⑦保護者への情報伝達については、日進地区と鷺塚地区の回答者で満足度が高く、保育園利用者の方がやや満足度が高い。
- ⑩利用者間のネットワークは、2歳以下の利用者の方がやや満足度は高い。
- ⑬全体的・相対的な評価では、1歳以下の利用者は少数だが満足度は高く、保育園利用者の方が満足度は高い。

保育利用者の今後の保育 ■ 「今のままでよい」が95%とほとんどである。

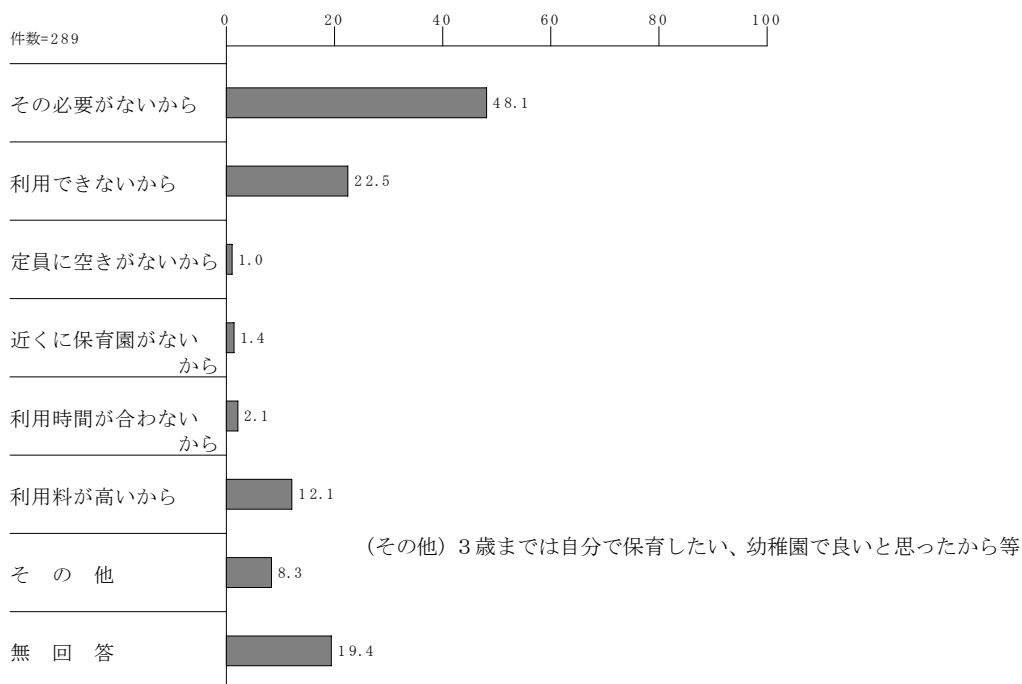
問5 (3) 保育先の変更希望 [%]



全般的には、「今のままでよい」がほとんどだが、2歳児は「保育先を変えたい」という回答がやや多くみられる。

保育園を利用していない理由 ■ 「その必要がないから」が48%と最も多く、ついで「利用できないから」が23%となっている。

問6 保育園を利用していない理由 [%・複数回答]

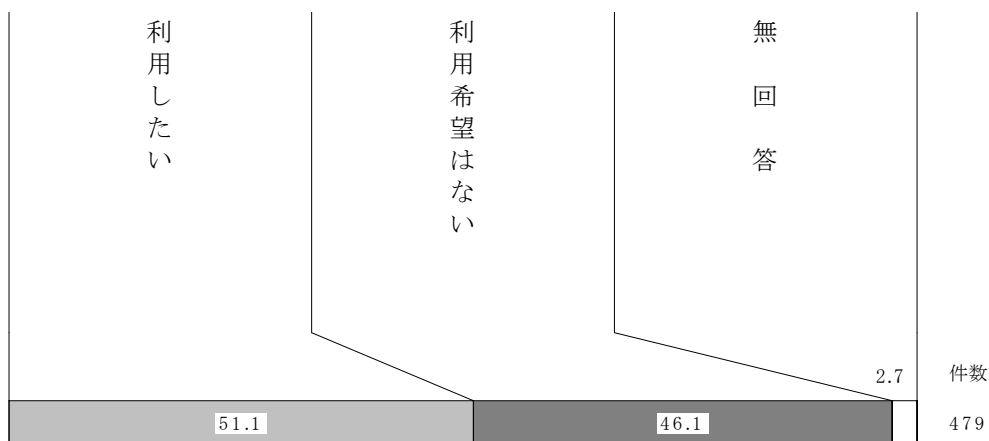


2歳児以下は、「その必要がないから」と「利用できないから」という回答が他の年齢層に比べて多くみられる。また、5歳児で「利用料が高いから」という回答の割合がやや高い。

③ 平日の保育希望

平日の保育希望 ■ 「利用したい」が51%だが、利用状況よりもやや低い。

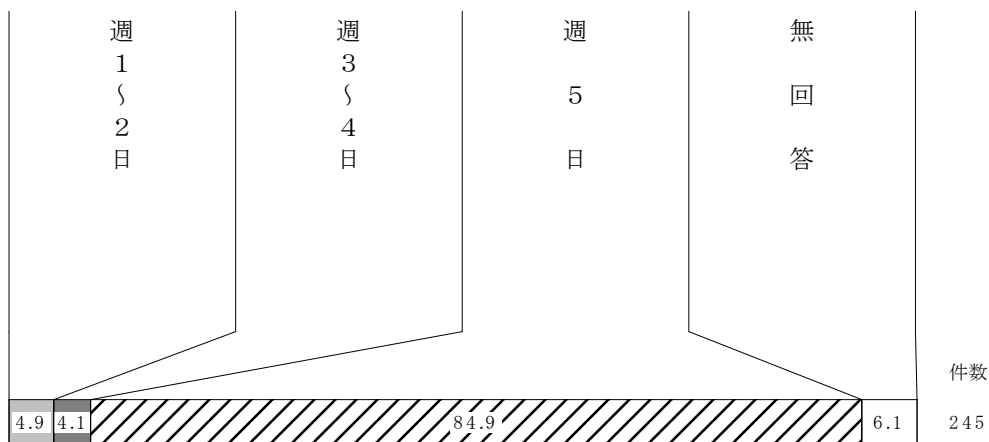
問7 希望：平日の保育希望 [%]



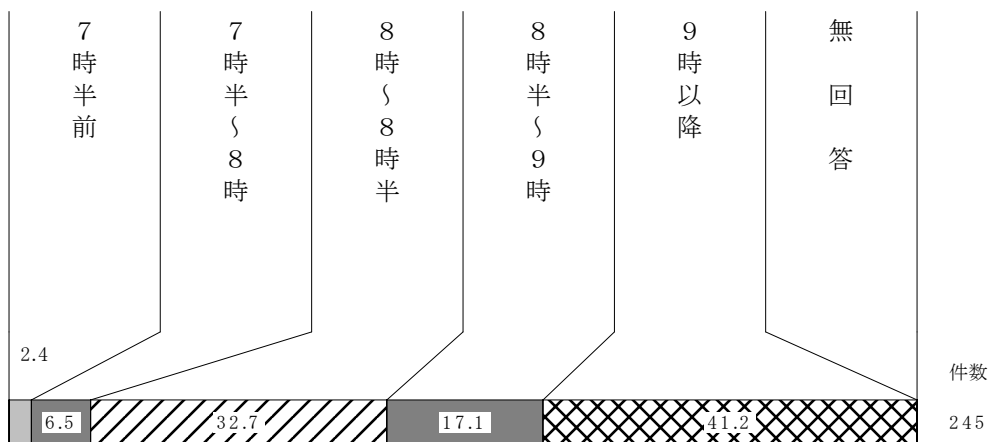
子どもの年齢が上がると保育希望は上昇し、3歳児で「利用したい」が「利用希望はない」を上回っている。

保育希望内容 ■ 日数は「週5日」が多く回答されており、希望開始時間は「9時以降」が41%、「8時～8時半」が33%で、この2つで多くを占めている。また、希望終了時間は「16～17時」が40%と最も多い。

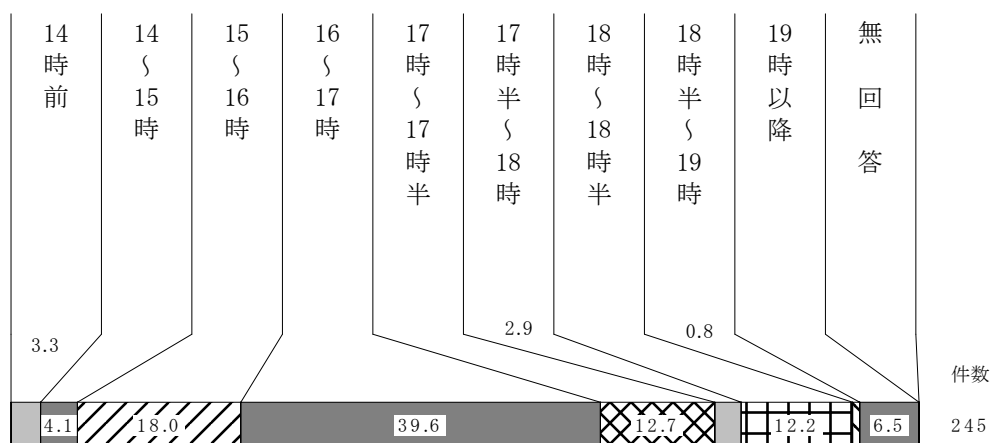
問7 希望：平日希望日数 [%]



問7 希望：平日(1)希望開始時間 [%]



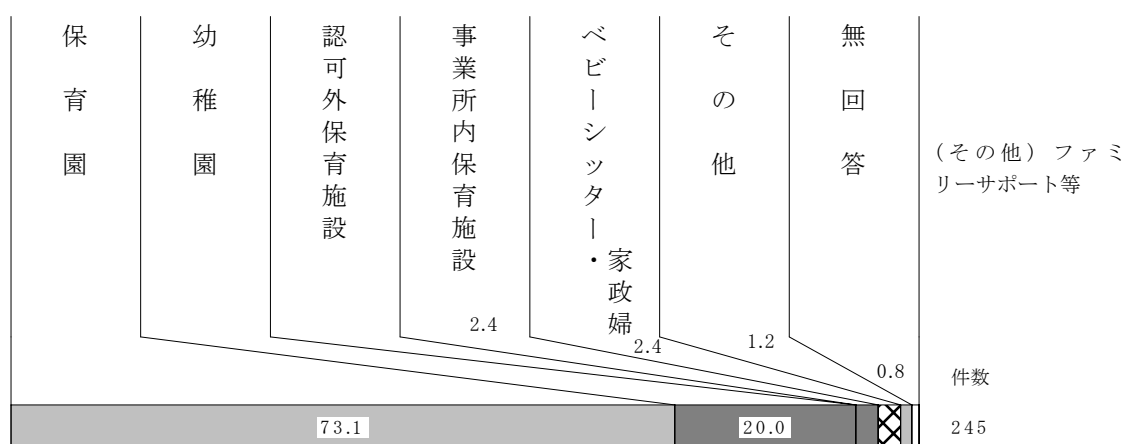
問7 希望：平日（1）希望終了時間 [%]



0歳児の希望者は、「週5日」の希望率が低く、4日以下の希望がみられる。現在保育園を利用している回答者は利用希望が高く、自分で育児している回答者は利用希望が低い。開始及び終了時間帯は、利用時間と概ね同様の分布となっている。3・4歳児の保育希望者は、それぞれ半数強が終了時間帯を「16～17時」までと希望しており、保育園利用者と共稼ぎ世帯は「18時～18時半」までの希望がやや多い。

希望保育先 ■ 「保育園」が73%と最も多く、「幼稚園」が20%で続いている。

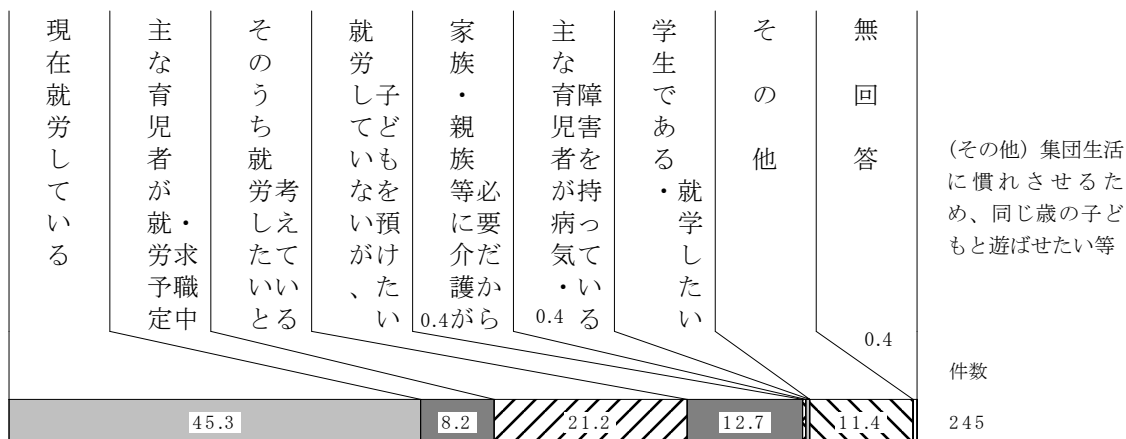
問7 希望：平日（2）希望サービス [%]



2歳児以下の保育希望者は、「保育園」の希望が高く、なかでも2歳児は83%と高い。3歳児では「保育園」の希望がやや低下し、「幼稚園」が37%と他の年齢層に比べて最も希望率が高い。棚尾地区の希望者は、41%が「幼稚園」を希望しており、他地区に比べて高く、日進地区と鷺塚地区の希望者は「保育園」の希望がそれぞれ89%、87%と特に高い。保育園利用者は「保育園」を、幼稚園利用者は「幼稚園」を希望しており、保育先の変更希望が少ないこととあわせて、現在の保育先に概ね満足していることがうかがえる。一方、現在親族・知人に預けている保育希望者と自分で育児している保育希望者は、「保育園」を利用したいという回答が多くみられる。共稼ぎ世帯は「保育園」の希望が多く、83%に上る。

希望理由 ■ 「現在就労している」が45%と最も多く、ついで「そのうち就労したいと考えている」が21%、「就労していないが、子どもを預けたい」が13%である。

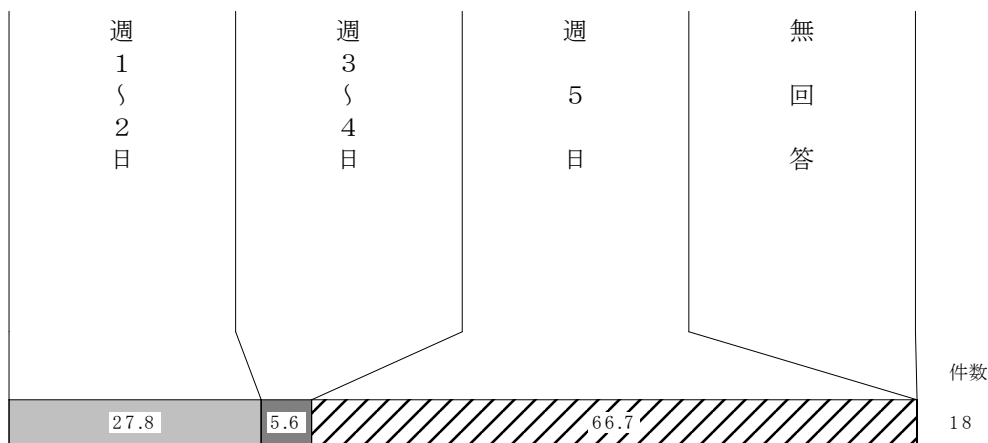
問7 希望：平日（3）利用希望理由〔%〕



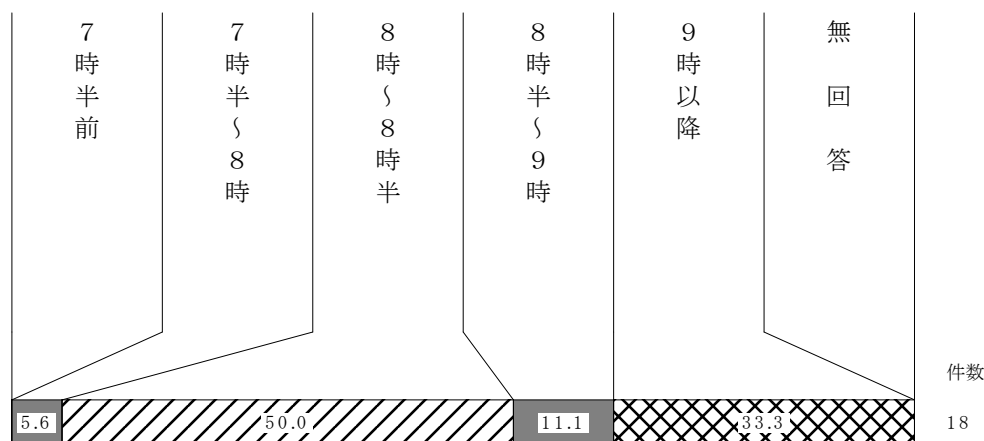
0・1歳児の希望者は、「そのうち就労したいと考えている」ことを希望理由に回答する割合がやや高く、3・4歳児の希望者は「就労していないが、子どもを預けたい」という回答が20%程度みられる。親子だけの世帯よりも同居世帯の方が、共稼ぎ世帯が多いことから、「現在就労している」という理由が多く回答されている。

併用希望者の希望内容 ■ 希望者は少数だが、「週5日」が67%と最も多く、「8時～8時半」からの希望が50%で、終了時間は「15～16時（28%）」や「16～17時」「17時～17時半」などが回答されているが、希望終了時間は広く分布している。

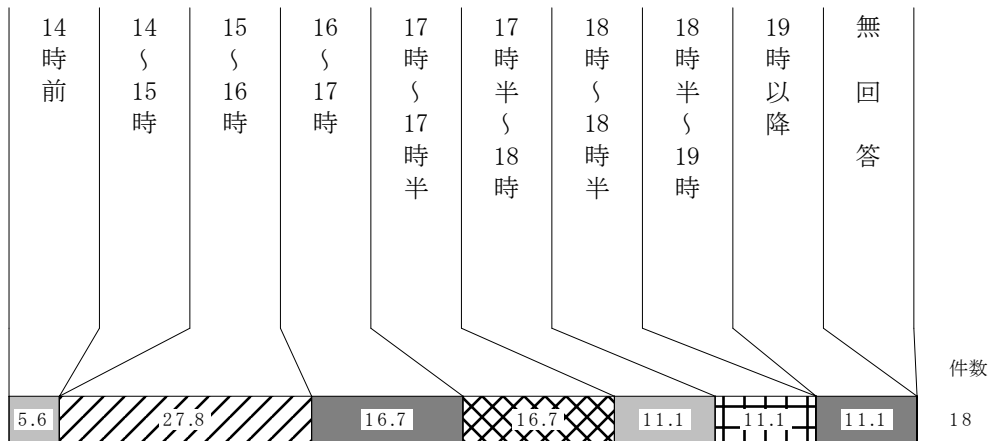
問7 希望：平日【予備】希望日数〔%〕



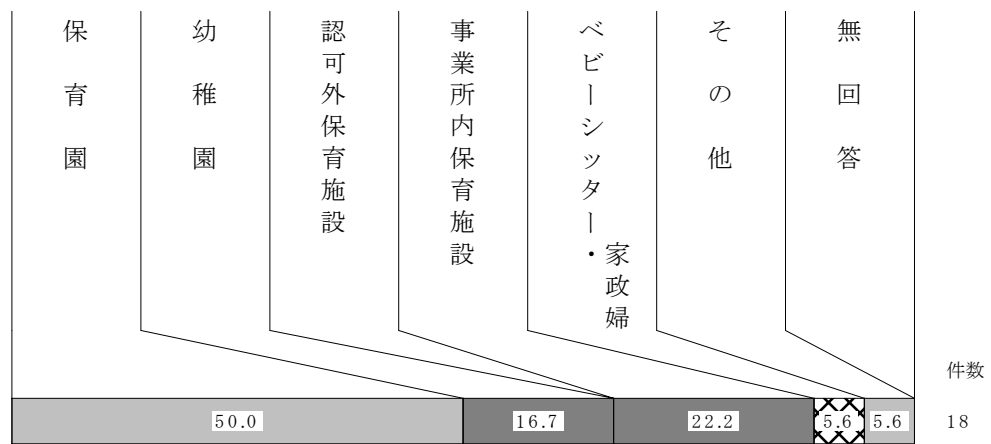
問7 希望：平日【予備】希望開始時間〔%〕



問7 希望：平日【予備】希望終了時間 [%]



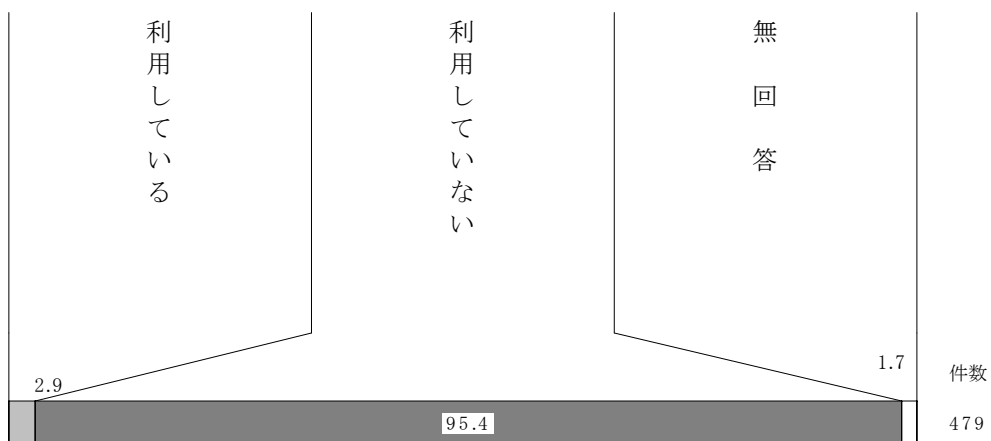
問7 希望：平日【予備】希望サービス [%]



④ 土曜日の保育状況

土曜日の保育利用 ■95%が「利用していない」と回答しており、「利用している」は3%と僅少である。

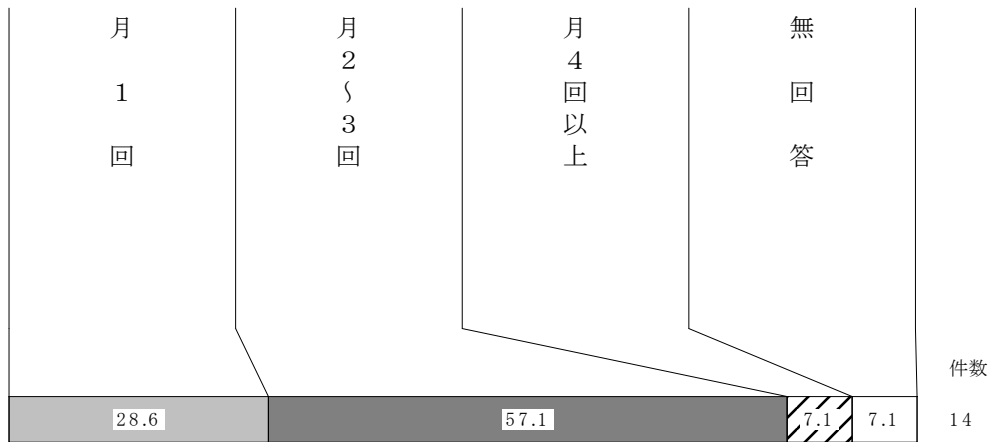
問8 状況：土曜日の保育先 [%]



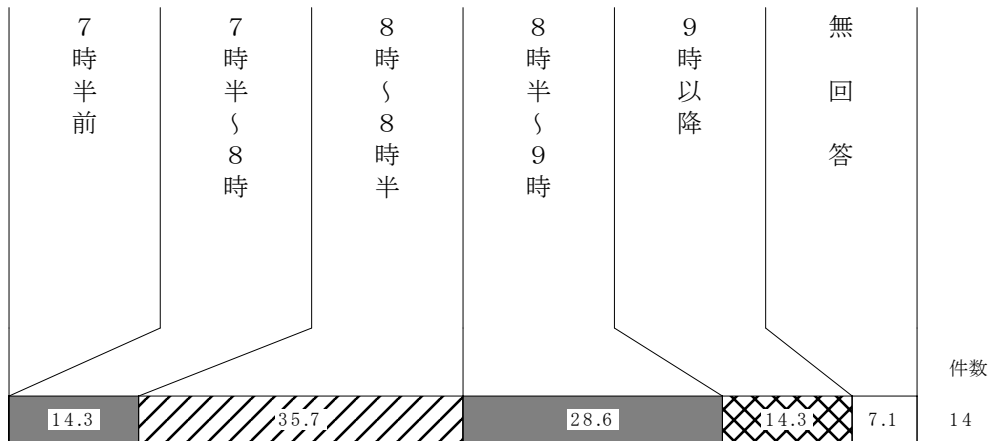
棚尾地区の回答者で、利用率が7%とやや高い。「利用している」のは、保育園利用者である。

土曜日の利用状況 ■利用者は少数で、57%が「月2～3回」利用しており、「月1回」が29%で続いている。開始時間は「8時～8時半」が36%、「8時半～9時」が29%となっており、平日の利用者よりも早い時間帯が回答されている。また、終了時間は「15時前」が43%と多いものの、他の回答にも広く分布している。

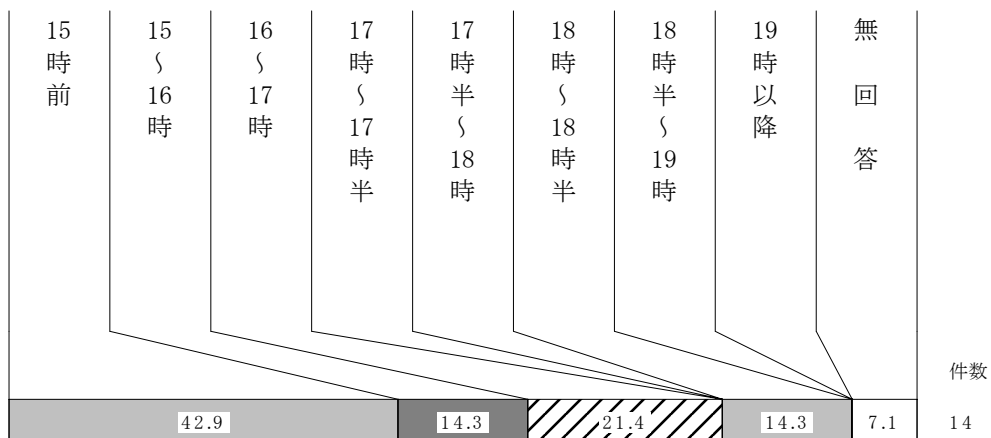
問8 状況：土曜日の利用日数 [%]



問8 状況：土曜日の利用開始時間 [%]



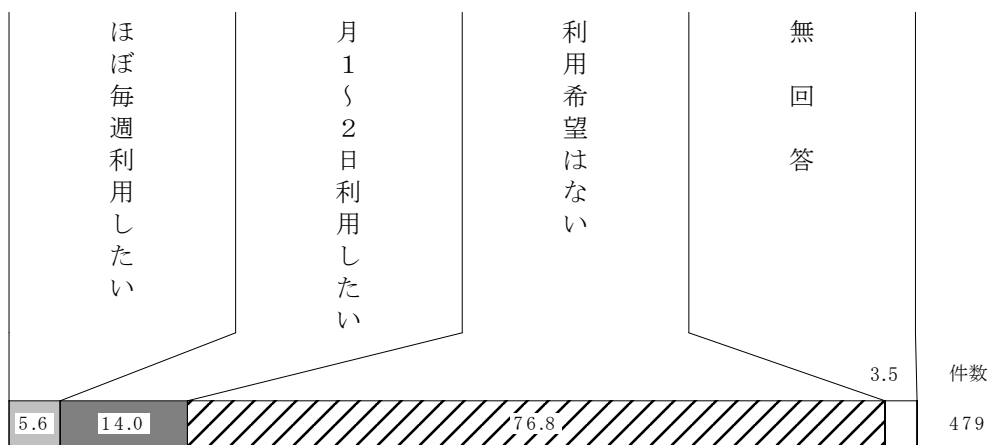
問8 状況：土曜日の利用終了時間 [%]



⑤ 土曜日・日曜日の保育希望

土曜日の保育希望 ■ 「利用希望はない」が77%と大半を占めており、利用希望は20%程度である。

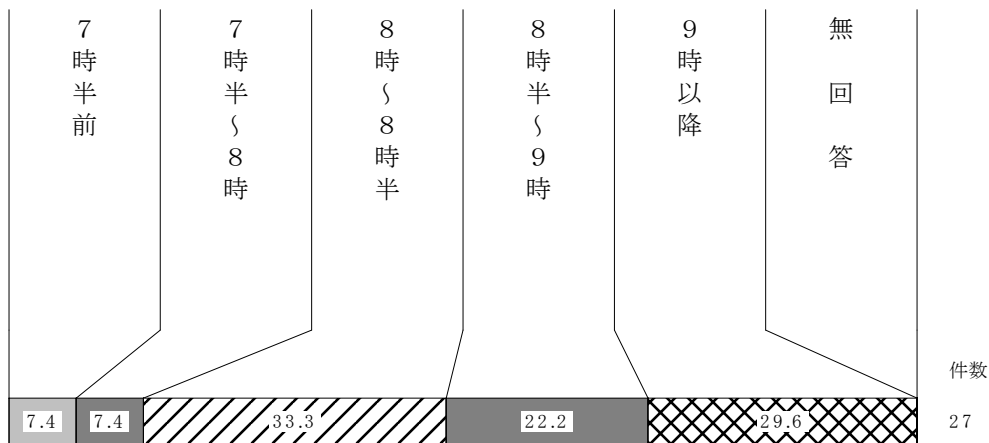
問8 希望：土曜日（1）保育希望 [%]



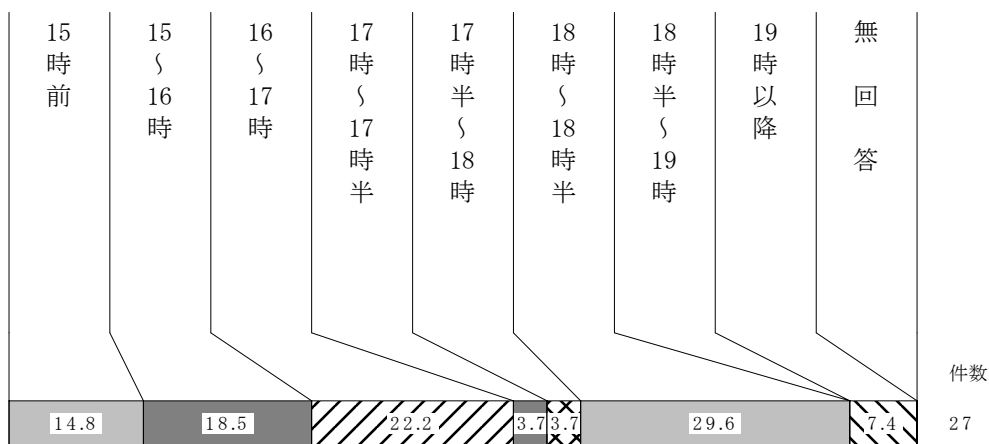
「月1〜2日利用したい」という回答は、3・4歳児の希望者でやや割合が高く、20%前後となっている。また、平日の保育希望者の方が、土曜日の保育希望も高く、現在土曜日の保育利用者も希望が高い。共稼ぎ世帯の方が、土曜日の利用希望が高く、希望率は18%である。

土曜日の保育希望時間 ■ 希望する開始時間は「8時〜8時半」と「9時以降」がそれぞれ30%程度となっている。終了時間は「18時〜18時半」が30%、「16〜17時」が22%、「15〜16時」が19%である。

問8 希望：土曜日（2）希望開始時間 [%]



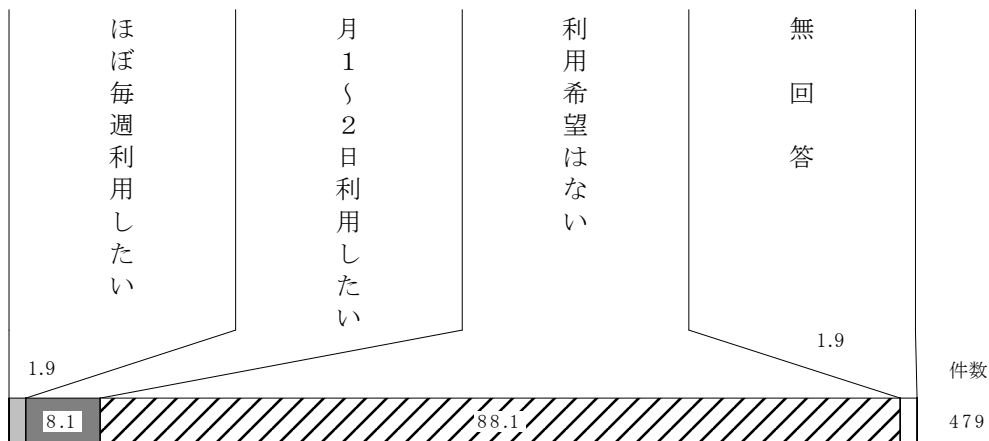
問8 希望：土曜日（2）希望終了時間 [%]



親子だけの世帯の希望者は少数だが、利用終了時間は「18時～18時半」までが多く回答されている。

日曜日の保育希望 ■ 土曜日よりも希望は低下し、「利用希望はない」が88%で、利用希望者は10%である。

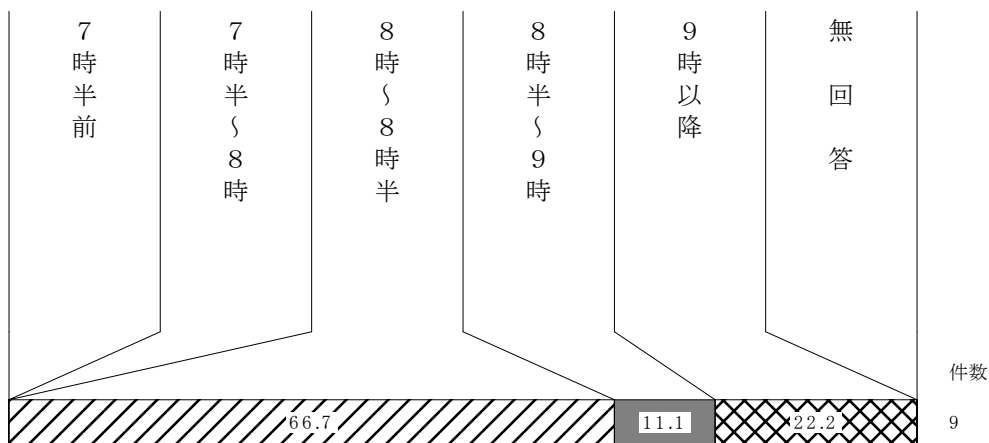
問9 希望：日曜日の保育希望 [%]



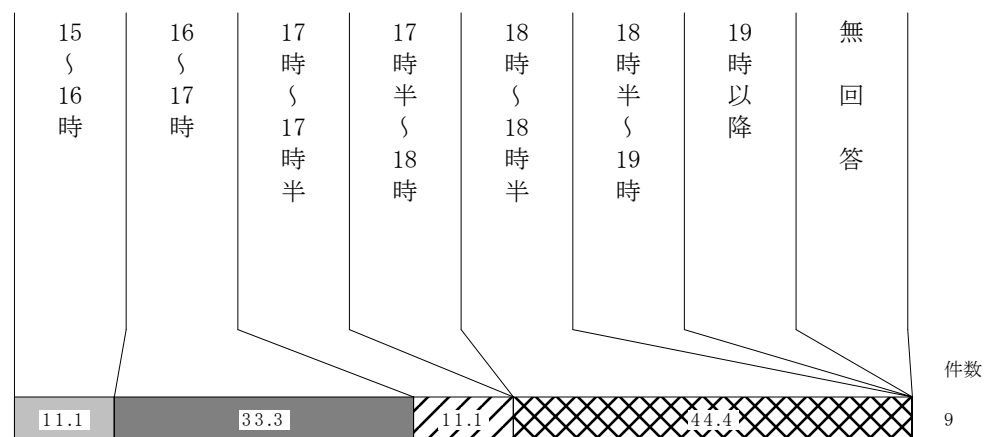
0・1歳児の希望率が他の年齢層よりも若干高く、土曜日の保育希望者は日曜日にも希望する割合が高いといえる。また、共稼ぎ世帯の利用希望率は14%程度とやや高い。

日曜日の保育希望時間 ■ 開始希望時間は「8時～8時半」が67%と多く、終了時間は「18時～18時半」が44%、「16～17時」が33%で続いている。

問9 希望：日曜日 (1) 希望開始時間 [%]



問9 希望：日曜日 (1) 希望終了時間 [%]



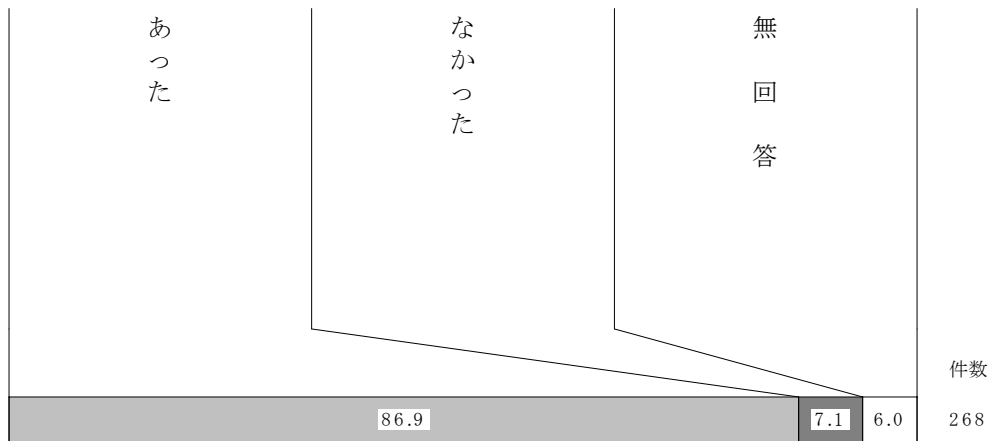
II. 3 一時預かり

- 保育園や幼稚園等を病欠する場合、共稼ぎ世帯は保護者の一方が欠勤するか、親族等に預け、非共稼ぎ世帯は仕事をしていない保護者が世話をしており、日数が長期にわたる回答は少ないが、低年齢児の世帯や共稼ぎ世帯は困難を感じる割合が高い。
- 半数程度が急用等で育児できなかったことがあったが、親族に預けるまたは配偶者が育児して対応しており、共稼ぎ世帯は困難度がやや高い。
- 泊りがけで子ども預けた回答者は15%程度で、親族等に預けたという回答が多い。
- 低年齢児や保育サービス未利用の回答者は、家族以外に子どもを数時間預けたいと思うことがあるという回答が多い。

① 病欠の場合

病欠 ■ 1年間で保育先を病欠したことが「あった」子どもは、87%である。

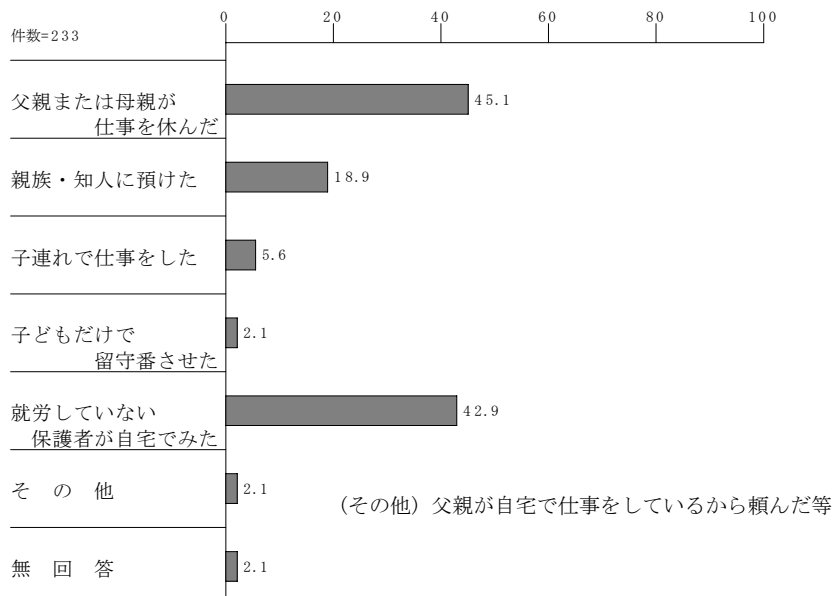
問10 1年間で病気で保育先を休んだこと [%]

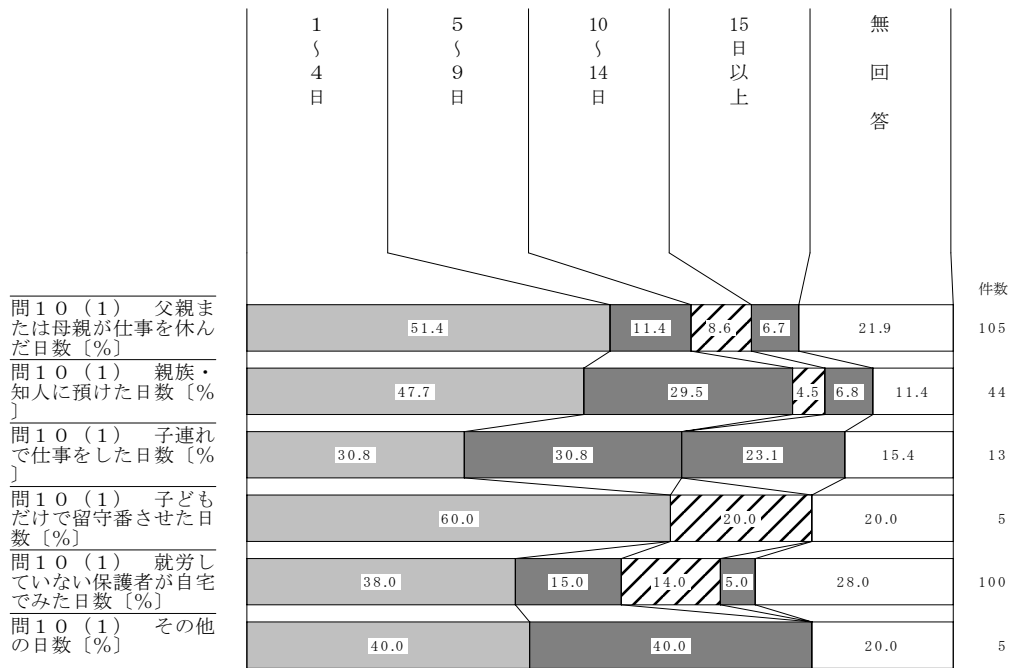


親子だけの世帯の方が、「あった」割合が高く、92%となっている。

病欠した場合の対処法 ■ 「父親または母親が仕事を休んだ」が45%、「就労していない保護者が自宅でみた」が43%で、この2つが主な対処法として多く回答されている。いずれの対処法の場合でも、その日数は「1～4日」が多くなっているが、子連れで仕事をしたという回答者では、「5～9日」の割合も高くなっている。

問10(1) 病気で休んだ際の対処法 [%・複数回答]

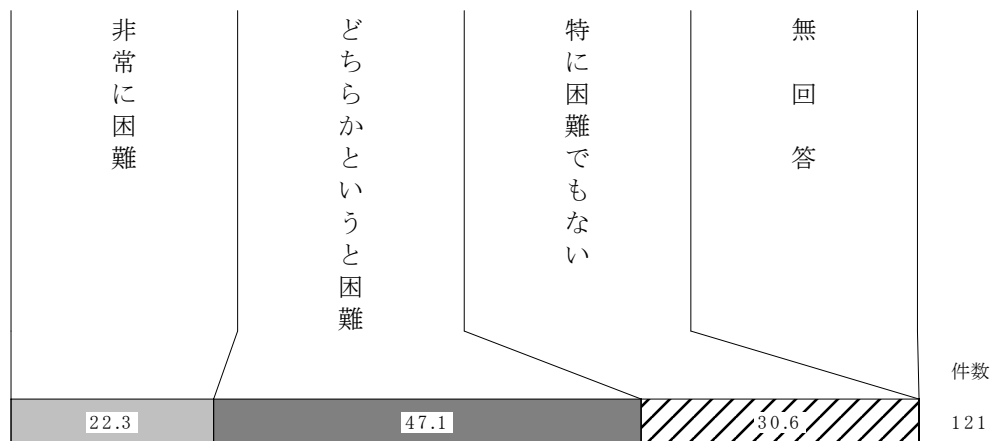




2歳児以下の回答者と親子だけの世帯の回答者で、「父親または母親が仕事を休んだ」割合が高い。また、保育園利用者・共稼ぎ世帯は「父親または母親が仕事を休んだ」割合が高く、幼稚園利用者・非共稼ぎ世帯は「就労していない保護者が自宅でみた」割合が高い。就労していない保護者が自宅でみた日数は、親子だけの世帯は「1~4日」が多いが、同居世帯では「5~9日」が29%と「1~4日」よりも割合が高い。

困難度 ■ 病欠した場合の困難度は、「どちらかという困難」が47%、「特に困難でもない」が31%回答されている。

問10(2) 困難度 [%]

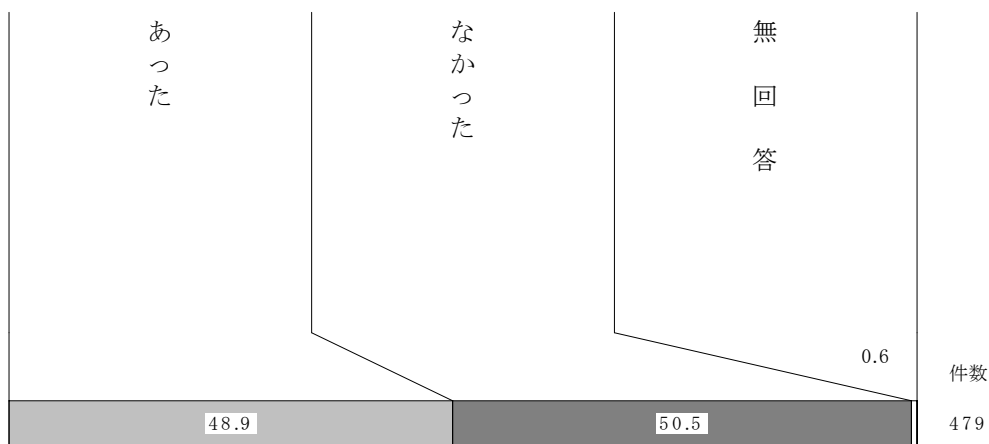


0・1歳児の回答者は、「非常に困難」という回答が多くみられる。また、共稼ぎ世帯の回答者の方が、困難度が高い。

② 育児者が育児できなくなった場合

急用等で育児ができなかったこと■育児できなかったことが「あった」という回答が49%で、「なかった」という回答と僅差である。

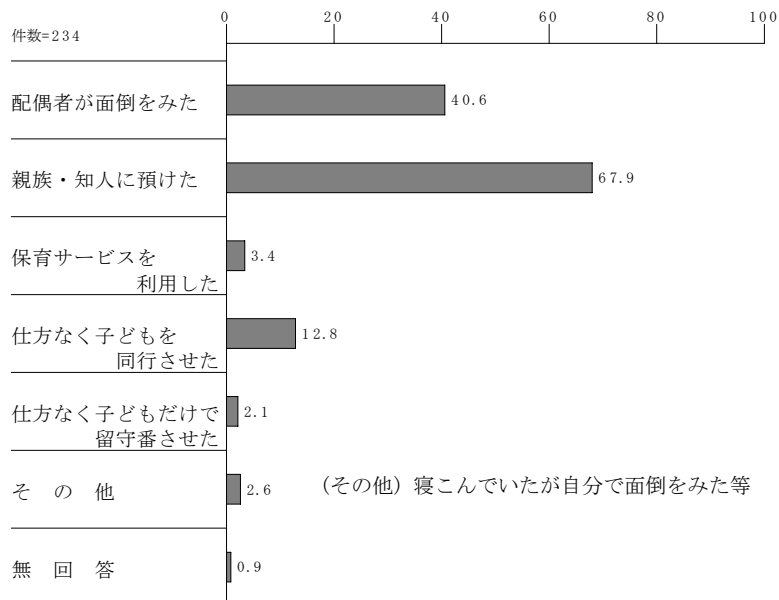
問11 1年間で急用等で育児できなかったこと [%]

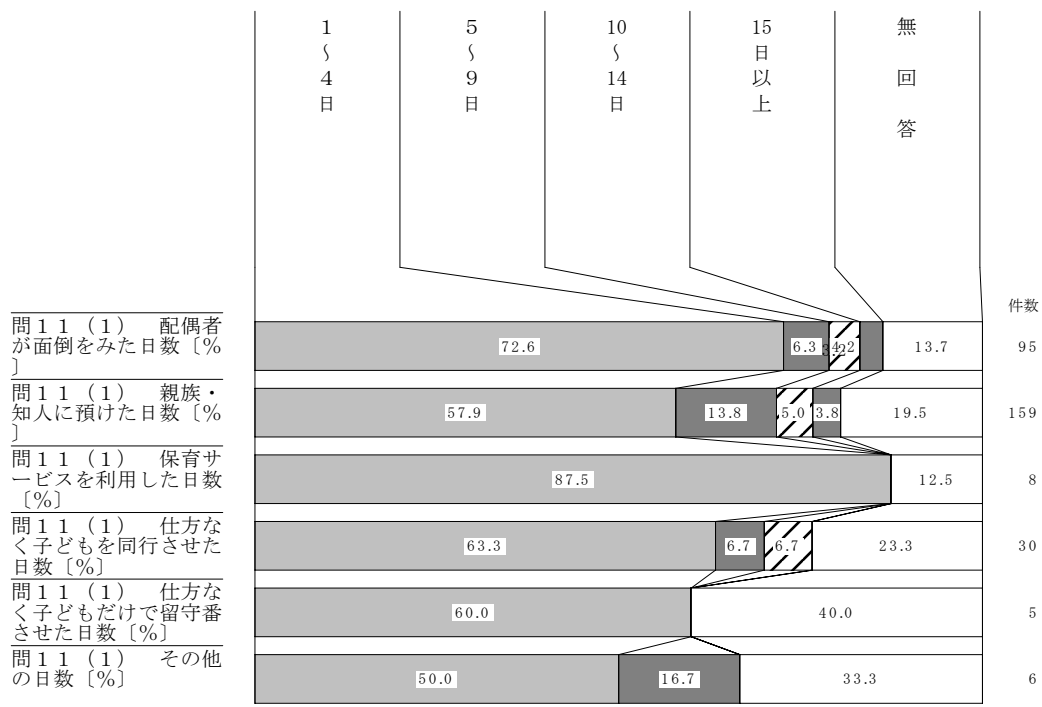


同居世帯は「なかった」割合が60%だが、親子だけの世帯は「あった」が57%と高い。また、新川地区の回答者は「あった」割合が62%と高い。共稼ぎ世帯よりも、非共稼ぎ世帯の方が「あった」割合が10%以上高く、55%に上る。

育児ができない場合の対処法■「親族・知人に預けた」が68%と最も多く、「配偶者が面倒をみた」が41%で続いている。いずれの対処法でも、その日数は「1～4日」が多くを占めている。

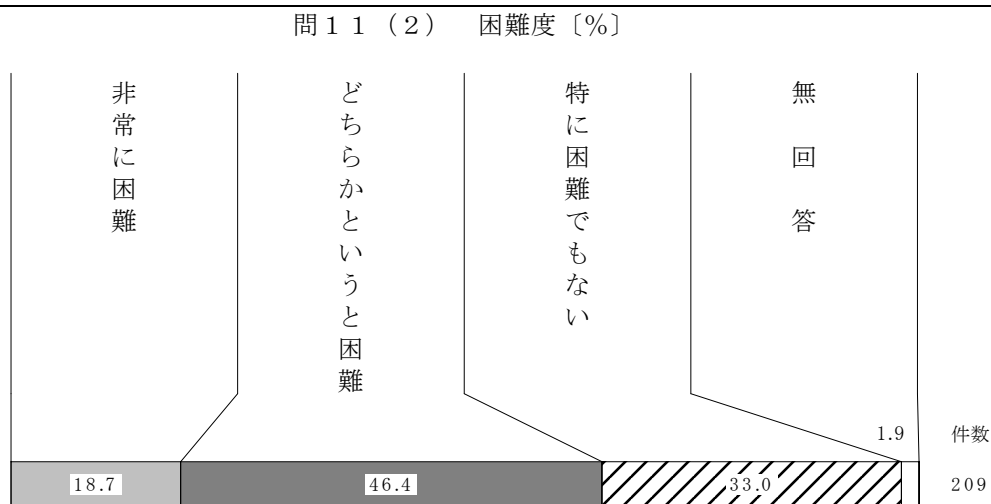
問11(1) 育児できない場合の対処法 [%・複数回答]





「親族・知人に預けた」以外で回答の多い「配偶者が面倒をみた」という回答は、2歳児以下は多く回答されているが、3歳児以上になると割合が低下し、「仕方なく子どもを同行させた」という回答が増えている。日進地区の回答者は、「親族・知人に預けた」割合が88%と特に高い。

困難度 ■ 育児できなかった場合の困難度は、「どちらかという困難」が46%、「特に困難でもない」が33%である。

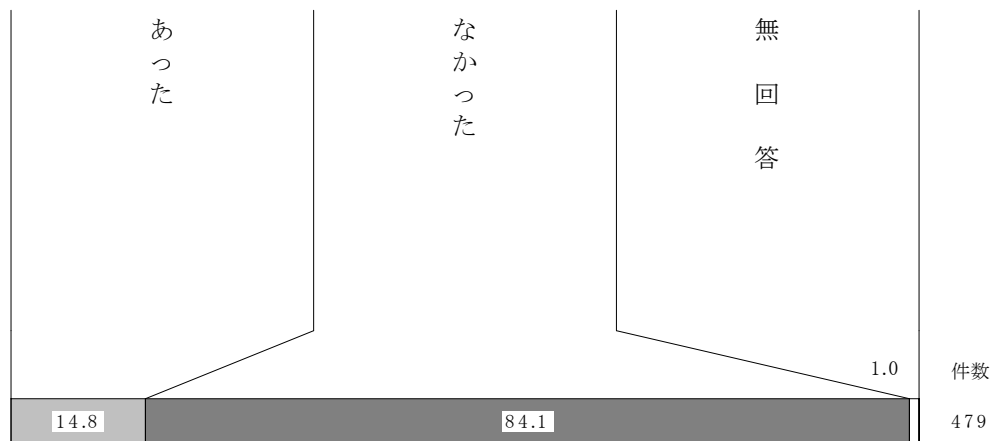


共稼ぎ世帯と保育園利用者の方が、困難度は高くなっている。また、保育サービスを利用した回答者は少数だが、困難度は高いといえる。

③ 泊りがけで子どもを預けたこと

泊りで子どもを預けたこと ■ 預けたことが「あった」という回答が 15%みられる。

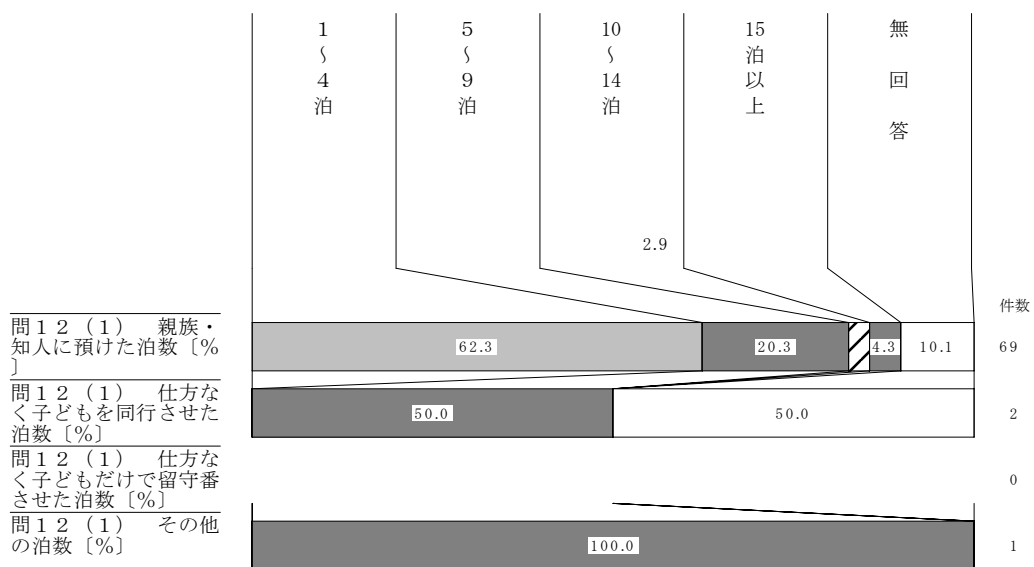
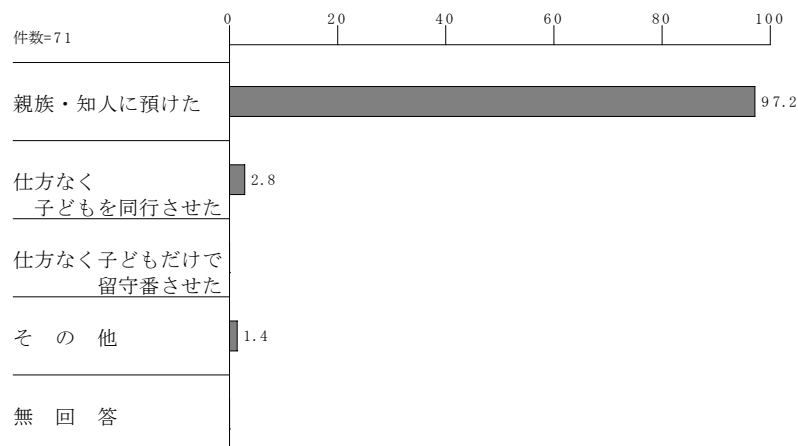
問 1 2 1 年間で泊りで子どもを預けたこと [%]



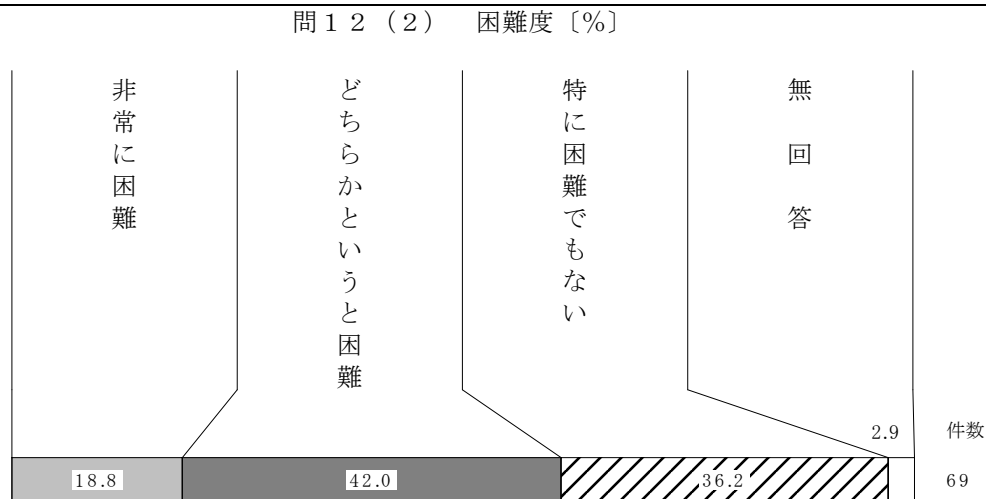
1歳児の回答者で「あった」割合が21%とやや高く、親子だけの世帯でも19%とやや多く回答されている。

泊りがけで預けた場合の対処法 ■ 「親族・知人に預けた」が 97%とほとんどで、対処泊数は「1～4泊」が62%回答されている。

問 1 2 (1) 預けた場合の対処法 [%・複数回答]



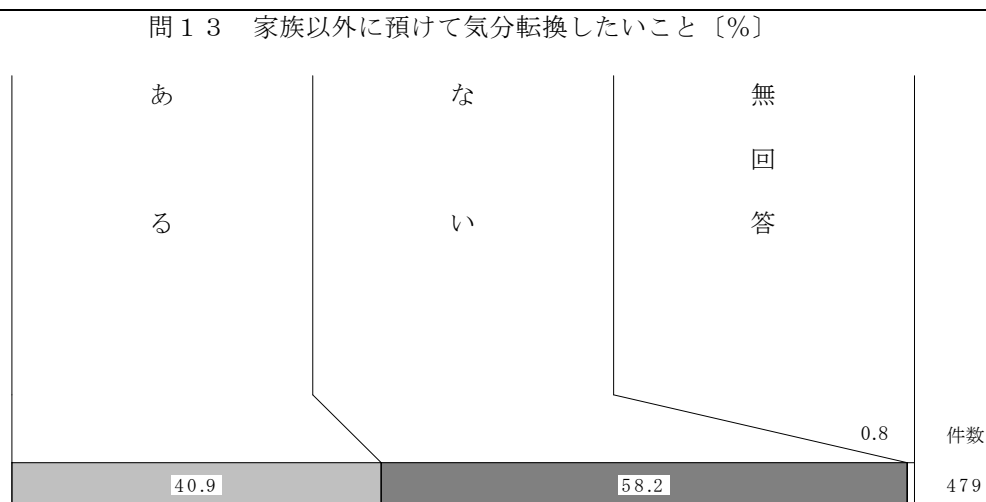
困難度 ■ 「どちらかという困難」が 42%、「特に困難でもない」が 36%で続いている。



0・1歳児の回答者はやや困難度が高いが、2歳児以上になると「特に困難でもない」という回答が増えている。

④ 一時的な預かり

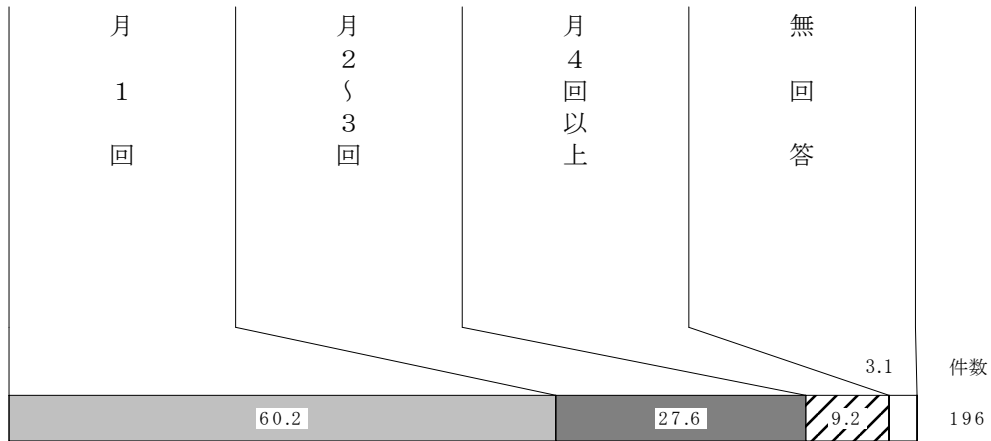
家族以外に預けて気分転換したいこと ■ 「ない」が 58%回答されて多いが、「ある」という回答も 41%に上る。



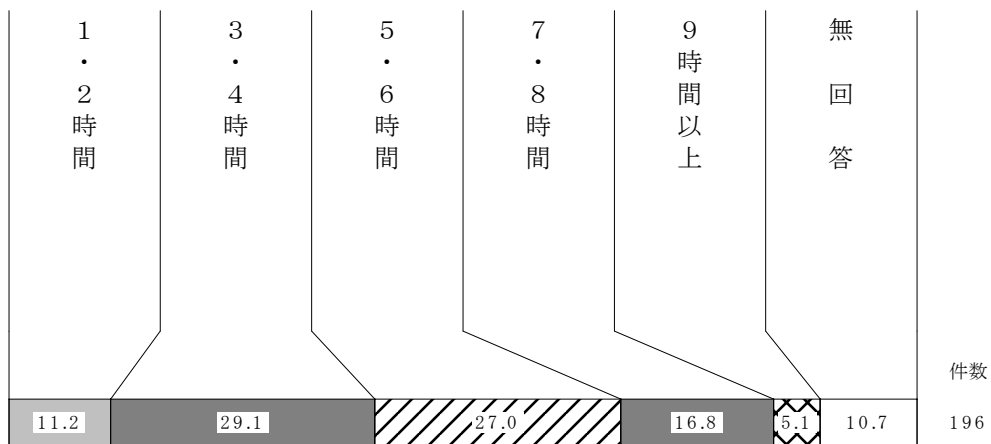
2歳児以下の回答者で「ある」という回答が多くみられ、1歳児では50%に上る。また、親子だけの世帯や非共稼ぎ世帯の方が、「ある」という回答が多くみられる。

預けたい回数 ■ 気分転換したいことがある回答者では、「月1回」の希望が 60%と多く、「月2～3回」が 28%で続いている。預けたい時間は1回「3・4時間」が 29%、「5・6時間」が 27%と僅差である。預ける場合は、「保育園等の施設で預かるサービス」を希望する回答が 79%と特に多くみられる。

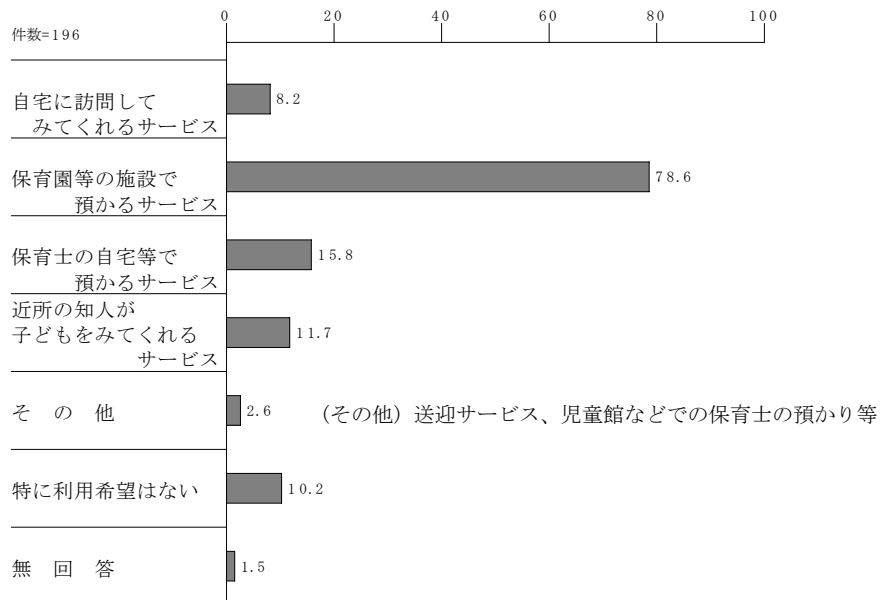
問13 預けたい回数〔%〕



問13 預けたい時間〔%〕



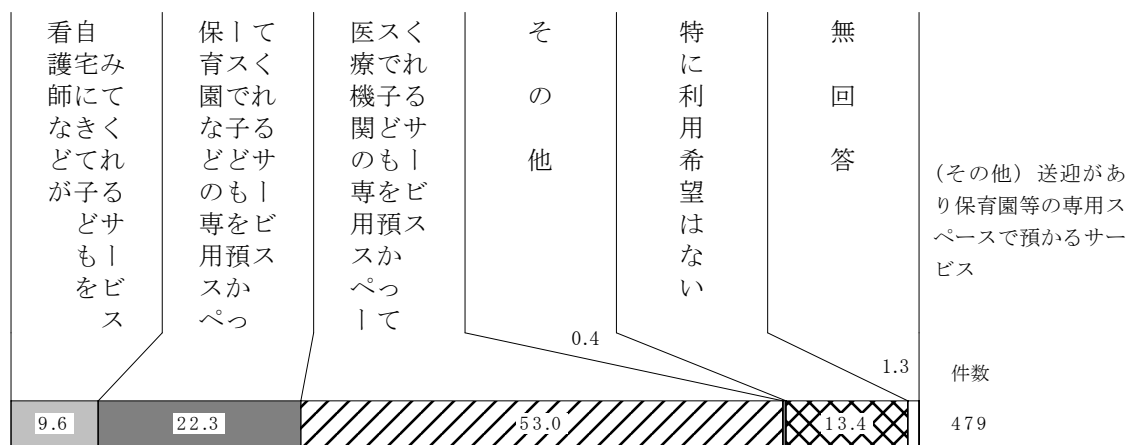
問13 (1) 預ける場合の希望〔%・複数回答〕



0・1歳児の希望者は預けたい回数の頻度がやや高く、子どもの年齢が上がると「月1回」の割合が上昇している。同居世帯の希望者は「月1回」が多く回答されているが、親子だけの世帯の希望者は「月2〜3回」の割合が高まっている。預けたい時間は、非共稼ぎ世帯の希望者は時間が短い、共稼ぎ世帯の希望者は長い時間帯に回答が多くみられる。希望するサービスは、全般的に「保育園等の施設で預かるサービス」が多く回答されているが、0歳児の希望者は「保育士の自宅等で預かるサービス」に29%が回答している。

病中・病後期の預かりサービスの希望 ■ 「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」が53%と多く、ついで「保育園などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」が22%で続いている。

問14 病中・病後期の預かりサービスの希望 [%]



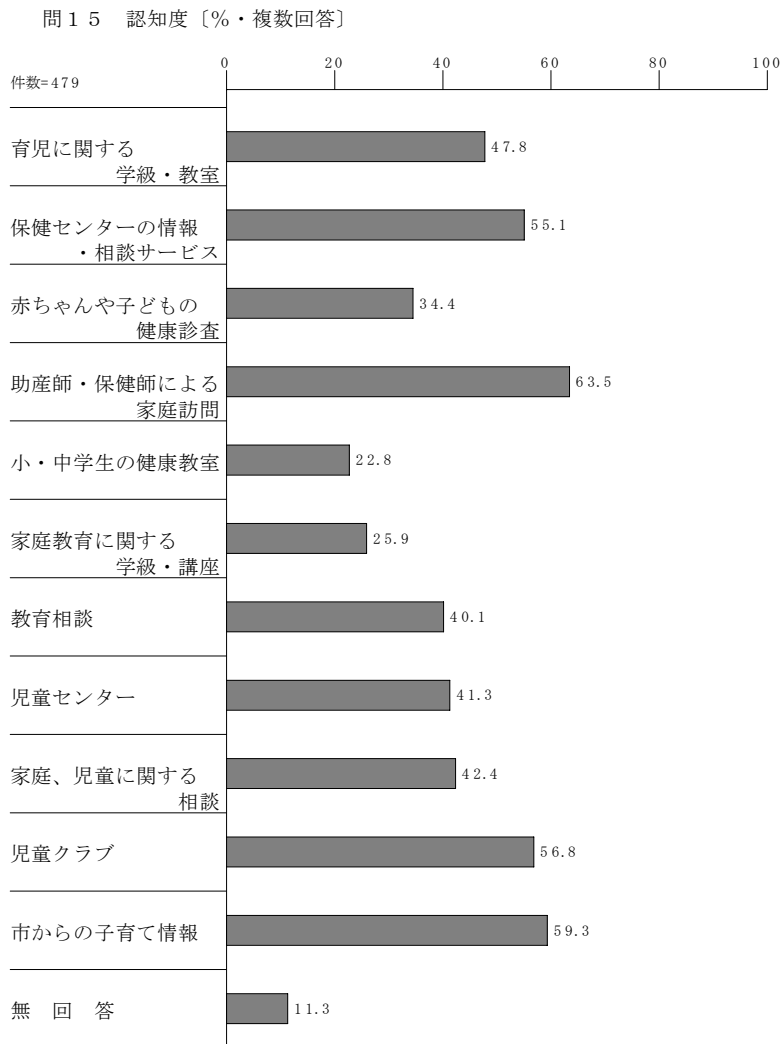
0・1歳児の希望者は「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」を多く回答しているが、2歳児以上になるとその割合がやや低下し、「保育園などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」に回答が移行している傾向がうかがえる。保育園の利用者と共稼ぎ世帯の希望者では、「保育園などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」を希望しており、幼稚園利用者と非共稼ぎ世帯の希望者は「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」の希望が多い。

II. 4 各種サービス

■全般的なサービスの認知度は高いが、利用が少ないサービスは認知度もやや低いといえる。すでに利用したサービスも含まれることから、利用希望は利用率よりも全般的に低い。

① 認知度

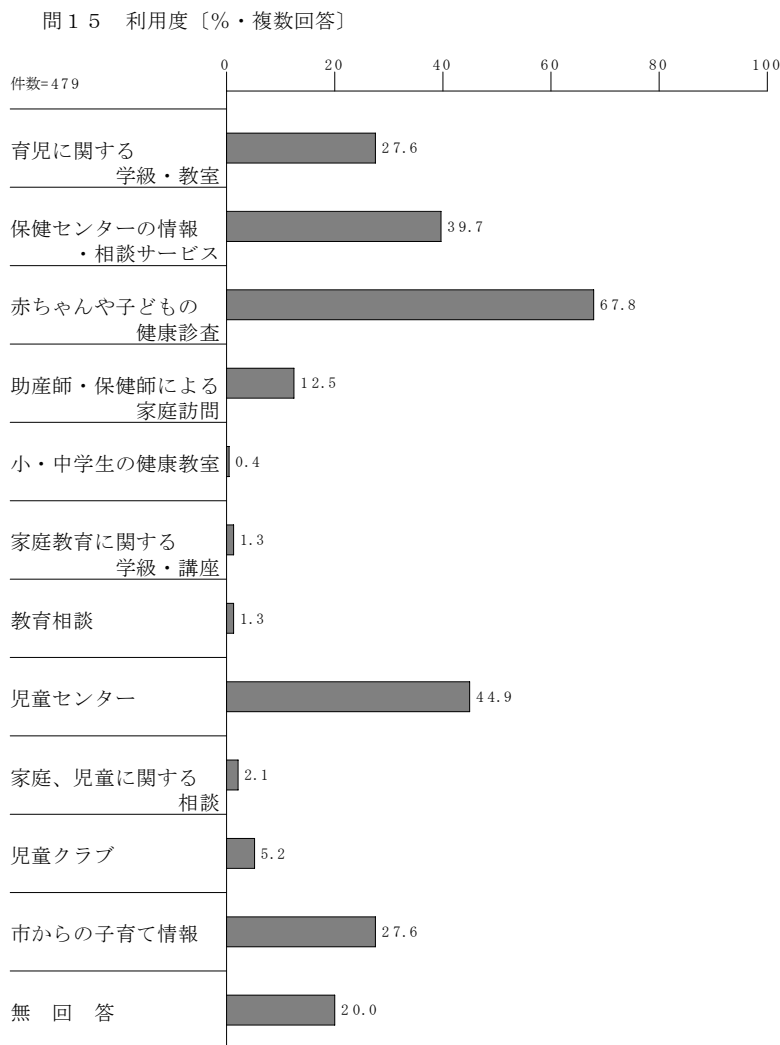
認知度 ■ 「助産師・保健師による家庭訪問」が64%と最も多く、「市からの子育て情報（59%）」「児童クラブ（57%）」「保健センターの情報・相談サービス（55%）」などの認知度が高いが、小学生以上が利用するサービスについては認知度が低いといえる。



最も認知度の高い「助産師・保健師による家庭訪問」は、2歳児で認知度が最も低く、3歳児以上は認知度が各年齢層で70%前後と高い。同様に、「保健センターの情報・相談サービス」についても、子どもの年齢が上がると認知度が高まっている。全般的に、3歳児以上で認知度が高くなっており、低年齢児では「家庭教育に関する学級・講座」や「教育相談」「児童クラブ」「市からの子育て情報」なども利用年齢に達していない部分もあり、認知度がやや低い。保育園利用者よりも、幼稚園利用者は「保健センターの情報・相談サービス」「助産師・保健師による家庭訪問」「教育相談」「児童センター」「児童クラブ」についての認知度が高い。

② 利用度

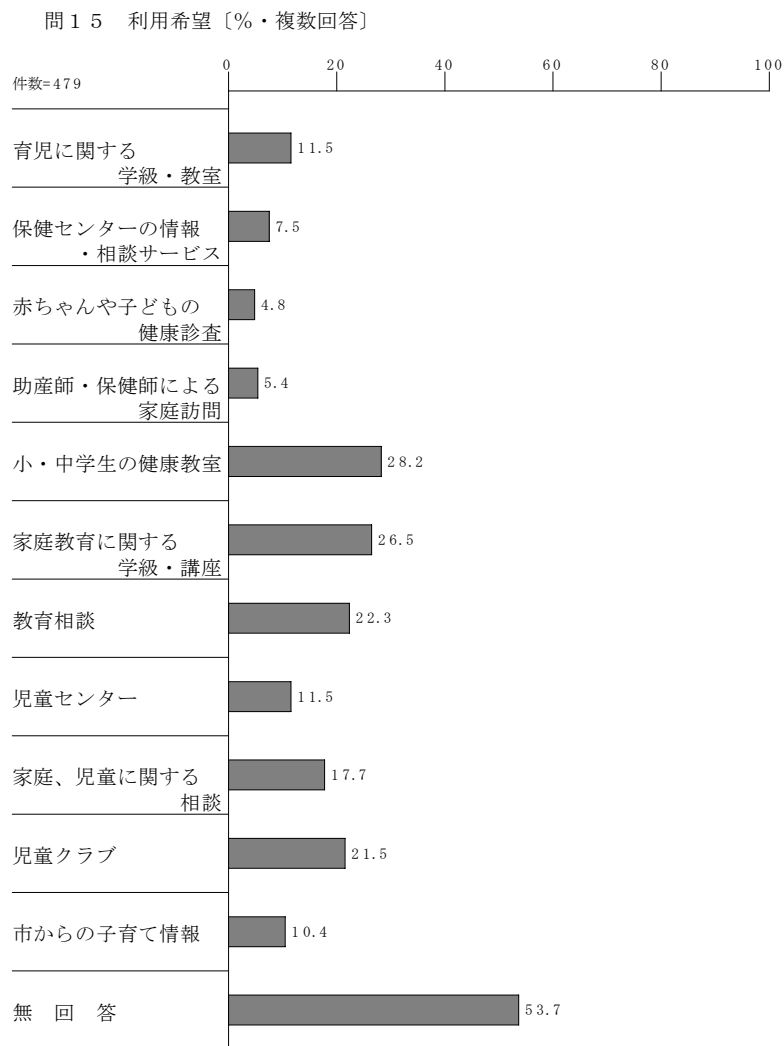
利用度 ■ 「赤ちゃんや子どもの健康診査」が68%と最も利用が多く、「児童センター（45%）」「保健センターの情報・相談サービス（40%）」が続いている。



概ね各種サービスともに、3歳児以下の利用度が高く、なかでも1歳児は「赤ちゃんや子どもの健康診査」「保健センターの情報・相談サービス」の利用率が他の年齢層よりも高い。日進地区の回答者は、「赤ちゃんや子どもの健康診査」「保健センターの情報・相談サービス」の利用率が他地区の回答者に比べて低い。非共稼ぎ世帯は、「赤ちゃんや子どもの健康診査」「保健センターの情報・相談サービス」「育児に関する学級・教育」「市からの子育て情報」の利用率が共稼ぎ世帯に比べてそれぞれ10%以上高い。

③ 利用希望

利用希望 ■ 無回答が多いが、就学以後の「小・中学生の健康教室」「家庭教育に関する学級・講座」「教育相談」「児童クラブ」などの利用希望がそれぞれ 20%を超えている。



低年齢児の回答者は、今後利用するという観点から「児童センター」「児童クラブ」「市からの子育て情報」などの利用希望が高い。また、保育園を現在利用している回答者は、「教育相談」「児童センター」「家庭、児童に関する相談」「児童クラブ」の利用意向が幼稚園利用者に比べて高まっている。

II. 5 家庭・地域での子育て

■母親を中心に父親または祖父母等が育児しているが、ほとんどは母親が担っており、父親の育児頻度は40%に満たない。父親に関わってほしいことは、遊び相手や外出、食事などが回答されており、もう少し関わってほしいという意向がうかがえる。

■父親と母親の話合いと配偶者への相談は、子育ての不安感や負担感との関わりが大きい。家庭内で子育ての安心感が得られ、地域での活動への参加や子育ての情報の入手などができれば安心感は増すといえる。

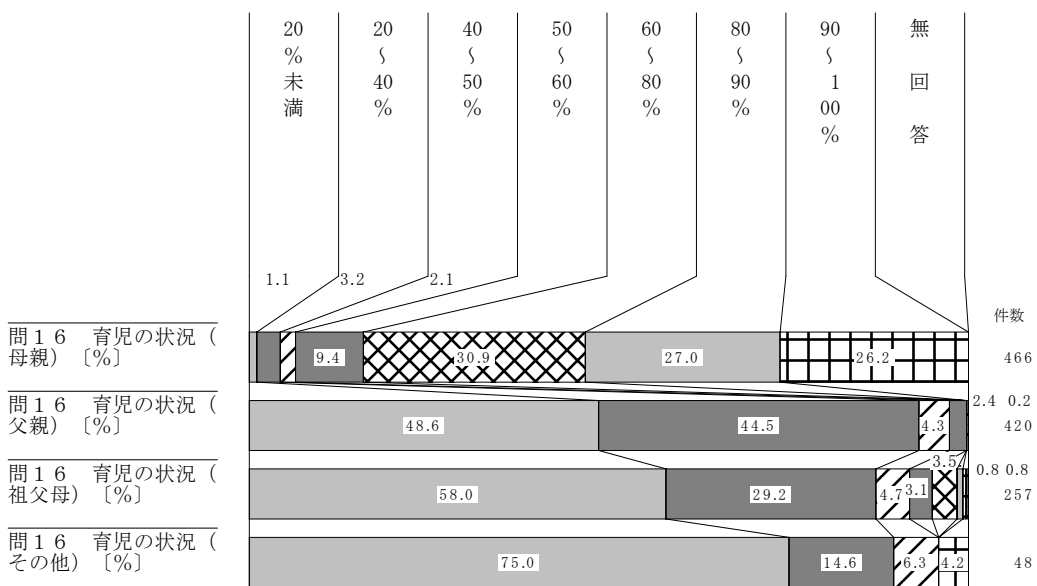
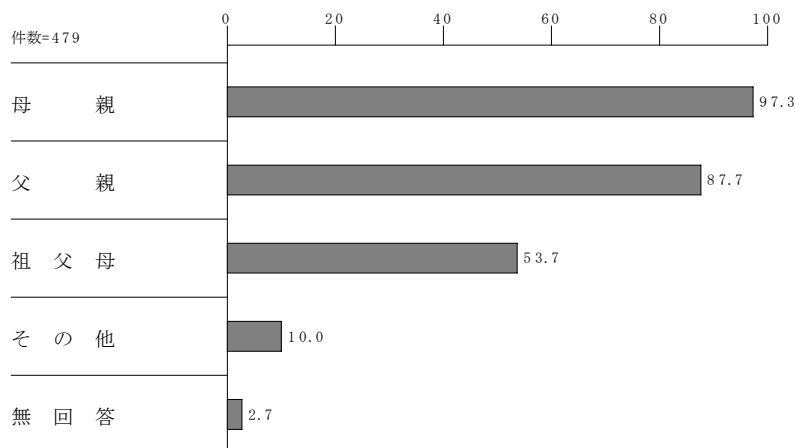
■声かけや危険なことを注意するなど、保護者は地域に期待感を持っているとともに、自分も地域で保育サービスへの送迎などに協力しようという意向がうかがえる。

■経済的負担や仕事・育児・家事の両立が難しいことが、理想の子ども数よりも子どもが少ない理由と考えている回答者が多い。

① 育児状況

育児状況 ■ 「母親」が97%と大半を占め、「父親」が88%、「祖父母」が54%となっている。育児の程度は、母親は「60～80%」が31%、「80～90%」が27%、「90～100%」は26%と、80%以上が半数を超えている。一方、父親は「20%未満」が49%、「20～40%」が45%と、40%以下で93%を占めている。祖父母の場合も父親と同様で、「20%未満」が58%となっており、父親の参加はみられるが、母親の比重がより高いことがわかる。

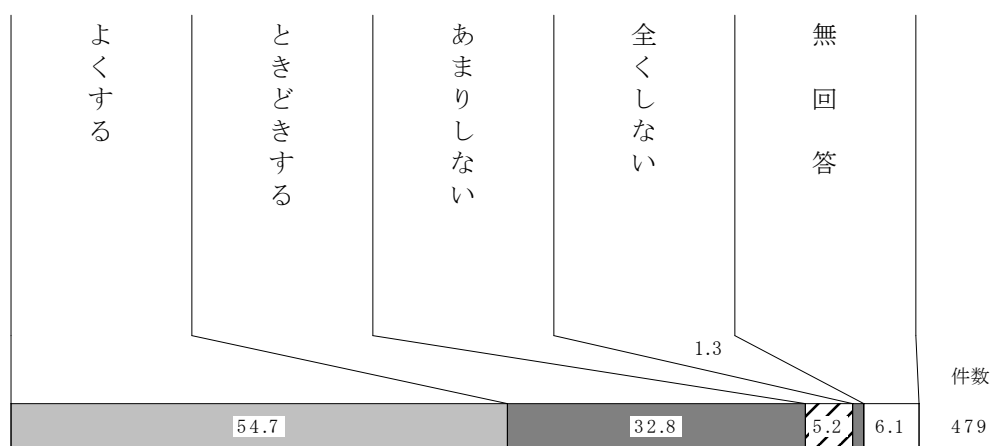
問16 育児の状況 [%・複数回答]



子どもの年齢に関わらず、母親の頻度は高いが、同居世帯は「祖父母」の割合が85%と高く、親子だけの世帯は34%と低い。西端地区の回答者は「祖父母」の割合が他地区に比べて高く、平日親族・知人に預けている回答者も「祖父母」の割合が高い。共稼ぎ世帯は母親の育児の割合が広く分布しているが、非共稼ぎ世帯は母親の育児頻度が高く、高い割合に回答が多く分布している。父親の育児頻度は、同居世帯よりも親子だけの世帯の方が高い。祖父母の育児頻度は、親子だけの世帯は「20%未満」が多くを占めているが、同居世帯では「20%未満」と「20~40%」が同程度と頻度がやや高くなっており、共稼ぎ世帯では祖父母の育児頻度の割合が広く回答されており、個々のケースで異なることがうかがえる。

父親の子どもとの遊び、会話 ■「よくする」が 55%、「ときどきする」が 33%で、大半を占めている。

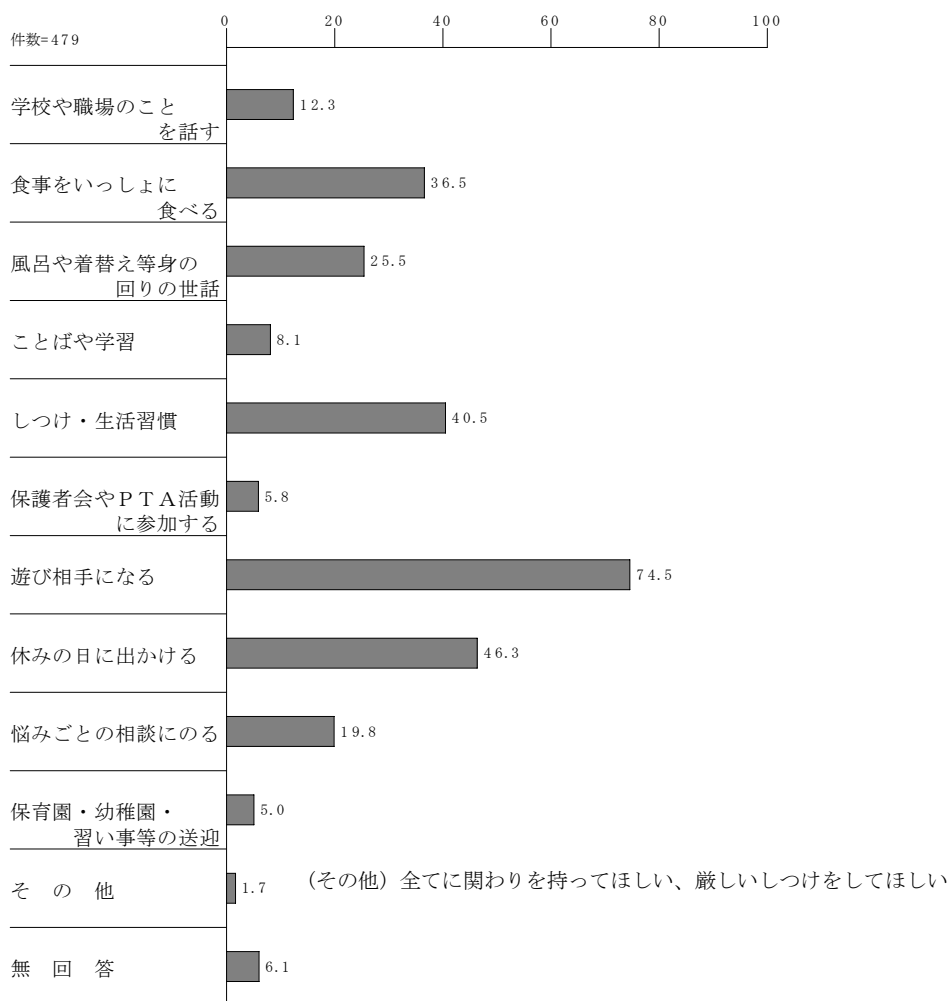
問17 父親の子どもとの遊び、会話 [%]



0歳児の父親は、「よくする」割合が65%と高い。また、父親の育児頻度が高くなると、「よくする」という回答が大幅に上昇している。

父親に関わってほしいこと ■「遊び相手になる」が 75%と最も多く、ついで「休みの日に出かける」が 46%、「しつけ・生活習慣」が 41%で続いている。

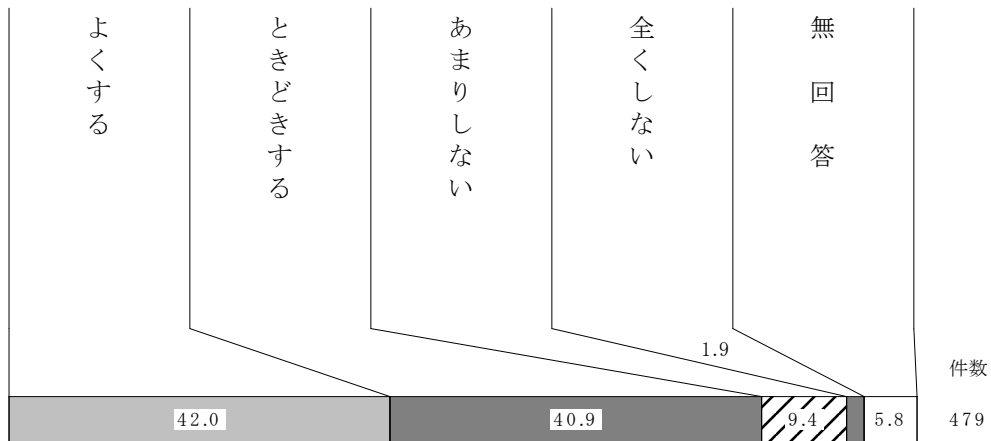
問18 父親に関わってほしい子育て内容 [%・複数回答]



回答の多い「遊び相手になる」「休みの日に出かける」「しつけ・生活習慣」「風呂や着替え等身の回りの世話」は、各年齢層で回答されているが、「休みの日に出かける」ことは0歳児と4歳児の回答者で割合が高く、また、「風呂や着替え等身の回りの世話」は0・1歳児の回答が多く、子どもの年齢が上がると低下している。大浜地区の回答者は、「休みの日に出かける」という回答が62%と高い。幼稚園利用者の方が保育園利用者に比べて全般的に回答率が高く、父親に関わってほしい意向が表れている。また、父親の育児頻度が高くなると、実際に関わっていることから、関わってほしい内容についての回答率は低下し、父親があまり遊んだり、話をしたりしていないと感じている回答者は、「遊び相手になる」ことを望んでいる傾向が強い。

子育てについての話し合い ■ 「よくする」が 42%、「ときどきする」が 41%と同程度で多いが、「あまりしない」も 9%回答されている。

問19 子育てについての話し合い [%]

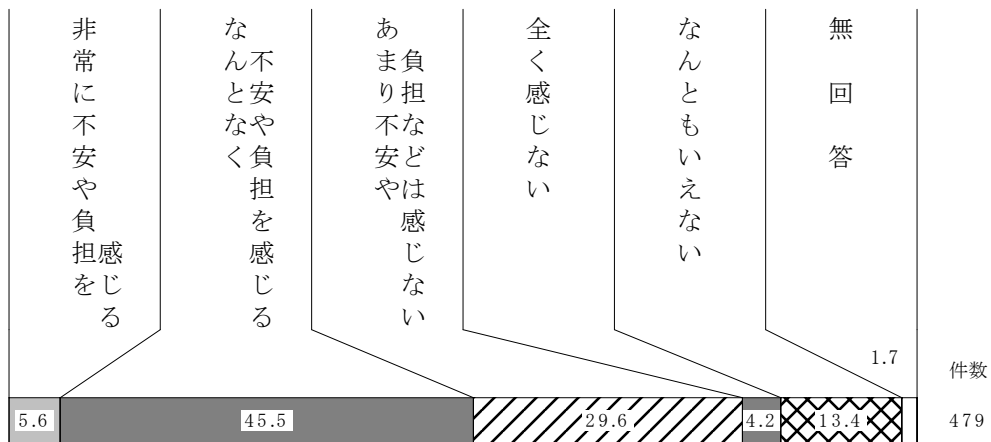


親子だけの世帯の方が「よくする」割合が高く、同居世帯は「ときどきする」割合が高い。父親の育児頻度が高い回答者は、話し合いを「よくする」という回答が78%と高い。あわせて、父親が子どもと遊んだり、会話する頻度が低下すると、話し合いの頻度も低下している。話し合いを「よくする」回答者が、父親に関わってほしいと思っていることは、子どものことばや学習、悩み事の相談にのることが多く回答されている。

② 子育ての不安・負担

子育ての不安度・負担度 ■「なんとなく不安や負担を感じる」が46%と多く、「あまり不安や負担などは感じない」が30%が続いている。

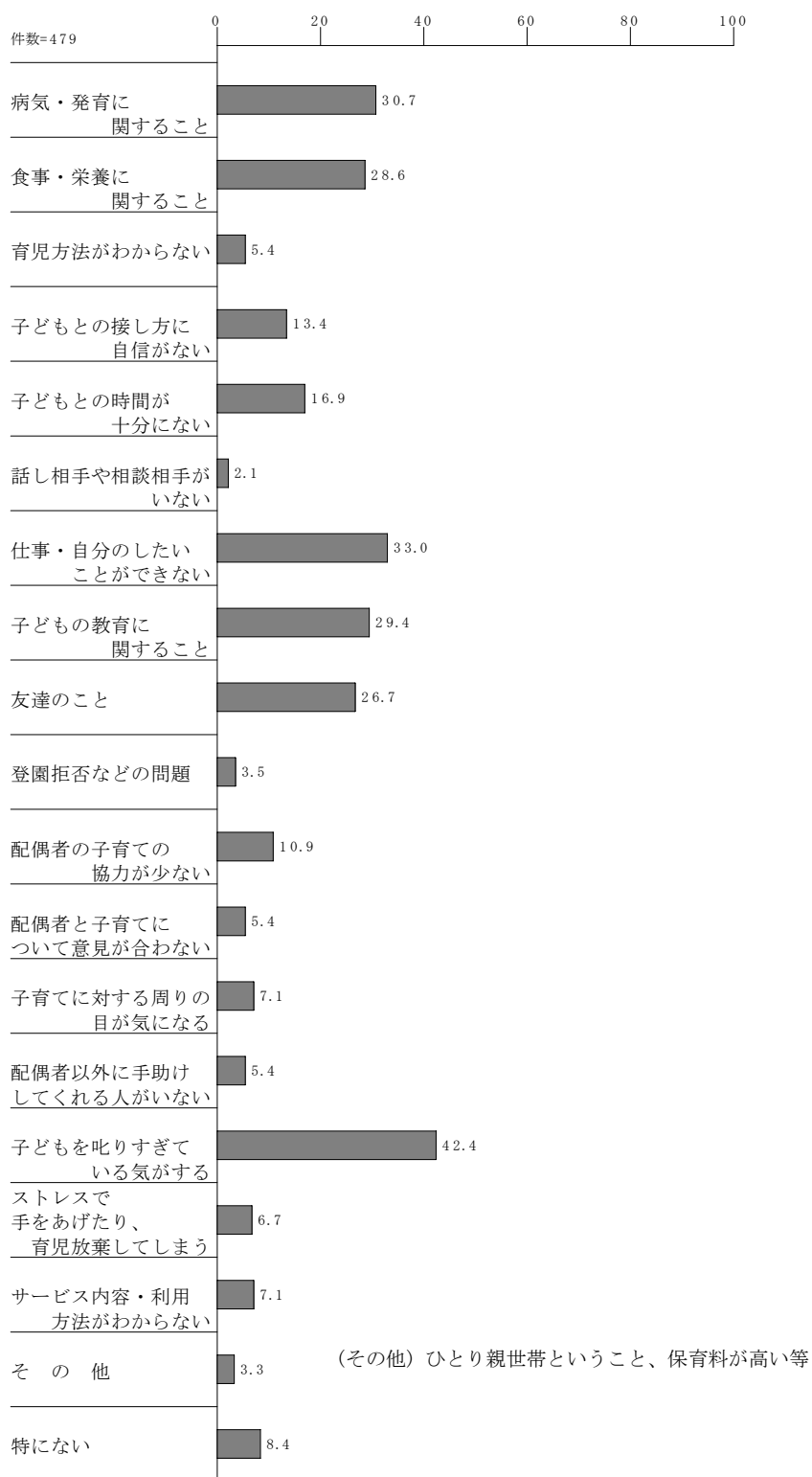
問20 子育ての不安度・負担度 [%]



子どもの年齢、保育先、世帯構成等による差異はさほどみられないが、子育ての話し合いの頻度が低下すると、不安感や負担感が強まっている。

子育ての悩み、気になること ■「子どもを叱りすぎている気がする」が42%と最も多く回答されており、ついで「仕事・自分のしたいことができない(33%)」「病気・発育に関すること(31%)」「子どもの教育に関すること(29%)」「食事・栄養に関すること(29%)」となっている。

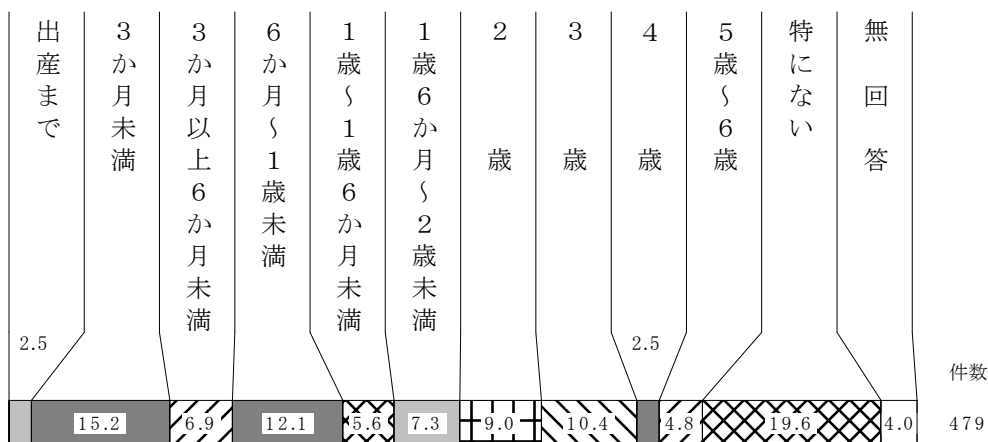
問 2 1 子育ての悩み、気になること [%・複数回答]



0歳児の回答者は、「病気・発育に関すること」「食事・栄養に関すること」「仕事・自分のしたいことができない」などの回答率がやや高い。低年齢児の保育園利用者は、「病気・発育に関すること」や「子どもとの時間が十分でない」ことを多く回答している。幼稚園利用者は、「仕事・自分のしたいことができない」や「子どもの教育に関すること」を多く回答している。両親の話合いの頻度が低下すると、悩みや気になることの回答率が上昇し、子育ての不安度・負担度が高いと、悩みや気になることの回答が増え、回答率も上昇している。

悩み・不安の相談相手がほしかった時期 ■ 「特にない」という回答が20%だが、相談相手のほしかった時期は「3か月未満」が15%、「6か月～1歳未満」が12%など、1歳未満までに回答が多い。

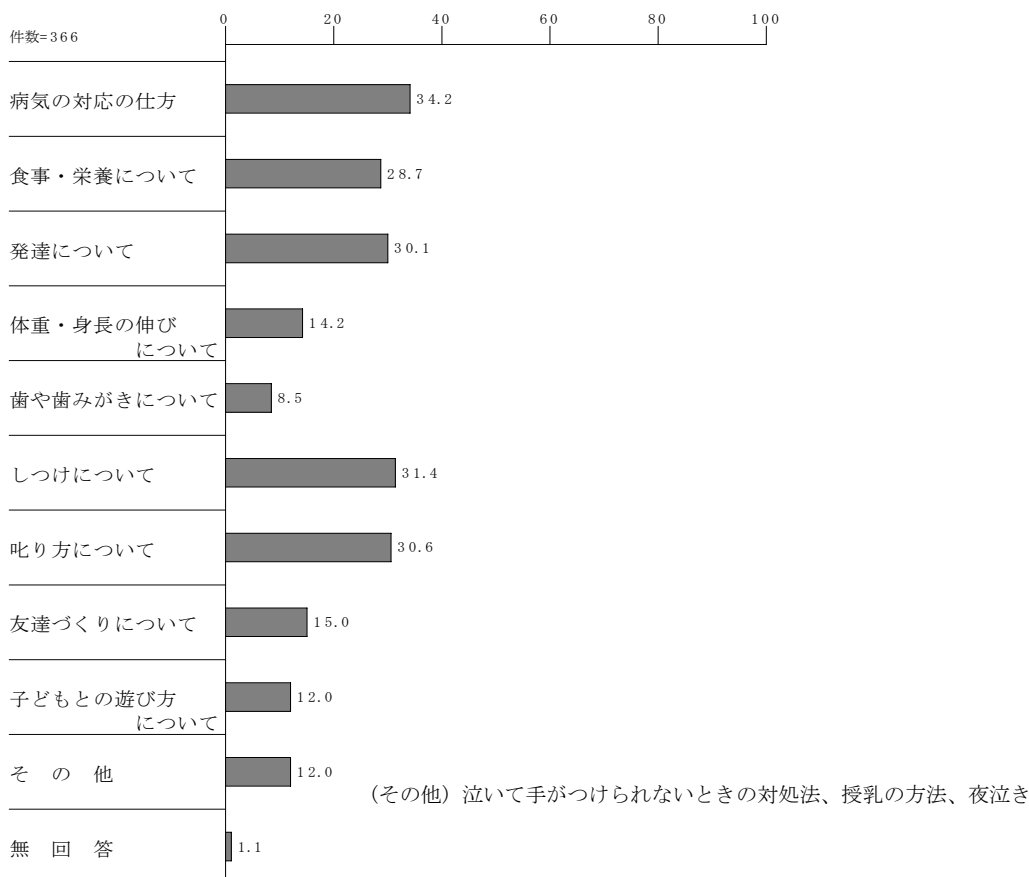
問2.2 悩み・不安の相談相手がほしかった時期 [%]



子どもの年齢や世帯構成などによる差異はみられず、回答がそれぞれに分布している。

相談したかった内容 ■ 相談相手がほしかった時期の相談内容は、「病気の対応の仕方」が34%、「しつけについて」「叱り方について」がそれぞれ31%、「発達について」が30%、「食事・栄養について」が29%となっている。

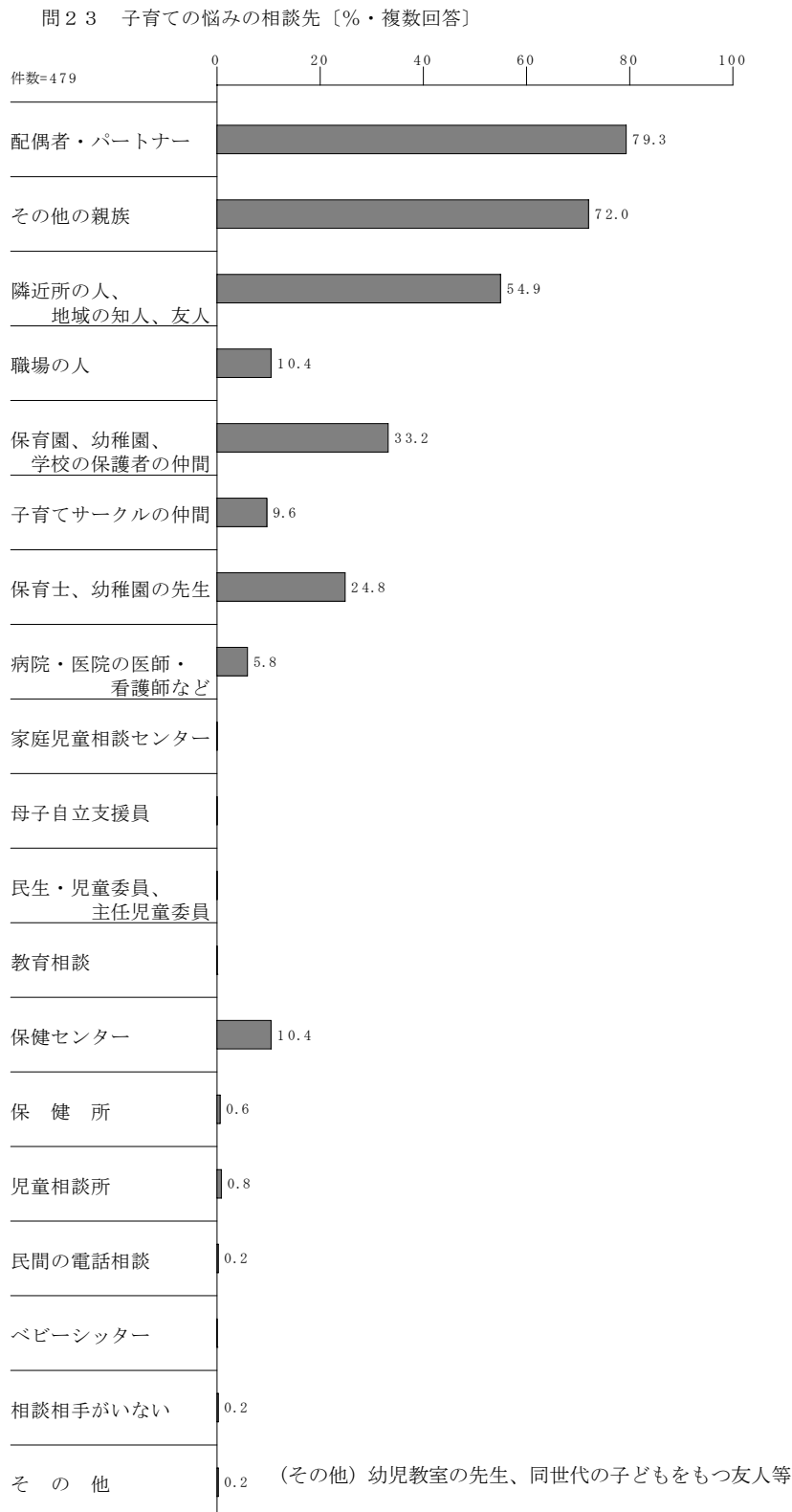
問2.2 (1) 相談したかった内容 [%・複数回答]



「病気の対応の仕方」が0歳児と4歳児の回答者で多く回答されており、「しつけについて」と「叱り方について」は、1～3歳児の回答者で割合が高く、「発達について」は、3歳児以上で多く回答されている。また、「病気の対応の仕方」と「発達について」は、幼稚園利用者よりも保育園利用者の方が割合は高い。相談相手がほしかった時期と相談したかった

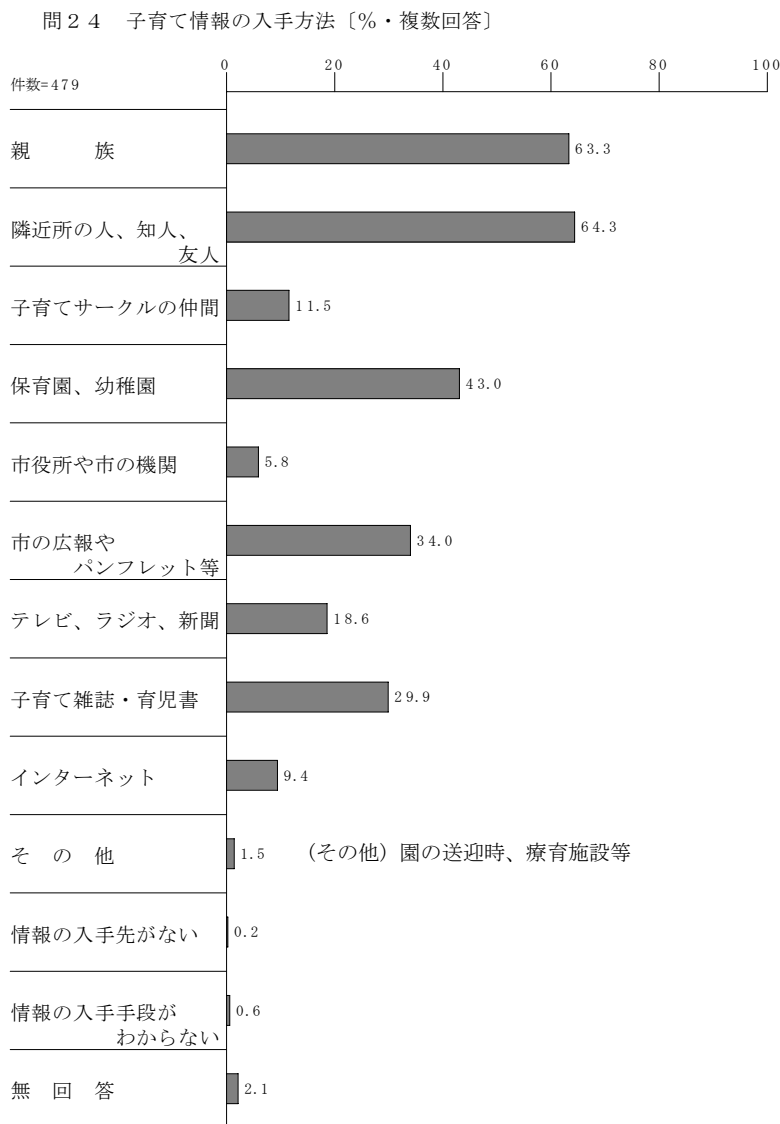
内容を比べると、「病気の対応の仕方」は1歳未満までに回答が多く、「しつけについて」は1歳6か月以上、「叱り方について」は1歳以上で特に割合が高くなっており、子どもの発達段階にあわせて相談したい内容が変化していることがわかる。

相談先 ■ 「配偶者・パートナー」が79%と最も多く回答されており、「その他の親族」が72%で続いている。その他では、「隣近所の人、地域の知人、友人(55%)」「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間(33%)」「保育士、幼稚園の先生(25%)」などが回答されており、相談相手が複数いる回答者が多いことがうかがえる。



「配偶者・パートナー」と「その他の親族」は各年齢層で相談先として多く回答されているが、「その他の親族」は保育サービスを利用し始める3歳児以上になると低下傾向で、「保育園・幼稚園、学校の保護者の仲間」の割合が大幅に上昇する。親子のみ世帯の方が、「隣近所の人、地域の知人、友人」に相談する割合が高い。幼稚園利用者は、保育園利用者に比べて「配偶者・パートナー」に相談する割合が90%と高く、保育園利用者は、「配偶者・パートナー」の他、「保育園・幼稚園、学校の保護者の仲間」や「保育士・幼稚園の先生」の回答率が高い。また、親族・知人に預けている回答者は、「その他の親族」に相談し、両親が子育ての話合いをしている回答者は、「配偶者・パートナー」に相談する割合が特に高い。「配偶者・パートナー」や「その他の親族」には様々な悩みや気になることを全般的に相談している様子が見え、「隣近所の人、地域の知人、友人」には、育児方法や子どもとの接し方、配偶者との子育て感の相違や配偶者以外の手助け、子育て支援のサービスについて相談する傾向がやや強くみられる。

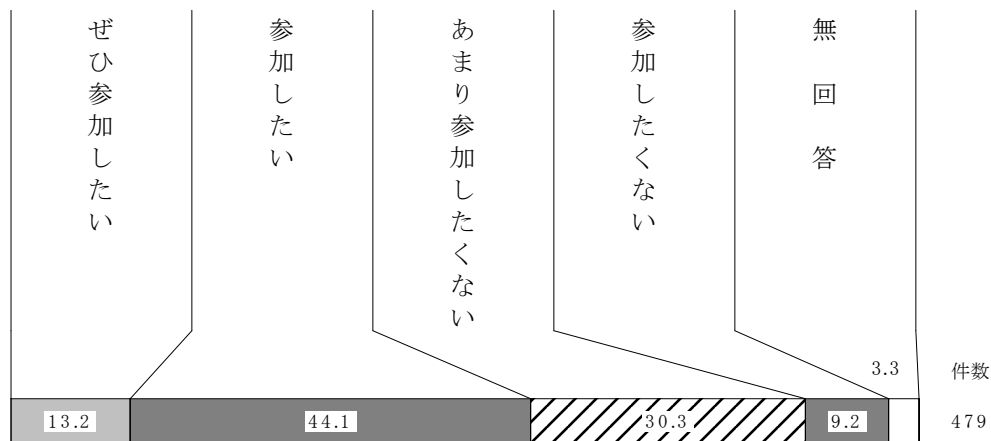
子育て情報の入手方法 ■ 「隣近所の人、知人、友人」が64%、「親族」が63%とともに多く、「保育園・幼稚園」が43%で続いており、相談先と類似した回答が多くみられる。その他では、「市の広報やパンフレット等」が34%、「子育て雑誌・育児書」が30%回答されており、何らかの情報入手方法がある回答者がほとんどである。



「親族」や「子育て雑誌・育児書」から情報を得る割合は、子どもの年齢が上がると低下し、3歳児以上になると「保育園、幼稚園」から情報を得る回答が大幅に増えている。相談相手と同様に、親子だけ世帯の方が「隣近所の人、知人、友人」から情報を得ている割合が高い。育児方法がわからないことを悩んでいる回答者は、「子育て雑誌・育児書」を多く回答しており、「友達のこと」「配偶者の子育ての協力が少ない」ことなどを気にしている回答者は、「保育園、幼稚園」で情報を入手しているという回答が多くみられる。

子育ての仲間づくり機会への参加 ■「ぜひ参加したい」が13%、「参加したい」が44%で、参加意向は57%と高い。

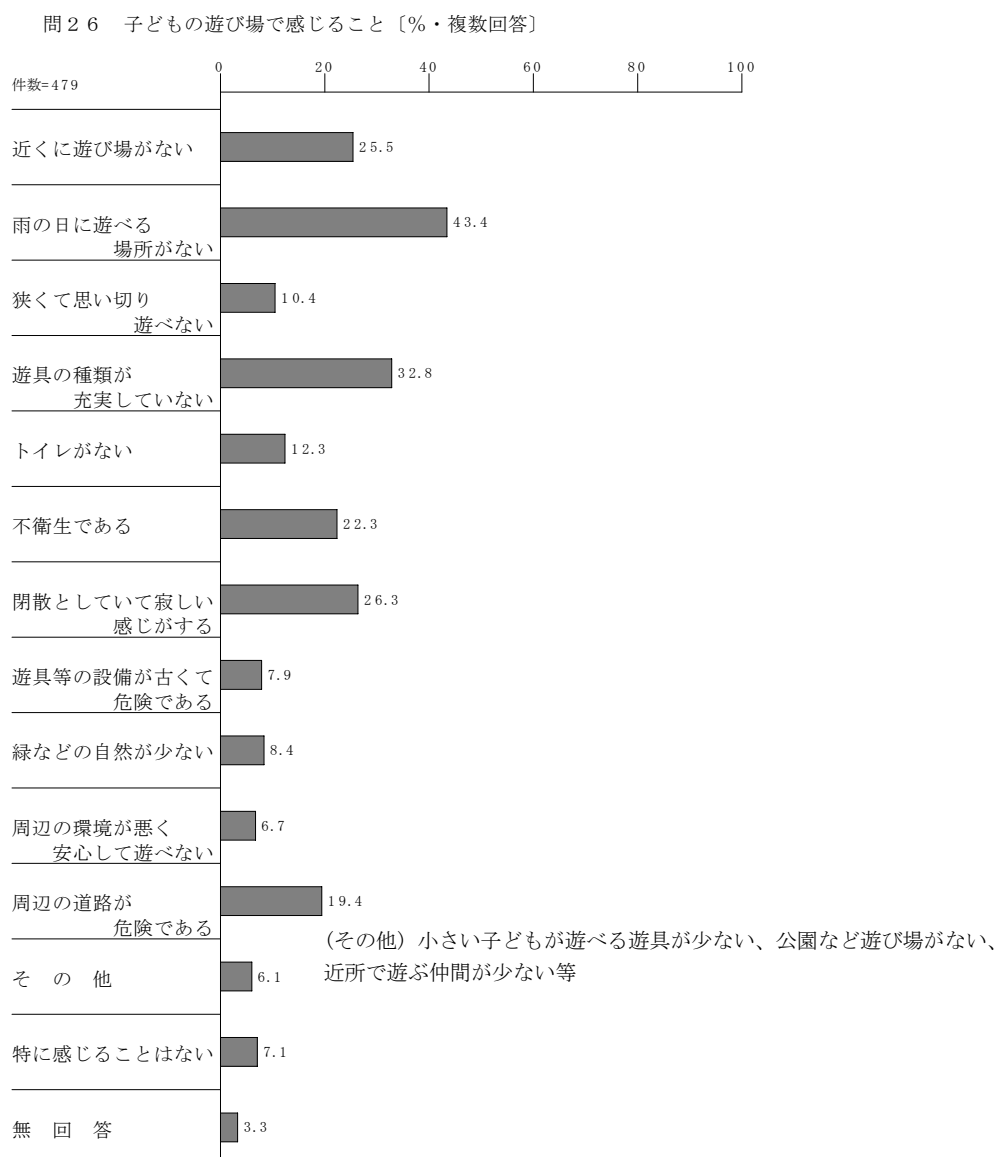
問25 子育ての仲間づくり機会への参加 [%]



0・1歳児の回答者は参加意向が高く、子どもの年齢が上がると「あまり参加したくない」という回答が増えている。非共稼ぎ世帯の参加意向が高く、参加したい（「ぜひ参加したい」と「参加したい」の計）という回答は64%に上る。

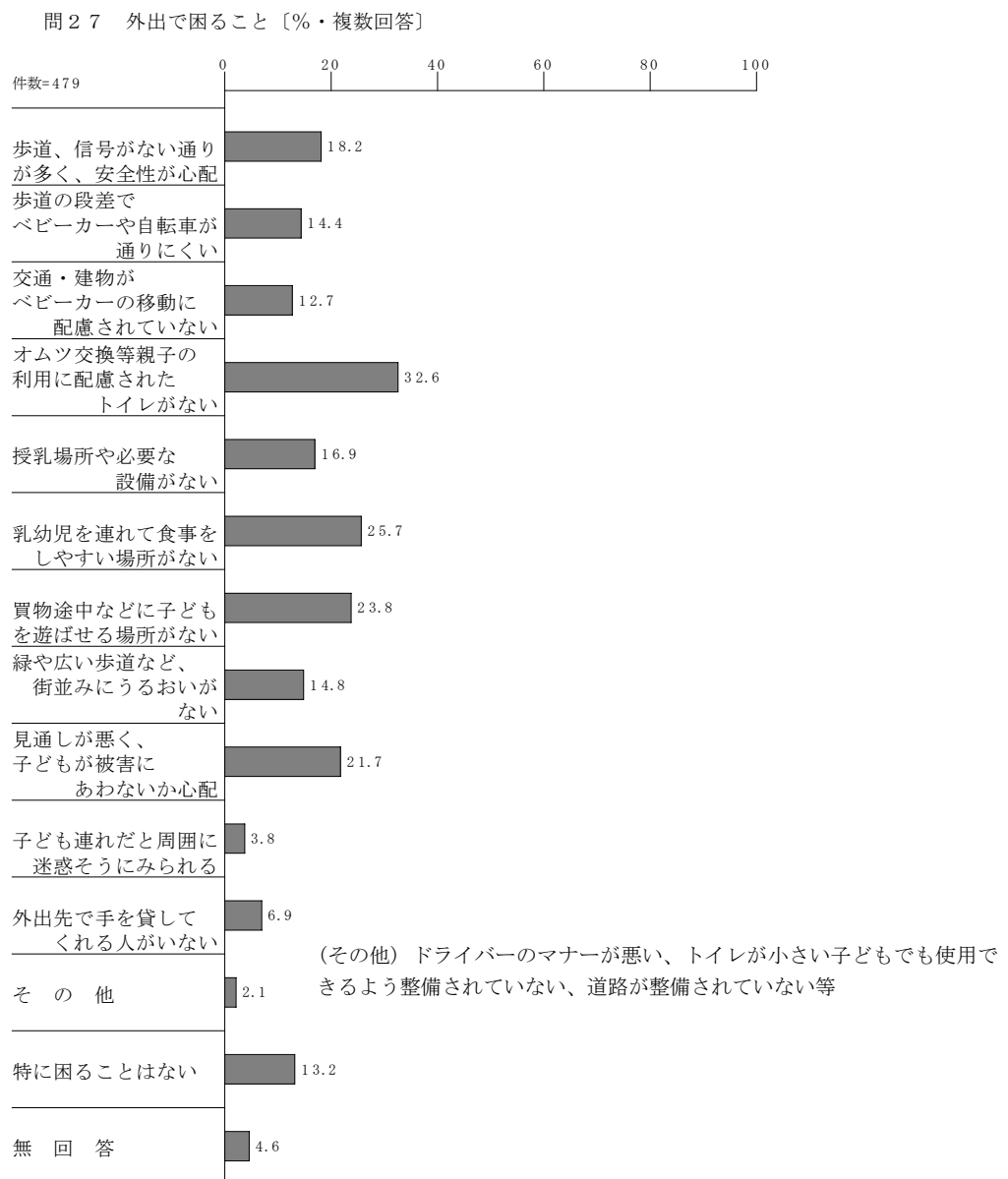
③ 遊び場・外出

子どもの遊び場で感じること■「雨の日に遊べる場所がない」が43%と多く、「遊具の種類が充実していない」が33%、「近くに遊び場がない」と「閑散としていて寂しい感じがする」がそれぞれ26%となっている。



0歳児の回答者は、「閑散としていて寂しい感じがする」という回答が38%と高く、5歳児では「雨の日に遊べる場所がない」が53%回答されている。「雨の日に遊べる場所がない」という回答は、共稼ぎ世帯で多く回答されているが、地区別では新川地区と西端地区の回答者に多くみられる。また、新川地区と西端地区の回答は、「近くに遊び場がない」という回答も、多くみられる。「不衛生である」という回答は中央地区の回答者で39%と多く、全体ではさほど多く回答されていない「トイレがない」という回答は、西端地区の回答者で25%回答されている。

外出で困ること■「オムツ交換等親子の利用に配慮されたトイレがない」が33%、「乳幼児を連れて食事をしやすい場所がない」が26%、「買物途中などに子どもを遊ばせる場所がない」が24%、「見通しが悪く、子どもが被害にあわないか心配」が22%と、差異なく回答されている。



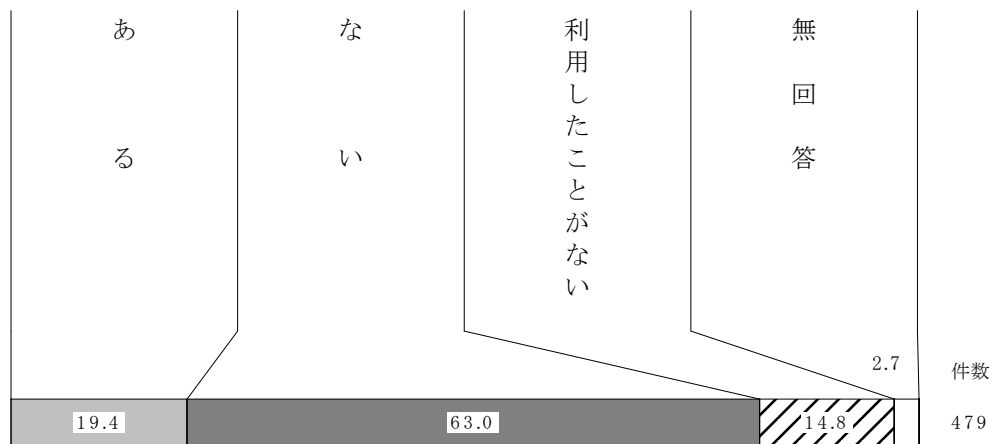
0歳児の回答者は、「オムツ交換等親子の利用に配慮されたトイレがない」や「授乳場所や必要な設備がない」「交通・建物がベビーカーの移動に配慮されていない」を他の年齢層よりも多く回答しており、1歳児の回答者は「オムツ交換等親子の利用に配慮されたトイレがない」の他に、「乳幼児を連れて食事をしやすい場所がない」が44%と多く回答されている。2歳児以上は子どもの年齢が上がるとともに、「見通しが悪く、子どもが被害にあわないか心配」という回答が増えており、5歳児では32%に上る。

鷺塚地区は、「オムツ交換等親子の利用に配慮されたトイレがない」という回答が特に多く、46%に上る。大浜地区と幼稚園利用者では、「歩道、信号がない通りが多く、安全性が心配」という回答が27%回答されている。共稼ぎ世帯では、「見通しが悪く、子どもが被害にあわないか心配」という回答が30%と、非共稼ぎ世帯に比べて13%割合が高く、非共稼ぎ世帯では「オムツ交換等親子の利用に配慮されたトイレがない」が37%回答されており、共稼ぎ世帯よりも15%以上割合が高い。

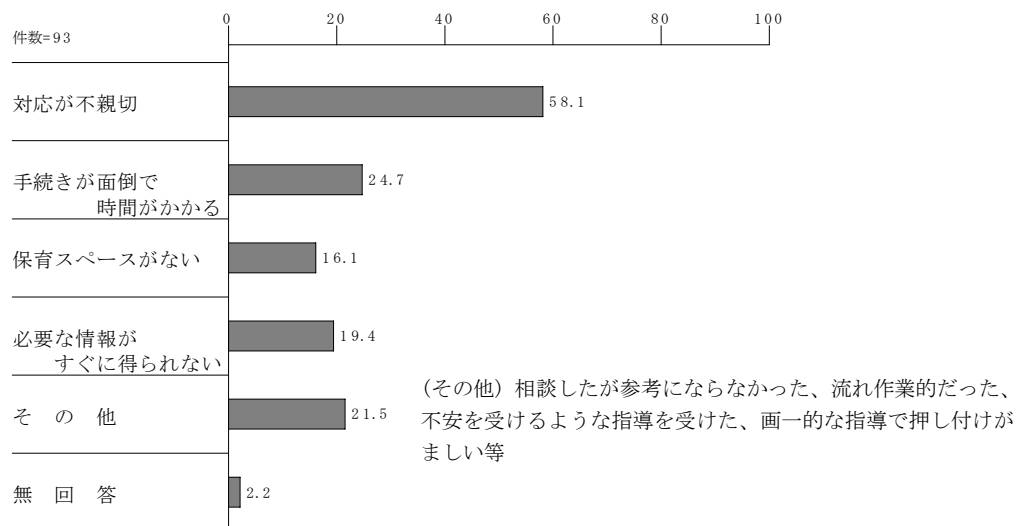
④ 市役所の対応と地域での子育て

市役所等の対応で不満に思ったこと■「ない」が63%と多いが、「ある」という回答者が19%みられ、「対応が不親切」などがその内容として多く回答されている。

問28 市役所等の対応で不満に思ったこと [%]

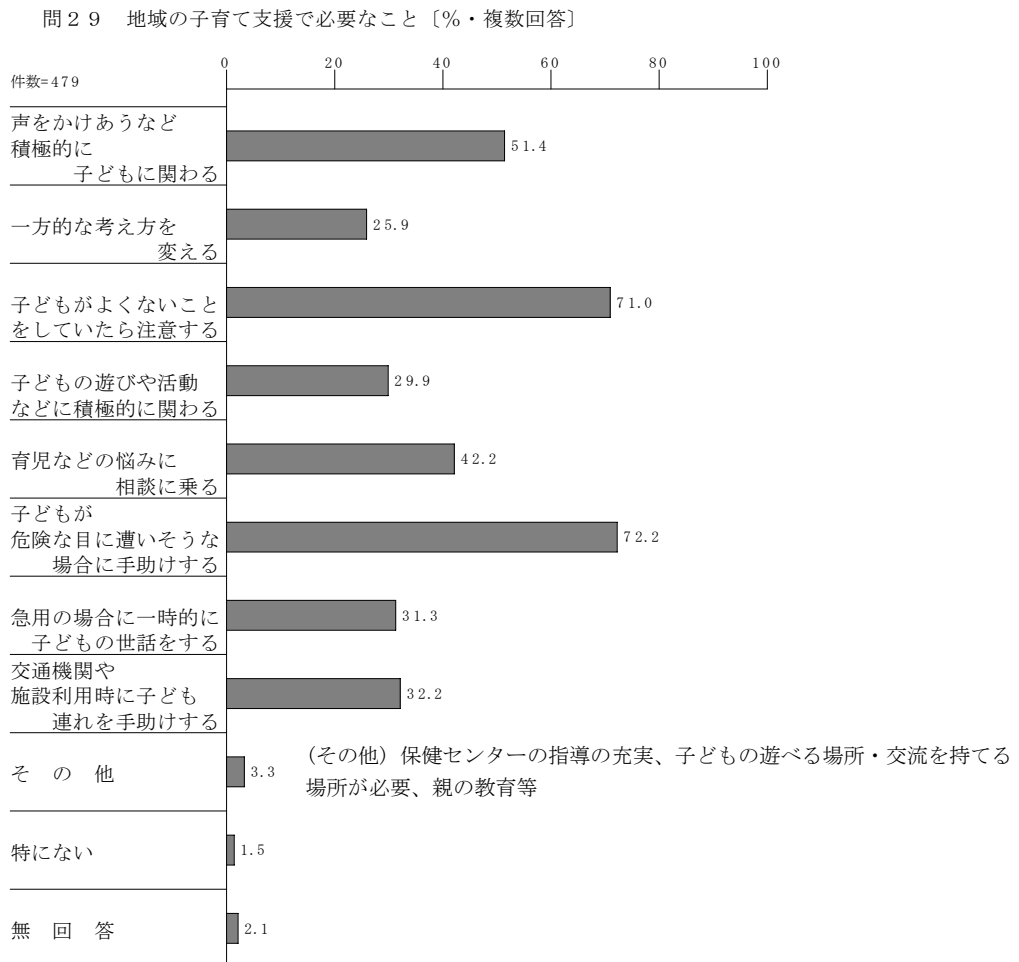


問28 (1) 不満の内容 [%・複数回答]



不満を感じたことが「ある」と回答しているのは、0・1歳児の回答者でやや多くみられる。サービス内容や利用方法がわかりにくいことも関係があるものと考えられる。

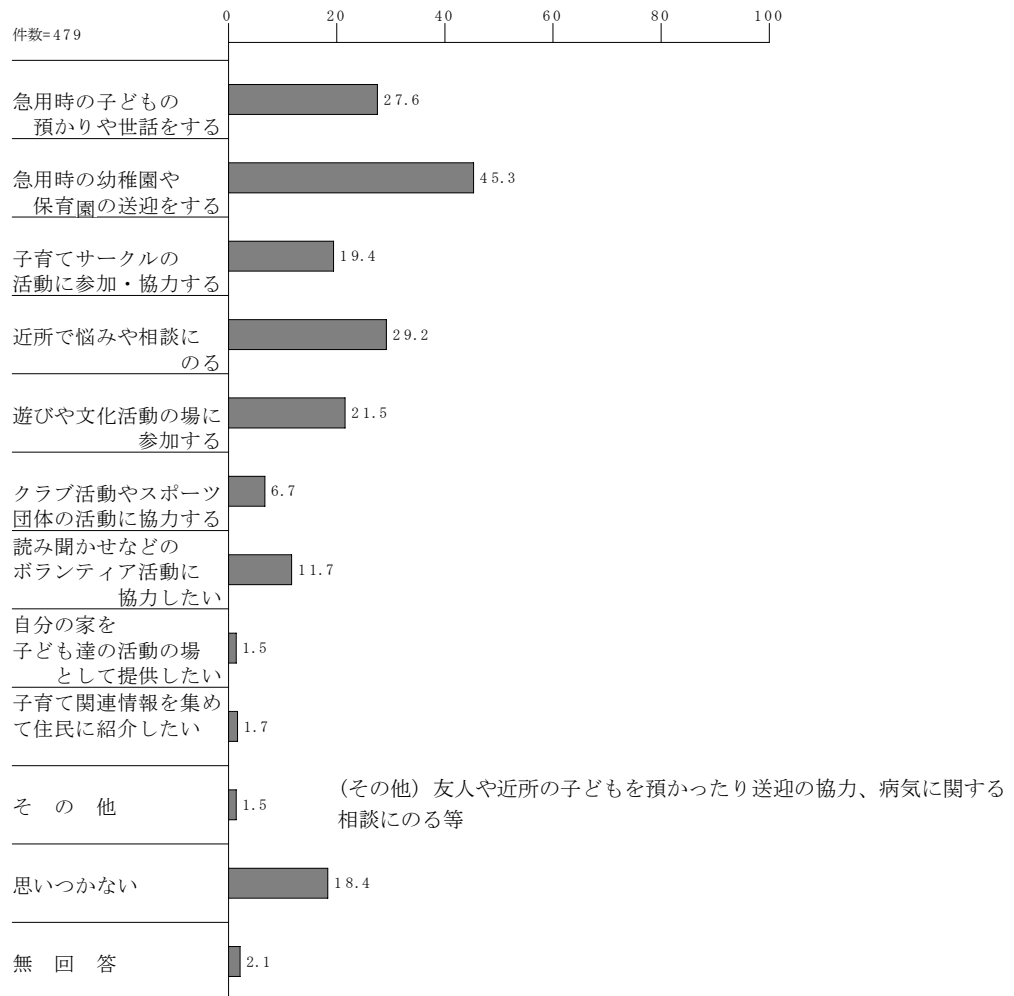
地域の子育て支援で必要なこと ■ 「子どもが危険な目に遭いそうな場合に手助けする」が72%、「子どもがよくないことをしていたら注意する」が71%で、この2つの回答は特に多く、ついで「声をかけあうなど積極的に子どもに関わる」が51%、「育児などの悩みに相談に乗る」が42%回答されており、全般的に回答率は高いといえる。



子どもの年齢や世帯構成でも、同様の回答が得られているが、鷺塚地区の回答者では、「育児などの悩みに相談に乗る」という回答が53%と特に多く回答されている。また、幼稚園利用者では、「急用の場合に一時的に子どもの世話をする」という回答が38%とやや高い。

地域協力の中での自分の役割 ■「急用時の幼稚園や保育園の送迎をする」が45%と最も多く回答されており、ついで「近所で悩みや相談にのる(29%)」と「急用時の子どもの預かりや世話をする(28%)」が同程度で続いている。

問30 地域協力の中での自分の役割 [%・複数回答]

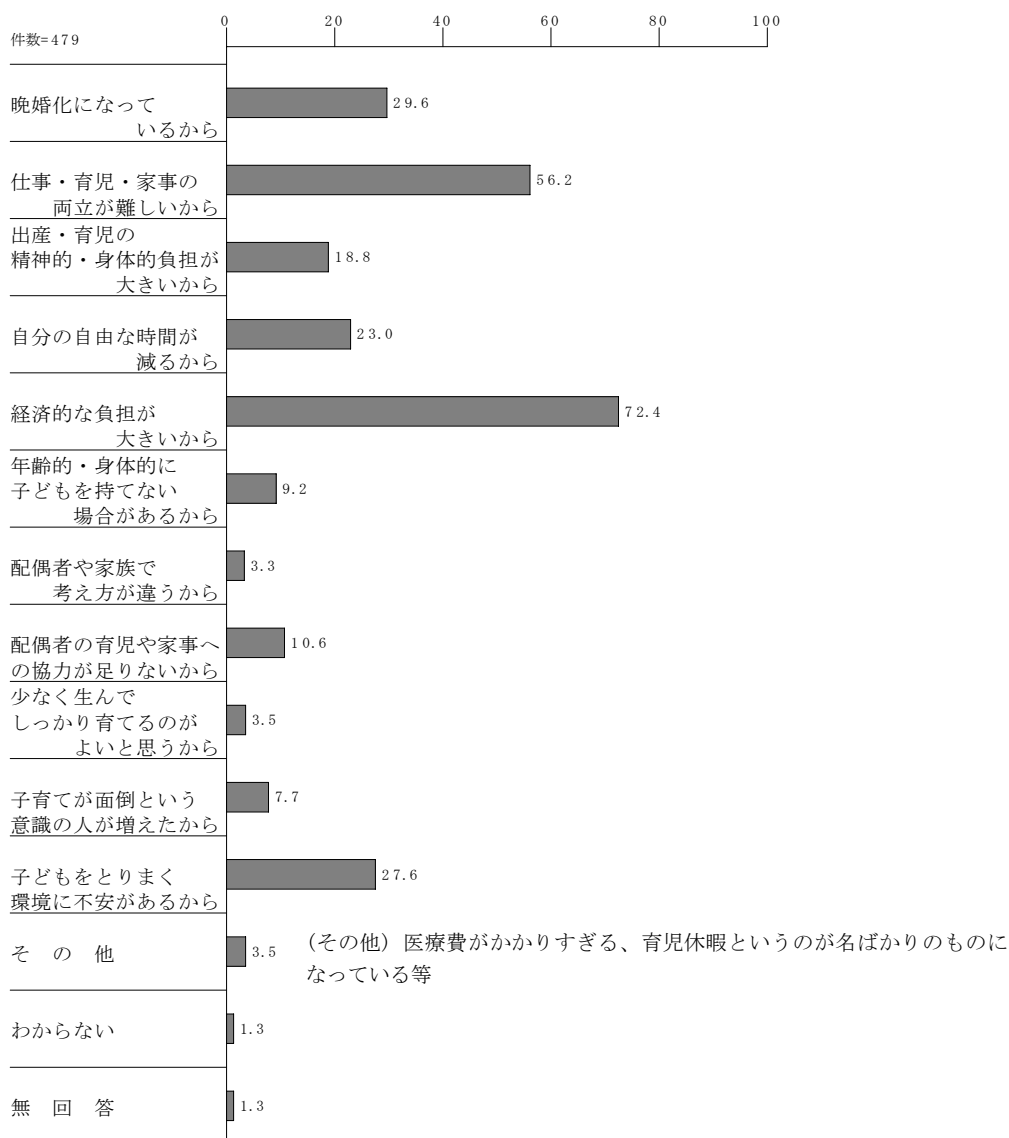


「急用時の幼稚園や保育園の送迎をする」ことは、3歳児以上の回答者と幼稚園利用者で多く回答されており、それぞれ50%を超えている。4人以上子どもがいる世帯は少数だが、「急用時の子どもの預かりや世話をする」「子育てサークルの活動に参加・協力する」「近所で悩みや相談に乗る」などの回答率が高い。

⑤ 子育て等に関する考え

理想より子ども数が少ない理由 ■「経済的な負担が大きいから」が72%と特に多く回答されており、ついで「仕事・育児・家事の両立が難しいから」が56%で続いている。

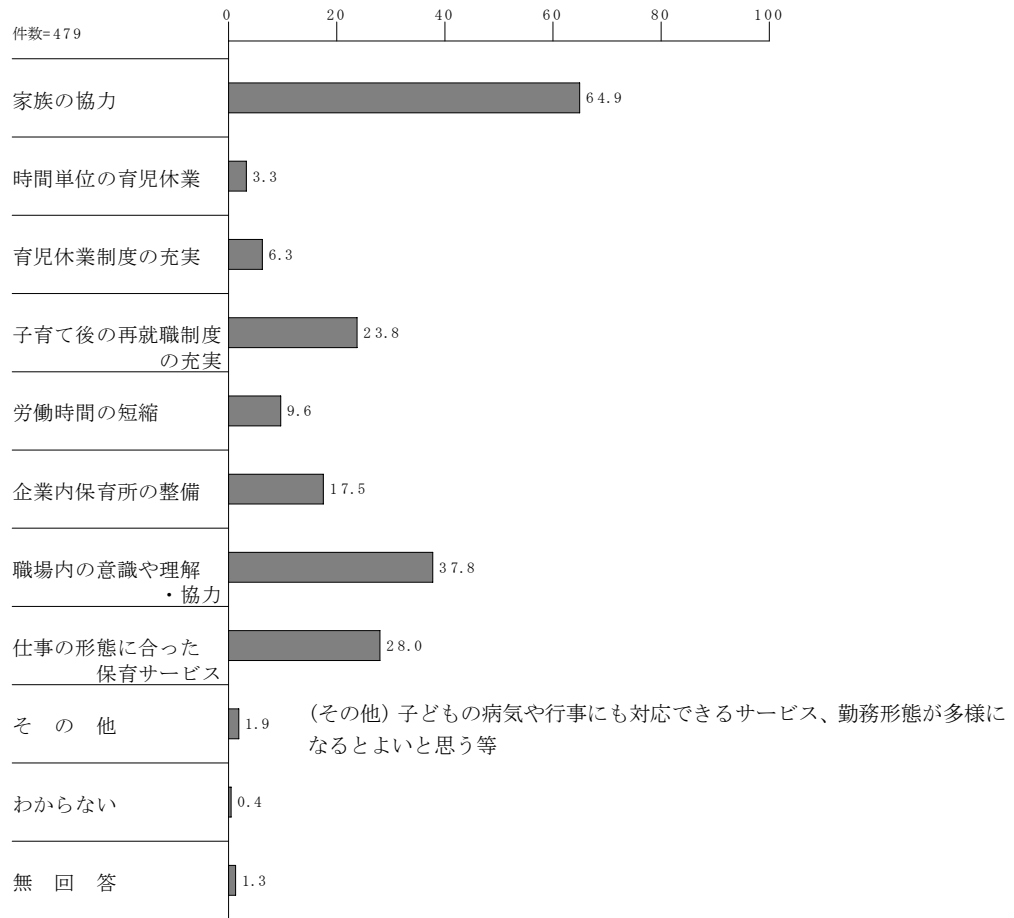
問31 理想より子ども数が少ない理由 [%・複数回答]



子どもの年齢や家族構成、保育先、就業状況などによる差異はみられない。

仕事と子育ての両立に必要なこと ■ 「家族の協力」が65%と特に多く回答されており、その他では「職場内の意識や理解・協力」が38%、「仕事の形態に合った保育サービス」が28%、「子育て後の再就職制度の充実」が24%回答されている。

問3 2 仕事と子育ての両立に必要なこと [%・複数回答]

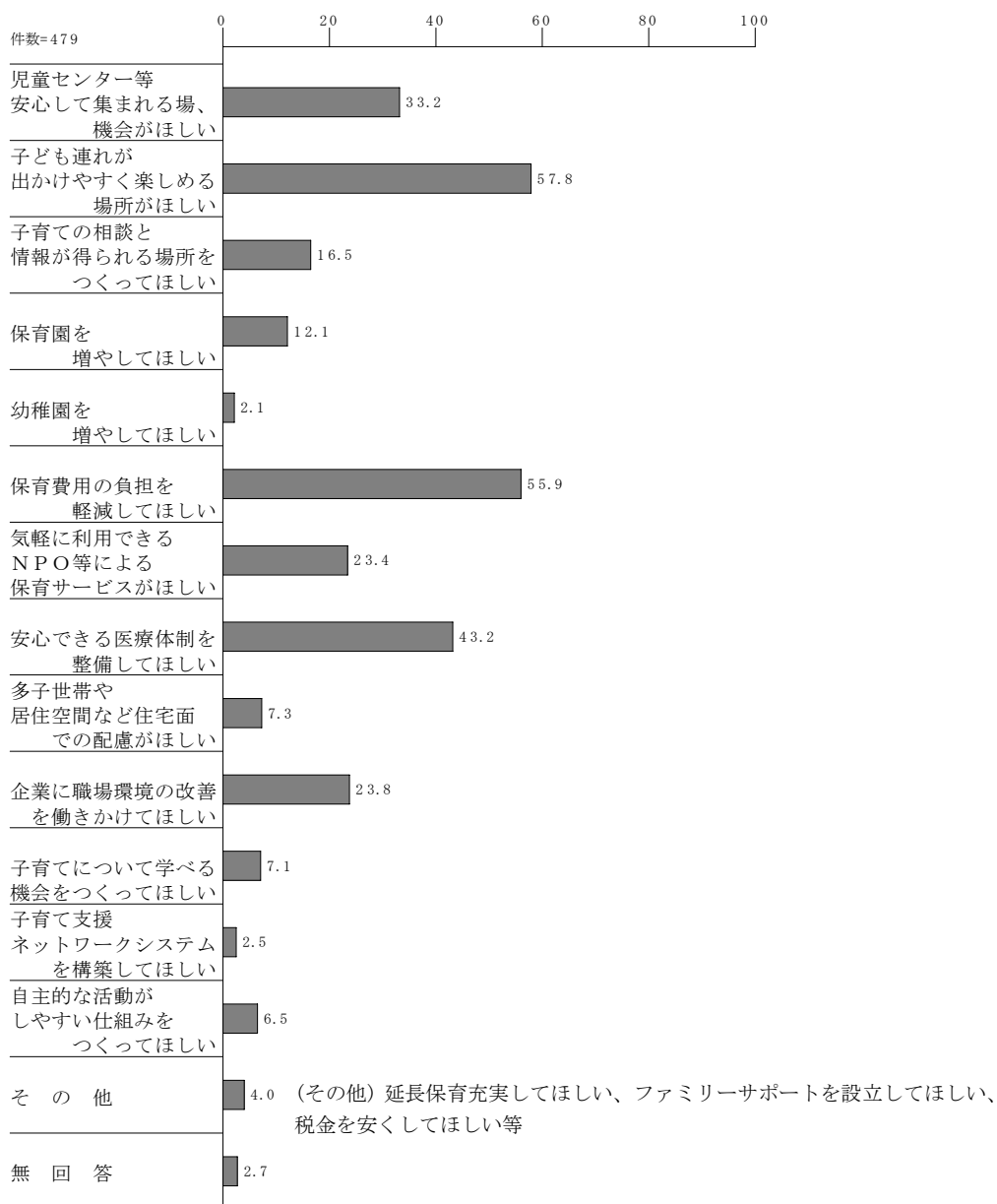


保育園利用者は、「家族の協力」について回答率がやや高いといえる。親子のみ世帯や非共稼ぎ世帯の方が、「子育て後の再就職制度の充実」を多く回答しており、同居世帯・共稼ぎ世帯の回答者よりも10%弱高い。

⑥ 子育て支援施策の充実

子育て支援施策の充実 ■ 「子ども連れが出かけやすく楽しめる場所がほしい」が58%、「保育費用の負担を軽減してほしい」が56%とともに回答が多く、ついで「安心できる医療体制を整備してほしい」が43%となっている。

問33 子育て支援施策の充実〔%・複数回答〕



子どもの年齢による差異はさほどみられないが、「保育費用の負担を軽減してほしい」という回答は、子どもの年齢が上がると低下している。子どもが4人以上の回答者は少数だが、「気軽に利用できるNPO等による保育サービスがほしい」や「多子世帯や居住空間など住宅面での配慮がほしい」という回答が多くみられる。最も回答の多い「子ども連れが出かけやすく楽しめる場所がほしい」という回答は、棚尾地区の回答者で69%となっている。「保育費用の負担を軽減してほしい」という回答は、西端地区の回答者で70%と高く、土・日曜日の保育希望者でも回答が多い。「気軽に利用できるNPO等による保育サービスがほしい」という回答は、保育園利用者よりも幼稚園利用者の方が割合は10%弱高く、土曜日の保育希望者でも多く回答されている。